

教育學

白梅書屋藏版

再版

教	育	學
一	一	一
學	縣	濱
校	中	州

修二著

月	書	種	函
日	入	號	番
日	號	別	號

版



白梅書屋
之印

教育學

伊澤修二著

白梅書屋藏版

教育學序

題外

知行兩全。支那人既嘗之矣。至於強體之教。未嘗言之也。然則支那之教育。得三分之一。西國之教育。得三分之二矣。夫教育之法。既有一分之贏。而理化諸科。又居最勝之地位。吾儕欲不取法於西國。得乎哉。然而國之地勢人情。異乎東國之地勢人情。至於政體風俗。亦然。審其同異。較其得失。變而通之。非達識通才之士。不能也。嗚呼。教育之事。豈可輕言哉。偏於修德。則陷固陋迂闊。偏於達智。則陷輕薄狡黠。偏於強體。

則陷_二粗暴鄙野。況於_三其管理之法。授業之術。其巧拙有_二萬般之異乎。是吾儕所以日夜思之而未得也。同僚伊澤君。頃著_二教育學一卷。徵序於余。君學_二教育之法於米國。業成而歸。長_三師範。覺者數年。若君實兼_二學與教者。然則其著書之親切適當。固不待言焉。世之爲_二教官者。以此書爲指鍼。以泛_二教育之學海。則雖遇_二七日大霧。必能明辨_二航路。而莫有_二摧舵折楫之患矣。抑余別有所_二憂焉。方今政府之用力於教育。可謂_二勉矣。而民之無_二恒產者。不便_二於施教育。而甕牖繩樞之

學_二彥子。未_二至明得教育之益。是以言及_二學資之微聚。所在_二猶聞_二囂々咨嗟之聲。若此者。宜_二以何術救之。惟在_二當_二其任者。不_二專恃_二法律。特以_二一片誠心。感_二孚其民耳。余序_二教育學之言。若_二是。君無_二尤其涉_二他岐。則幸矣。

明治十六年七月東京西村茂樹撰



彥報中
學教育學序



三育之說。爲泰西近日之定說。余曰是古之道也。知仁勇。夫子之所雅言。三達德。子思之所開示。亦此而已。特彼就其所育之體。而爲別。此期其所育成之功。而立言。是爲異耳。夫知發於智。育固不待辨。仁爲衆善之長。以爲德育之成功。無復容疑。唯以勇爲體育之效。人未必釋然可之。今夫一檠之燈火。煌々爛々。莫所不照。是光之明也。燄白影靜。不生煙煤。不結葢花。是光之美也。二者或兼或否。猶仁者之與智者。各異其

趣也。然而燈火所以致明且美者。莫不資乎缸之潔與油之淨焉。是猶仁知之所以能致其曲者。莫不資於身體之健康。志氣之充實也。有人於此。觀理能明。持志能誠。則何爲而不成。然而臨事之際。趑趄顯乎其貌。沮喪表乎其色。如此者何也。莫非必有羸困惰慢之氣。先爲之病根。而後然焉。故勇敢果決。必由志氣之充實。志氣之充實。必由體氣之活潑。徵諸人之老少。亦可觀也。孔門教人以六藝。而射御卽爲育體養勇之具。可識古人養勇。非強心襲取之謂也。余故

曰。三育之說。古之道也。吾友伊澤君所著教育學。分篇以三育。各舉其項要。論辨明晰。且若智德二篇。參以性理。以審其源委。可謂能踐孔孟之迹。而臻其精微矣。學者果能以大舜期智育。以顏子期德育。以子路期體育。而以顏子之短命與子路不得其死。然自戒。則彼我丈夫也。其造詣固將不測矣。是聖人之謨也。世之以教育自任者。以其爲今人之著作。是不之察。而可乎哉。

明治十六年十月

西

周



教育學

緒言

數年前余官命ヲ奉シテ米國ニ航シマヽサナセツン二洲アリ。デウ、イートル二師
範學校ニ在留シテ教育ノ學ニ從事セタリシカ當時該校長エ、ジ、ボエテ
ン君親シ生徒ニ心理學及教育學ヲ講授シ余亦其末班ニ在リテ聽講ノ
益ヲ得隨聽隨記スル所語々一小冊子ヲ成ス。至レリ余歸朝ノ後偶々
東京府下教員等ノ懇請アルニ會シ乃者筆記セシ所ノ題目ニ基キ勞ヲ
諸君ヲ參考セテ心理學上ヨリ教育ノ大要ヲ講述シ以テ諸子ノ望ヲ滿
タシタリキ今余カ後隔ヲ顧ニス敢テ一部ノ教育書トシテ之ヲ公行ス
ルノ微意ハ本邦未ダ心理及教育ノ學ニ基キテ教育ノ理ヲ説キタル著
書アラザルヲ以テ世ノ教育ニ志ス徒ノ爲メ聊其指針タルノ用ニ供セ
ントスルニ在ルナリ

抑心理ノ學タル其理頗ル高妙幽微ニ涉リ古今諸大家ノ說ヲ所一軌ニ歸着セラルモノ多シ殊ニ近年ニ至リテハ理學諸科皆舊來ノ面目ヲ變改シ漸ク新說ヲ主張スル者少カラズ心理ノ學ノ如キモ亦自ラ新奇ノ說ナキニ非スト雖ハ斯ノ如キ理論ハ多ク哲學家若クハ理學家ノ幽微ヲ探リ毫厘ヲ争フノ類ニ屬シ其異同ノ辨ノ如キハ實地教育ニ影響ヲ及ホスヲ蓋シ鮮シ故ニ本書ハ新古ニ拘泥セス繁ヲ去リ約ニ就キ可及的理論硬疑ヲ避ケ心理ノ大要ヲ說キ以テ教育ノ理法ニ通曉セシメソフチ務メタリ

理學者クハ哲學ニ用フル所ノ學語ニ適當ノ譯字ヲ下ダスヲ甚ダ難シ然ルニ心理ノ書ハ幸ニ我先覺西周先生ノ譯述アルヲ以テ本書中ニハ多ク同氏ノ撰定ニ係レル譯字ヲ要用セリ然レモ間々私見ヲ以テ作りタル譯字ノ錯出スルモノモ亦少カラサルヲ以テ怨末ニ英和對譯ノ分

類表ヲ附シ以テ學者講習ノ便ニ供スルモノナリ

明治十五年八月

著者 誌

教育學

目次

第一篇 總論

第二篇 智育

發端 物我ノ別心ノ定義、智、情、意ノ區分及

關係

第一章 直覺力

第一 必須普有ノ觀念

(甲)×(乙) 存在ノ觀念

(丙)×(丁) 空間ノ觀念

時間ノ觀念

人體同一ノ觀念

一 五

五

七

七

七

八

九

十

第二 必須普有ノ觀念ハ直覺ナルヲ論

※

十一

第二章 表現力

十二

第一 外覺性

十二

(甲) 感覺及感覺器ノ定義各種ノ感覺器

器

十二

(乙)(丙) 形質ノ定義及種類

十六

外覺性ノ定義

十九

第二 內覺性

十九

第三 表現力ノ定義—教育上ノ價值

二十

第四 五官教養ノ法及其要ヲ論ス

二十一

第五 結論

二十五

第三章 再現力

二十六

第一 必結

二十七

第二 妄想

二十七

第三 記性

二十八

(甲)(乙)(丙)(丁)(戊)

記性ノ定義

二十八

思想ノ伴生

二十九

記性ノ類別及用法ヲ論ス

三十一

記性教養ノ法ヲ論ス

三十五

記性ノ教育上ノ價值

三十七

第四 想像

三十九

(甲)(乙) 想像ノ定義

三十九

(甲)(乙) 想像ノ種類

四十

第四章	(丁)(丙)	(寅)(丑)(子)	美術上ノ想像	四十
			理學上ノ想像	四十四
			讀書上ノ想像	四十五
			想像力養成ノ法ヲ論ス	四十七
			想像力ノ教育上ノ價值	四十八
第一	(甲)		省察力	四十九
			反射即チ思想	四十九
	(乙)		思想ノ定義及方法	五十
第二	(甲)		比較、抽象概括及彙類ノ法	五十一
	(乙)		概念	五十四
	(甲)		概念ノ定義及名稱	五十四
	(乙)		概念ノ關係	五十五

	(丙)	(丑)(子)	概念ノ物體ニ對スル關係	五十五
			概念ノ相互ニ對スル關係	五十七
			概念ノ階級	五十九
			屬及種ノ別	六十一
			屬差及種差	六十二
	(丁)	(丑)(子)	論理的分類法	六十四
			分類ノ規則	六十六
			分類ノ用法	六十九
			概念ノ定義	七十
			概念ノ論理の定義	七十一
			論理の定義規則	七十一
			定義ノ教育上ニ要用ナル所以	七十一

第三 辨決

ヲ論ス

七十八

(甲) 辨決ノ定義

七十九

(乙) 辨決ノ原行

八十

(丙) 辨決ノ種類

八十

(子) 肯定及否定

八十

(丑) 全決及特決

八十一

(丁) 辨決ハ主意ニ就キ何者ヲ表明スル乎

八十一

第四 論辨

(甲) 論辨ノ定義

八十二

(乙) 論辨ノ種類

八十三

八十五

第三篇 德育

第一章 情性

九十七

第一 情ノ定義及種類

九十七

第二章 情緒

九十九

第五 省察力ノ定義

九十五

子論ス 論辨力ノ教育上ニ要用ナル所以 九十四

(丙) 論辨力ノ教育上ニ要用ナル所以 九十四

(辰) 蓋然論辨 九十二

(卯) 指斥論辨 九十一

(寅) 演繹論辨 九十

(丑) 酌例論辨 八十八

(子) 歸納論辨 八十五

第一	本能上ノ情緒	百
(甲)(乙)(丙) 第二	喜	百
	憂	百一
	同感	百二
(甲)(乙)(丙)(丁) 第三章	道理上ノ情緒	百三
	笑樂	百三
	美妙	百五
	高妙	百六
	自得及悔恨	百六
第一	情款	百七
(甲) 第三章	善惡ノ情款	百八
	親族及朋友ノ愛	百八

第二	本國ノ愛	百十
(乙)(甲) 第二	惡意ノ情款	百十一
	怒	百十一
(甲)(乙)(丙) 第四章	忌嫉	百十二
	報復	百十四
	欲	百十五
第一	嗜欲	百十五
(甲)(乙) 第一	飲食等	百十五
	休憩及睡眠	百十六
	願望	百十八
	生存	百十八
(甲)(乙) 第二	富有	百十九

第四	(乙)(甲)	人ハ道理ヲ有スルヲ以テ撰擇ノ	百三十
第三		撰擇力	百廿八
第二		意志ノ在リテ緊要ナル二原質	百廿八
第一		意志ノ定義	百廿七
第五章		意志	百廿六
第三	(己)(戊)(丁)(丙)	希望及恐懼	百廿四
		社交	百廿三
		尊敬	百廿二
		權勢	百二十
		學識	百十九

第五		實ニ任セサル可ラサルヲ論ス	百三十一
第六		立志ノ法ヲ論ス	百三十三
第七		人品造成ノ法ヲ論ス	百三十四
第八		志向ト人性トノ關係ヲ論ス	百三十六
第九		結論	百三十七
第六章		本性ノ定義	百三十九
第一		習慣	百三十九
第二		諸種ノ感情ト習慣トノ關係	百四十
第三		善美ナル習慣ヲ作ルヘキヲ論ス	百四十二
第四		細行ノ勢力	百四十三
第四篇		習慣ト時間トノ關係	百四十四
		體育	百四十七

第一章	總論	百四十七
第一	體育ノ目的	百四十七
第二	體育ノ理論	百四十七
第三	體育ノ方法	百四十八
第二章	身體ノ成育保全ニ關スル所ノ要 項ヲ論ス	百四十九
第一	食物	百五十
(甲)	食物ノ類別	百五十
(乙)	食物ノ調和	百五十二
(子)	食物調和ノ比例	百五十四
(丑)	脂肪質食物ト癆症トノ關係	百五十五
(丙)	食量	百五十八

第二章	衣服	百六十一
(甲)	着服ノ目的	百六十一
(乙)	用品ノ種類	百六十二
(丙)	衣服上ノ注意	百六十六
第三章	住居	百六十九
(甲)	空氣ノ作用	百六十九
(乙)	沼氣ノ毒性	百七十一
(丙)	不淨空氣ノ感勞	百七十二
(丁)	通氣法	百七十四
第三章	運動	百七十七
第一	運動ノ理法ヲ論ス	百七十七
第二	運動ノ種類方法ヲ論ス	百七十九

(甲)	自由運動	百七十九
(子)	一般運動	百八十
(丑)	急劇運動	百八十一
(寅)	雜種運動及技術	百八十二
(乙)	規定運動	百八十五
(子)	規定運動ノ目的	百八十六
(丑)	操法ノ種類	百八十六
	徒手演習	百八十七
	器械演習	百八十七
第三	運動ノ各系統ニ及*ス所ノ効驗	
→論*		百九十
(甲)	筋肉系統	百九十

附錄

英和對譯分類表

第四章	(己) (戌) (丁) (丙) (乙)	靜息	百九十四
第一		休憩	百九十五
第二		睡眠	百九十七
		神經系統	百九十三
		榮養系統	百九十二
		皮膚系統	百九十一
		呼吸系統	百九十一
		血行系統	百九十一

教育學

第一篇 總論

伊澤修二述

教育トハ何
ツヤ

教育トハ何ツヤ曰ク完全ナル人物ヲ養成スルノ術ナリ人物
即チ人トハ何ツヤ身體ト精神トノ二者ヨリ成立シテ其靈萬
物ニ長タルモノナリ今之ヲシテ完全ナル人物ヲラシメシム
ハ其心力ト體力トヲ育成スルノ術即チ教育ヲ施サ、ル可ラ
ス

縱令ヒ其心力ト體力トヲ育成スルモ之ヲ應用スルノ才能ナ
クハ猶之ヲ育成セサルガ如シ又之ヲ應用スルハ正邪ノ二道
アリ苟クモ正道ニ就シニ非スハ亦何ノ益アラン

精神上ノ教育

智育

身體上ノ教育
即チ體育

故ニ教育トハ人ノ心カト體カトヲ育成シ其諸力ヲ正道ニ應
用スルノ才能ヲ得セシムルノ謂ヒニシテ即チ完全ナル人物
ヲ養成スルノ術ナリト云フヘシ

精神上ノ教育即チ心カヲ育成スルハ心理學ノ論スル所ニシ
テ其目的タルヤ各種ノ心カ發育ノ方法秩序等ヲ期ムルニ在
ルナリ

精神上ノ教育ハ通常分テ二トス專ラ智心ノ教養ニ關スルモ
ノ之ヲ智育ト云ヒ專ラ徳性ノ教養ニ關スルモノ之ヲ德育ト
云フ

身體上ノ教育即チ體カヲ育成スルハ體育學ノ專科ニ屬スル
所ニシテ其目的ヨルヤ支體ヲ發育シ器機ヲ完成シ以テ精神
ノ舍ル所ノ家里即チ身體ヲ強健ニシテ心カ發育ノ基ヲ爲ス

結論

ニ在ルナリ

以上心身上ノ諸力教養ノ目的ヲ述センニハ其手段如何シテ
可ナルヤ唯適當ナル各種ノ學科ヲ用ヒテ其諸力ヲ煥發培育
スルニ在ルノミ

凡ソ教育ノ事ヲ學ハントスルモノハ須ク其源ヲ溯リ其根ヲ
探リ以テ人物陶冶ノ妙理ヲ悟ルコトヲ勉ムヘシ然シテ精神上
ノ教育ハ之ヲ心理學ニ基キ身體上ノ教育ハ之ヲ體育學ニ基
シテ既ニ述フルカ如クナルヲ以テ今章ヲ逐ヒ篇ヲ重テテ其
大要ヲ論述ス可シ

第二篇 智育

發端 物我ノ別、心ノ定義、智、情、意ノ區分及關係

物我ノ別

吾人天地ノ間ニ生存シテ經驗識了スル所ノ事物千殊萬別殆
ント其數ヲ知ラスト雖モ之ヲ約スレハニニ過キス曰ク物曰
ク心是ナリ或ハ物我ノ二者ニ分テ或ハ外界内界ト稱シ或ハ
客觀主觀ト云フ等唯其見ル所ニヨリテ稱呼ヲ異ニスルニ過
キサルノミ

何チカ物ト云フ鳥、植、礦物、星辰等ノ如ク形ノ感スヘキナルモ
ノ是ナリ

何チカ心ト云フ靈妙不測ニシテ形ノ感スヘキナク其何タル
殆ント知了ス可ラスト雖モ唯其發動ニ就テ推究スルハ大

網三種ノ能力ヲ兼有スルモノナリ

爰ニ一幅ノ畫アリ余之ヲ見テ其描寫セル景色ノ佳絶ムレ
 ナ設色亦優雅ナルヲ知ル。是レ心ノ能力ノ第一種ナリ余其
 畫ノ佳絶優雅ナルヲ喜ビ大ニ感ス。是レ其能力ノ第二種ナ
 リ余曠賞ノ餘之ヲ買フヘキヤ否ヤト二途ニ思接セ運ニ意
 ナ決シク之ヲ買フノ途ヲ撰ヒタリ。是レ其能力ノ第三種ナ
 リ斯ノ如ク心ノ能力上ヨリ見解ヲ下スキハ左ノ定義ヲ作
 ルヲ得ヘシ

心ノ定義

心ハ人ニ在リテ知リ感シ撰フ所ノモノナリ

人ノ心力ノ變動變化タル殆ト窮極ス可ラスト雖ル上ノ定義
 ニ随フテ之ヲ三種ニ分類セ各其名ヲ命スルヲ得ヘシ

智情意ノ 區分

第一 知ル所ノ心力之ヲ名ツケテ智ト云フ

智情意ノ 關係

第二 感スル所ノ心力之ヲ名ツケテ情ト云フ

第三 擇フ所ノ心力之ヲ名ツケテ意ト云フ

先キニ余カ大ニ彼畫ヲ曠賞セシハ其佳絶優雅ナルヲ知リタ
 ルニ由レルナリ又余カ之ヲ買ハント決スルニ至リシハ既ニ
 其名畫ナルヲ知リ且大ニ感スル所アリシニ由テナリ故ニ見
 ルヘシ適當情ハ素ト智ニ由テ生シ意ハ智ト情トニヨリテ發
 スルモノナルナ

第一章 直覺力

第一 必須普有ノ觀念

(甲) 存在ノ觀念

存在ノ觀念

既ニ前章ニ於テ智ハ知ル所ノ心力ナリト云ヘリ然レハ先ツ知ルトハ何事ナルカヲ解説セサル可ラス抑知ルトハ知ラルヘキ物ト知ル所ノ者トノ存在ヲ認識スルノ義ナリ

我一箇ノ橘子アルヲ知ル

今我ナル者ト橘子ナル者ト存在スルニ非レハ彼知者モ知者モナク隨テ其關係モ無キ道理ナリ故ニ知ルト云フコノ與ツシハ先ツ第一ニ知者(我)ト被知者(橘子)トノ間ニ存在ナル觀念無カル可ラス

(乙) 空間ノ觀念

空間ノ觀念

既ニ存在ナル觀念アリテ物(橘子)ノ存在ヲ確認センニ其那處ニ存在スルカヲ思ヘハ必ス空間中ニ在ラサルヲ得ス於是乎

時間ノ觀念

空間ナル觀念アリ凡ソ物ハ長(廣)厚ヲ有シ其存在スルヤ必ス空間ヲ充キ、ルヲ得ス故ニ空間ナル觀念ハ物ノ存在ナル觀念ト相離ル可ラサルモノナリ

(丙) 時間ノ觀念

我前キノ橘子ヲ取り先ツ其外皮ヲ剥キ次ニ其内皮ヲ去リ終ニ之ヲ喫ス

我先ツ彼橘子ヲ取り次キニ何事ヲ施シ終ニ何事ヲ爲センヤヲ認識センニハ其之ヲ取りタルヨリ之ヲ喫スルニ至ル間ノ連續ヲ思ハサル可ラス於是乎時間ノ觀念アリ故ニ凡ソ事件ノ發作、運動、變化等ノ連續ト時間ノ觀念トハ相待テ離ル可ラサルモノナリ

人體同一ノ
觀念

(丁) 人體同一ノ觀念

我儒子ニ就キテ始終施セシ所ノ諸ノ行爲ヲ覺ツ然レハ前ニ
之ヲ取リヨル我ト後ニ之ヲ曠シタル我トハ同一ナラサルヘ
カラス若シ同一ナラザラフニハ之ヲ覺ヘ居ル道理ナカルヘ
シ斯ノ如ク我同一ナルヲ覺フルチ人體ノ同一ト云フ蓋シ人
體ノ同一トハ我即チ精神ナルモノ、終始不變ナル觀念ヲ云
フナリ

以上歴學セシ所ノ存在、空間、時間、人體同一ナル四者ハ之ヲ稱
シテ必須普有ノ觀念ト云フ是レ物我ヲ知ルニ於テ必ス先ツ
無ル可ラザル所ノモノナリ

〔注意〕或ル哲學士ハ之ニ數及類似ノ二者ヲ加ヘ又他ノ學士

彦報中
校印

必須普有ノ
觀念ハ直覺
ナリ

ハ之ニ因縁、美妙并正直ノ觀念等ヲ加フト雖也今姑ク之ヲ
論セス

第二 必須普有ノ觀念ハ直覺ナルヲ論ス

抑必須普有ノ觀念ナルモノハ經驗上ヨリ來レルヲ將テ直覺
ニ屬シ先天ヨリ誰知セルモノカノ問題ニ至リテハ諸家ノ說
大ニ異同アリト雖也先ツ直覺ニ屬スルノ說ヲ以テ其當ヲ得
タルモノトスヘシ何トナレハ凡ツ經驗ヲ行フニハ先ツ資テ
以テ之ヲ行フノ基本トナスヘキモノナカル可ラス然レテ其
基本トナスヘキモノハ必須普有ノ觀念ヲ措テ他ニ求ム可ラ
ザレハナリ

第二章 表現力

第一 外覺性

(甲) 感覺ノ定義及各種ノ感覺器

吾人萬般ノ知識ハ皆其始メ外物ヨリ得來ルモノニシテ心ハ外物ノ表現ニコリテ始メテ發動スルモノナリ而シテ外物ノ心ニ表現スルノ法ハ其物ト機器トノ位置恰モ心ニ衝動ヲ傳ヘテ之ニ一種ノ變化ヲ生スヘキ關係ヲ有スルヲ要ス例ヘハ余彼書ヲ見ルルハ心ト機器眼ト物畫トノ關係次圖ノ如クナルヘシ

心——機器(眼)——物(畫)

爰ニ一個ノ鉛筆即チ外物ヲ取リテ手掌即チ機器ヲ撞突スル

外物ノ心ニ表現スル方

感覺ノ定義

報中
報中
報中

感覺器ノ定義

感覺器ノ種類

觸官

視官
聽官

ルハ心ニ一種ノ變狀ヲ呈ス之ヲ名ケテ感覺ト云フサレハ感覺ハ外物ノ我機器ヲ衝動スルニ當リ心ニ印スル所ノ變狀ナリト云フヘシ

上ノ例解ニ於テ手掌ノ皮膚ハ感覺器ナリ然レハ感覺器ハ外物ノ衝動ヲ心ニ傳ヘ吾感覺ヲ得ルノ媒介トナルモノナリト云フヘシ

感覺器ハ觸、視、聽、味、嗅ノ五官ヨリ成レリ今之ヲ詳説スレハ左ノ如クナルヘシ

觸官ニ特異通有ノ二種アリ

特異觸官ハ指頭舌頭等ノ球神經ト腦ヨリ成リ通有觸官ハ全體ノ皮膚ニ配布セル感神經ト腦ヨリ成レリ

視官ハ視神經ト腦ヨリ成リ聽官ハ聽神經ト腦ヨリ成リ味官

嗅官
各官ヲ街動
スル物

觸官ニヨリ
ヲ知リ得ル

ハ味神經ト腦ヨリ成リ嗅官ハ嗅神經ト腦ヨリ成レリ
次ク各官ヲ街動スルハ何物ナルカヲ述フヘシ觸官ヲ街動ス
ルモノハ實體及熱ナリ視官ヲ街動スルモノハ光線ナリ聽官
ヲ街動スルモノハ鳴動體ナリ味官ヲ街動スルモノハ味ヲ有
スル所ノ液體ナリ嗅官ヲ街動スルモノハ香氣ト稱スル所ノ
瓦斯體ナリ
爰ニ一個ノ桃子アリ吾手ヲ以テ之ニ觸レ吾筋力ニ抗スル者
アルニ遇ヒ或ル外物ノ存在スルヲ知ル又之ヲ壓シテ收縮ス
ルハ其柔ナルヲ知リ收縮セザレハ其堅キヲ知ル是レ畢竟
筋力ニ抗スル度ノ差異ヲ呈スル者ニシテ斯ノ如キ感覺ハ或
ハ別ニ筋肉ノ感トシテ之ヲ論シ或ハ觸官中ニ包括スルモノ
トシテ之ヲ論セリ

視官ニヨリ
ヲ知リ得ル
聽官ニヨリ
ヲ知リ得ル
味官ニヨリ
ヲ知リ得ル
嗅官ニヨリ
ヲ知リ得ル

今吾手ヲ以テ彼桃子ヲ摩スルニ其面凹凸少キハ滑ナリト
云ヒ凹凸多キハ粗ナリト云フ又其熱少キハ冷ナリト云
ヒ其多キハ温ナリト云フ是レ皆觸官ニヨリテ知リ得ル所
ノモノナリ
吾彼桃子ノ赤キヲ見テ視官ニ一種ノ感覺ヲ生ス之ヲ名ケテ
色ト云フ是レ視官ニヨリテ知リ得ル所ノモノナリ
吾彼桃子ヲ卓下ニ落スニ聽官ニ一種ノ感覺ヲ生ス之ヲ名ケ
テ音ト云フ是レ聽官ニヨリテ知リ得ル所ノモノナリ
吾彼桃子ヲ食フニ味官ニ一種ノ感覺ヲ生ス之ヲ名ケテ味ト
云フ是レ味官ニヨリテ知リ得ル所ノモノナリ
吾彼桃子ヲ嗅キ嗅官ニ一種ノ感覺ヲ生ス之ヲ名ケテ臭若ク
ハ香ト云フ是レ嗅官ニヨリテ知リ得ル所ノモノナリ

習得ノ知覺

本來五官ノ知り得ル所ノモノ各相異ナルヲ斯ノ如シト雖ニ
 甲官ヲ以テ乙官ニ代用シ甲ノ自ラ知ル能ハサル所ノモノヲ
 推知スルコトアリ例ヘハ陶器ノ光澤アルヲ見テ其面滑ナリト
 云フカ如ク其粗滑ハ元來視官ノ知り得ヘキニ非ス唯觸官ノ
 能ク判知シ得ヘキモノナレトスノ如キ光澤アルモノハ常ニ
 滑ナルヲ以テ假令觸官ヲ假ラサルモ直ニ其滑ナルヲ知ルナ
 リ其他林檎ノ赤キヲ見且其柔ナルヲ感シテ味甘キヲ知リ其
 青キト堅キトニヨリテ其酸キヲ判スルカ如キ皆其例ナリ斯
 ノ如キ知覺ヲ名ケテ習得ノ知覺ト云フ

(乙) 形質ノ定義及種類

形質ノ定義

凡ソ各官ニ衝動ヲ與ヘテ之ヲ識ニ傳ヘ終ニ心ニ一種ノ感覺

ヲ興ス所ノモノ即テ物ノ抗度、熱、色、質、香、味等ノ如キ之ヲ名ケ
 テ物ノ形質ト云フ今其義ヲ定ムレハ物ノ形質ハ物体ニ存シ
 吾人ノ感覺器ニヨリテ其存在ヲ心ニ知ラシムル所ノモノナ
 リト云フヘシ又他ノ見解ニヨルキハ物ノ形質ハ吾人ノ感覺
 器ニヨリテ其存在ヲ心ニ表示スル所ノ方法ナリト云フモ可
 ナリ

形質ノ種類

余一物ノ在ルヲ知ル

一空間ヲ充サ、ルヲ得ス

空間ヲ充ダス以上ハ三面延長無ル可ラス

三面延長アル以上ハ形ト容ト無ル可ラス

既ニ形ト容トアレハ隨テ可分性無ル可ラス

空間ヲ充ダス以上ハ之ヲ圍スルモ無ニ歸スヘカラス

故ニ全ク照滅ヲ可ラサル性ヲ有セサル可ラス
二空間ニ在ラザルヲ得ス

空間ニ在ル以上ハ位置無ル可ラス
又運動性ヲ有セサル可ラス

右ニ歴舉シタル三面延長形容等ヨリ運動性ニ至ル諸形質ノ如ク物ノアル以上ハ必ス無クテ叶ハサルモノヲ稱シテ原形質ト云フ

又色音香味ノ如ク物ノ生存ニ必須トセサルモ唯知覺上ニノニ存スルモノヲ稱シテ次形質ト云フ是レ專ク主觀ニ屬スルモノナリ

又筋力ニ抵抗スル度ノ如ク知覺ニ存スルトモ物ニ屬スルトモ同様ニ知了レ得ヘキモノヲ次原形質ト云フ

原形質

次形質

次原形質

外覺性ノ定義

通観及物観

内覺性

(丙) 外覺性ノ定義

以上諸款論述セシ所ノモノハ皆外覺性ニ屬ス故ニ外覺性ハ形質ヲ有セル物體ヲ感覺器ニヨリテ知覺スル所ノ心力ナリト云フヘシ

凡ソ一種ノ感覺器ニ通シテ爾得スル所ノ形質ノ觀念ヲ通観ト云フ斯ノ如クシテ爾得シタル形質ノ觀念ニ實體ノ觀念ヲ結合セタルヲ物観ト云フナリ

第二 内覺性

本章ニ於テ是迄論シ來リタル所ハ總テ外物ニ關スト雖モ心ハ皆外覺性ニヨリテ外物ヲ知ルノミナラス又吾心中ニ發動

スル必欲ヲ直ニ知ルヲ得之ヲ稱セテ内覺性ト云フナリ

第三 表現力ノ定義—教育上ノ價值

外覺性ト内覺性トヲ包括スル所ノ心カチ表現力ト云フ今其義ヲ定ムレハ表現力ハ一箇ノ心カニシテ心ハ之ニヨリテ外界ノ物ト内界ノ物トヲ心中ニ表現シ以テ其觀察ニ供スル所ノモノナリ

教育上ノ價值

今表現力ハ教育上ニ關シ如何ナル價值ヲ有スルモノナルカチ説カシニ抑人ノ知識ハ其初メ外物ヨリ得來ル丁既ニ論述セルカ如クナレハ其外物ヲ知覺スルノ心カ即チ外覺性ヲ養成スルニ非レハ何ノ途ニヨリテ智識ヲ收メ來ルヘキカ決シテ他途アラサルヘシ又外覺性ハ人生知識ヲ得ルノ初歩ナレ

五官教養ノ法及其要

ハ其發育特ニ幼時ニ在リテ最モ盛ナリトス故ニ幼少ノ時期ニ於テ適當ナル方法ヲ用ヒ能シ其教養ヲ務ムルニ非レハ終ニ發育ノ權ヲ返リ復タ眞贖ヲ得ル能ハセルニ至ルヘシ是初等ノ教育ニ於テ最モ外覺性ノ養成ヲ要スル所以ナリ

第四 五官教養ノ法及其要ヲ論ス

外覺性ヲ養成スルハ如何ナル方法ニ依ルヘキカ外物ニ接セシムルノ外他途アルコトナシ然シテ外物ニ就テ知ル所ハ物ノ形質ト實體トノ觀念ニ過キス又其形質ナルモノハ各自特殊ノ感覺器ニヨリテ之ヲ心ニ通スルヲ得ヘキモノナリ例ヘハ聽官ハ音ヲ通スルノ外色ヲモ香ヲモ傳フル能ハス視官ハ色ヲ傳フルノ外臭味等ノ如キハ傳フル能ハサル等既ニ論述セ

視官

シカ如レサレハ各官ヲ養成スルノ法亦随テ殊別ナラザル可
 ラス今諸官教養ノ方法ヲ左ニ列記スヘシ

視官ヲ教養スルハ色ナル形質ニ非レハ能ハス完備ナル小學
 ノ教科ニ色彩ノ課ヲ設クルハ主トシテ該官ヲ教養スルノ目
 的ニ出ルモノナリ然シテ視官ノ養成ハ要用ナルカノ疑問ニ
 對シテハ余カ喋々ヲ要セスト雖モ茲ニ其大畧ヲ述シニ若レ
 全ク視官ノ教養ヲ欠クハ世界ハ無色ノ一塊ニシテ色盲人
 ノ萬物ニ於ルカ如ク物体皆無風色ヲ帯ヒ恰モ風色ノ眼鏡ヲ
 掛ケテ世界ヲ通視スルノ想ヲナキニ我等カ快樂ヲ奪フ是ヨ
 リ甚シキハ無カルヘシ之ニ反シテ其教養宜キヲ得ルカハ美
 色麗彩ヲ見テ我心ヲ喜ハレメ我幸福ヲ増スノミナラス世間
 ニ色彩ヲ以テ職業トスルモノ、爲ニハ實ニ至大ノ實益ヲ供

聽官

スルモノナリ何トナレハ書工ノ如キハ毫末ノ色彩ノ加減ニ
 コリテ至其ノ書フモ至惡ノ書ヲモ作ルヘシ染工ノ如キ亦然
 リ其他種々ノ專業者ハ云フマテモナク何人ニヨラス上文明
 ノ人民ニヨリ下野蠻ノ種族ニ至ルマテ生活上ノ器具ナレ器具
 ナレ色彩ヲ製セサルモノハ絶エテ一人モアヲサレハ其益ノ
 及ハス所實ニ大ナリト云フヘシ

聽官ヲ教養スルハ音ニ非レハ能ハス小學ノ教科ニ讀方唱歌
 等ノ科ヲ設クルハ主トシテ該官ヲ教養スル爲ノナリ人ハ聽
 官ノ教養ニヨリテ美音ヲ喜フモ惡音ヲ好ムモウニモ
 ナルヘク正音ヲ學ブモ不正音ヲ習フモ唯其方法如何ニ在ル
 ノミ故ニ我國東國ノ人ハ「ユキ」ナ「ズキ」ノ如ク音ヒテ正シキト
 思ヒ西陸ノ人ハ「リヤウゴク」ナ「ヂヤウゴク」ノ如ク音ヒテ正シ

觸官

キト思フ是レ他ナシ觸官ノ教養正シカフサルカ故ニ自ラ其
 音ノ不正ナルヲ悟ラサルニ因スルノミ抑人ノ思想ヲ通スル
 ニ最要ナルモノハ言語ニシテ其發音ヲ受ケ其意義ヲ傳フル
 ノ具トナルモノハ聽官ナリ啞子ノ言ヲ能ハサルモ必竟聽官
 ノ具備セサルニヨルモノ多シト云フサレハ聽官教養ノ教育
 上忽ニス可ラサルヤ明ナリ

觸官ヲ教養スルハ物ノ抵抗力ニ非レハ能ハス此官ハ人生必
 須ノモノナレバ其教養ハ自然(ナチュール)ノ教育ニ任セ自餘ノ
 教育ヲ施サハルハ今世一般ノ通軌ナリ然レモ或ル教育家ハ
 實物ニ就キテ之ヲ教養スルヲ要用トセリ且盲人ノ教育ニ於
 テハ此官ヲ養成スルヲ最モ要用ナルヲ以テ種々ノ方法ヲ設
 ケテ之カ發育ヲ助ケ其成果ノ驚クヘキニ至ルハ盲人ノ刀劍

嗅味官

ヲ鑑定シ茶器ヲ品評シ品類ヲ區別スル等ヲ見テ明ナリ常人
 ト雖能ク之ヲ發育スルトハ殆ト盲人ニ比スヘキ觸官ヲ具
 有スルニ至ルモノナキニ非ルヘシ

嗅官ハ物ノ香氣味官ハ水ニ溶解スヘキ物質ニ非レハ養成ス
 ヘカラス尤此二官ハ諸種ノ飲食ニヨリテ多ク養成スル所ノ
 モノナレハ別ニ教養ノ法ヲ要セスト雖ニ礦物等ノ嗅味ニヨ
 リテ其品種ヲ鑑定スルカ如キニ至テハ亦學校ニ於テ宜ク教
 養スヘキ所ノモノナリ

第五 結論

右ニ述ルカ如ク各官皆殊別ノ物性ニヨリテ發育ヲ被ルモノ
 ナレハ一官ヲ教養スルハ必ス其相當ノモノヲ用ヒサルヘカ

實物教授ノ
要

ラス然ルニ色ヲ教授スルニ當リテ實ノ色彩ヲ用ヒスシテ唯
口舌ニヨリテ之ヲ教ヘントスルカ如キ又實物ヲ用ヒスシテ
其物ノ形質ヲ教ヘントスルカ如キハ誤レルノ甚シキモノト
云フヘシ何ヲ以テカ其目的ヲ達スルヲ得ンヤ故ニ茲ニ前
論ヲ結ンテ曰ク人ノ知識ハ其初メ外物ヨリ來ル外物ヲ知覺
スルハ感覺器ニヨフサル可ラス外覺性ハ諸心方中最初ニ旺
盛ナルモノナリ故ニ外覺性ノ教養ハ幼時ニ於テ最緊要トス
其教養ノ法ハ諸種ノ物性ニ接セシムルニ在リ諸種ノ物性ニ
接セシムルハ實物教授ニ非レハ能ハス是レ實物教授ノ幼時
ノ教育ニ緊要ナル所以ナリ

第三章 再現力

心緒

第一 心緒

余靜坐シテ余カ心中ヲ觀ルニ千狀萬態ノ思想感情意志等斷
續去來殆ト間斷ノ期アルヲナセ之ヲ名ケテ心緒ト云フ

第二 妄想

妄想

夏日讀書ニ倦ミ凡ニ見リテ坐スルニ恍惚トシテ眠ルカ如ク
又覺ルカ如キ時忽チ一都府ニ在リテ奇品珍器ヲ見ル如キ
想ヲナシ雲時ニシテ唯我カ凡ニ見リテ在ルヲ覺知シ先キ
ニ一都府ニ在リシト想ヒシハ何ノ處ニシテ奇品珍器ヲ見タ
リシト覺ヘシハ何ナル物ナリシヤ更ニ確知セサルヲアリ漸
ノ如ク心中ニ一幻想ヲ生シ其來ルヤ外意ノ介助ニ依ルニ非

ス其去ルヤ確然タル時ヲ認知スルニ非サルモノ之ヲ名ケテ
妄想ト云フ是レ再現力中ノ最下等ニ位スルモノナリ

〔注意〕本題妄想ノ如キハ何時ニ獲得セザル何レノ事物ヲ想
出セシカ確認スルコト無シト雖モ凡テ吾人カ心中ニ再出ス
ル所ノモノハ曾テ心中ニ認識セシ所ノモノハ外絶ヘテ有
ルコトナキモノナレハ是レ亦再現力中ニ彙點スヘキモノト
ス

第三 記性

(甲) 記性ノ定義

記性ノ定義

偶々机上ニ一封ノ書狀アリ是レ曾テ一友ヨリ送り來リタル
モノニシテ今之ヲ披開讀下スルニ非ルモ忽チ當時互ニ何等

ノ關係アリ且何等ノ思考感情アリシヤヲ想出スヘシ斯ノ如
ク過去ノ心狀ヲ再生シ且之ヲ確認スル所ノ心力ヲ記性ト云
フ

思想ノ伴生

(乙) 思想ノ伴生

余北海道ニ旅行シテ函館ヲ出テ七重ノ邊ニ到ル時其田野ノ
景色草木ノ形狀家屋ノ構造等ノ恰モ米國ノ新英倫土地方ニ
似タルヲ見テ忽チ往年在學セタル麻沙土設州ノ事ヲ想出セ
タリキ斯ノ如ク一箇ノ觀念ヨリ他ノ觀念ヲ惹起スヘキ傾向
アルチ思想ノ伴生ト云フナリ

其律

〔時期〕律或ル年ノ十二月廿四日ニ東京ニ大火アリ數千ノ家
屋ヲ燒燼シ百萬ノ財産ヲ灰燼ニ委セシヨアリシニヨリ其後

ノ年ニ於テモ十二月廿四日ニ會スルハ忽チ其事變ヲ想出
スヲアラン斯ノ如ク凡ソ一箇ノ思想ノ他ノ思想ニ於ルヲ或
ル時期ト其時期ニ起リタル事蹟トニ於ルカ如キ關係ヲ有ス
ルハ二者相伴生ス

〔場所ノ律〕東京ナル淺草寺ノ事ヲ思フハ忽チ其屋上及ヒ堂
前ニ數百ノ鳩群ヲナシテ飛翔セルヲト其側ニ高キ塔ノ立テ
ルヲ思出スヲアラン斯ノ如ク一箇ノ思想ノ他ノ思想ニ於ル
ト或ル場所ト其場所ニテ起リタル事蹟及重立タル事物トニ
於ルカ如キ關係ヲ有スルハ此等ノ思想互ニ相伴生ス

〔類似ノ律〕茲ニ一冊ノ書物アリ是レ「イントルナシヨナル、センエ
ンチフイック、セリース」中ノ化學書ニシテ其表紙赤ク其模様ニ
ハ米、英、佛、日ノ旗幟アリ是ニ於テ忽チ「回セリース」中ニ教育學

書アリ其表紙及模様共全ク相同シキヲ想出スヲアルヘシ
斯ノ如ク二箇ノ思想交互類似ノ關係ヲ有スルハ相伴生ス
〔反對ノ律〕憂色ノ眞ニ黒キヲ見ルニヨリ却テ雪ノ眞ニ白キヲ
想フカ如ク二箇思想反對ノ關係ヲ有スルハ相伴生ス

〔因果ノ律〕薪ノ火ニ燃エテ炭酸瓦斯ヲ生スルノ果ヲ見ルハ
木中ノ炭素ト空氣中ノ酸素ト化合スルノ因アルヲ想フヲア
ルヘシ斯ノ如ク一箇ノ思想ノ他ノ思想ニ於ルヲ互ニ因果ノ
關係ヲ有スルハ二者相伴生ス

(丙) 記性ノ類別及用法ヲ論ス

右ノ思想伴生ノ律ニ隨ヒ記性ヲ分テ二類トナスヲ得ヘシ即
チ偶然ノ記性及有意ノ記性ニ分レナリ

記性ノ類別

偶然ノ記性

偶然ノ記性ハ故ヲニ意力ヲ用フルコトナクシテ時ニ應ジ機ニ
觸レ忽然過去ニ認識セタル事物ヲ想出スモノニシテ時期及
場所ノ關係ニヨリテ伴生スル所ノ思想ハ多ク此類ノ記性ニ
屬ス

有意ノ記性

有意ノ記性ハ故ヲニ意力ヲ用ヒテ過去ノ認識ヲ再生スルモ
ノニシテ即チ類似反對及因果ノ伴生法ニ隨テ叙列セタル所
ノ思想ハ多ク此類ノ記性ニ屬ス

事實上ノ記
性
言辭上ノ記
性

偶然ノ記性ヲ類別シテ事實上ノ記性及言辭上ノ記性トナス
チ得ヘシ即チ甲ハ多ク場所及時期ノ關係ニヨリテ思想ヲ伴
生シ細密精微ニ事物ヲ記スルモノニシテ例ヘハ余何月何日
ニ何處ニ行キ何人ニ逢ヒ何事ヲナセシ等逐一ニ記スルヲ云
フナリ又乙ハ天地玄黃宇宙洪荒日月盈昃辰宿列張ト云フカ

言辭上ノ記
性
用法

如ク字義ヲ解スルニモ非ス又文意ヲ了スルコトモ非ス唯口調
ノ序次ニテ何ノ音ノ次ニハ何ノ音來ル何ノ字ノ下ニハ何ノ
字來ルト記スルノ類ト云フナリ

言辭上ノ記性ヲ教育上ニ用フルハ其用法ニヨリ利害ノ關ス
ル所甚ク大ナリトス例ヘハ讀法ニ專ラ此記性ヲ用フルルハ
生徒ハ唯口頭ニ數章ヲ誦讀シ教師ノ問ニ答ルヲ得ヘシト
雖モ眞ニ其意義ヲ解スルヲ殆ト稱ナリ斯ノ如キ學習ノ世上
ニ行ハルハ余輩カ常ニ實見シテ痛嘆ニ堪ニサル所ナリ
然ラハ言辭上ノ記性ハ教育上不用ノモノトセンカ否決シテ
然ラス其用法宜シキヲ得ルルハ其益亦少カラズ例ヘハ定義
規則名詩格言名文ノ如キハ其言辭確定シテ深キ趣味ヲ有ス
ルモノナレハ必其言辭ノ如ク暗記セサル可クス然シテ言辭

道理上ノ記性

用法

上ノ記性ハ幼時ニ於テ其發育量モ盛ナルモノナレハ其標ニ投シテ之ヲ用フルノ術ヲ思フカルヲ要ス
 類同反對因果等ノ律ニヨリテ思想ヲ叙列スルモノハ後日ニ至リ意力ヲ用ヒテ之ヲ再生スルヲ得ヘシ故ニ之ヲ有意ノ記性トスルハ既ニ前ニ達ルカ如シ今事實上及言辭上ノ記性ニ對シテ言フカハ之ヲ道理上ノ記性ト稱スヘキモノトス
 道理上ノ記性ハ教育上ニ最モ貴フヘキモノニシテ凡ソ何等ノ學問ニテモ道理上ヨリ事物ヲ記スルカハ他日之ヲ忘ルハ極メテ少ナシ又若シ一旦忘失スルモ意力ヲ用ヒテ之ヲ再生スルヲ得ヘシ是ヲ以テ教育ノ度精進ムニ至リ理學上及哲學上ノ事等ヲ記スルハ主トシテ此類ノ記性ヲ使用スルナリ

道理上ノ記性
 教養法

凡ソ道理上ノ記性ヲ教養スルニ要用ナルハ注意叙列及復思ノ三ナリ

(丁) 記性教養ノ法ヲ論ズ

(注意)凡ソ事物ノ何カルカ問ハス之ヲ記憶スルニ當リ專ラ意カテ其事物ニ注メカハ我能ク其事物ヲ知悉スルニヨリ永ク之ヲ心中ニ藏スルヲ得ヘシ是レ記性ノ養成ニ於テ主トシテ注意ヲ要スル所以ナリ

(叙列)凡ソ事物ヲ記憶スルニハ一思想ノ他ノ思想ニ於ケル關係ニ就キ正シク序次ヲ立テ之ヲ排列スルヲ要ス例ニハ余柿ナルモノヲ記センニハ先ク其全體葉アルヲ了シ次ニ其部分ハ糖皮肉種心ヨリ成レルヲ交互相屬ノ順序ニ從テ之ヲ記シ次ニ各部ノ形質ヲ亦其相屬ノ順序ニ從テ記スルナリ例ニハ

柿

菓 (全體)

- 葉 青シ、莖形ナリ、硬シ
- 皮 滑ナリ、赤シテ實ヲ帶フ
- 肉 柔ナリ、水氣ヲ有ス、八箇若クハ其他ノ子房アリ
- 種 各子房中ニ一箇ノ種アルヲ常トス
- 心 淡黃色ナリ、水氣少シ

斯ノ如ク各部交互相屬ノ序次ニ從テ思想ヲ叙列スルモハ一思想ト他ノ思想トノ關係ニヨリホク之ヲ心中ニ保有スルヲ得ヘシ

(復思)既ニ注意ニヨリテ能ク事物ヲ了知シ又之ヲ交互相屬ノ序次ニ從テ叙列スルモハ再三再四之ヲ復思セテ其思想ノ伴

偶然ノ記性
敘法

生ヲ確實ニコスルヲ要ス然ルモハ其記憶ハ愈鞏固ニ至ルヘシ
偶然ノ記性ヲ敘養スルハ專ラ復思ノ力ニヨルモノニシテ注意、叙列等ヲ假ルハ實ニ僅少ナルニ過キサルノミ是ヲ以テ其事物ヲ永ク心中ニ記スルヲ甚難シトス人或ハ記憶力ヲ養成スルハ他ノ心力ヲ減殺スルノ害アリト云フモ主トシテ此偶然ノ記性ヲ養成シテ他ノ心力ノ練磨ヲ忘ルノ弊ヲ指スノミ彼有意ノ記性ノ如キハ其發育他ノ心力ニ助ケラレ又他ノ心カノ發育ヲ助ルノ實アルモノナリ

(戊) 記性ノ教育上ノ價值

吾人日々經驗上ヨリ得來ル所ノ諸般ノ知識モ隨テ得レハ隨テ失フカ如キ狀態ナラシムルニハ途ニ漸積大成ノ途ナキヲ以テ

記性ノ價值

如見チ過ノ道德ヲ養フコトハ區ヘテ望ム可ラケルノ一事ナル
 ヘシ然ルニ記性ハ恰モ我心中ノ倉庫ノ如ク言語文辭事物等
 百般ノ知識ヲ受取テ各般ノ區分ヲ設ケテ之ヲ貯置シ需用ノ
 時ニ臨ミテ其供給ヲナスモノナレハ過去ノ舊識ニ今來ノ新
 知ヲ加ヘ漸々蓄積ノ効達ニ博學該通ノ人ヲ養成スルヲ得ヘ
 シ是レ教育上記性ノ最モ重要スヘキ所以ナリ

記性ノ價值ハ主トシテ注意、叙列、復思ニヨリテ事物ヲ記スル
 ノ心力ヲ發育スルニ在ルヲ以テ教師ノ能ク此理ヲ解スルモ
 ノハ思想係屬ノ順序ニ從ヒ教科ノ綱目ヲ作テ之ヲ生徒ニ授
 ケ能ク注意力ヲ發作シテ之ヲ學ヒ且復習モシムルナリ此ノ
 如ク法ニヨルルハ始メテ能ク強記ノ人ヲ養成スルヲ得ヘシ

想像ノ定義

第四 想像

(甲) 想像ノ定義

今余庭園ヲ造ラントスルニ當リ、築山ヲ造ルヘキカ池ヲ穿ツ
 ヘキカ柵ヲ設ケルニ種ニハキカ柵ヲ此處ニ設ケルニハキカト工夫
 スルニ際シテ先ツ何物ニヨリ何等ノ方法ヲ用ヒテ此事ヲ果
 タスヘキヤ必ス余カ曾テ見タル處ノ處ニ思及シテ彼處ノ池
 ハ斯々ナリシ此處ノ築山ハ斯々ナリシ依テ此處ノ築山ニ彼
 處ノ池ヲ結合セハ最佳ナラン又甲庭ノ柵ノ植方ヲ模シテ乙
 庭ノ柵ノ植方ヲ移セハ頗ル妙ナラント此ニ種々ノ過去ノ思
 想即チ觀念ヲ取リ來シテ之ヲ結合シ一箇ノ新思想ヲ造成ス
 ルナラン斯ノ如キ心力ノ動作ヲ名クテ想像カト云フナリヤ
 レハ想像ノ定義ヘ種々ノ思想ノ部分ヲ取リテ新ナル一休ヲ

思想上ニ造成スルモノナリト云フ可シ

想像ノ種類

(乙) 想像ノ種類

想像ハ其用法ニヨリテ自ラ名ヲ異ニスルヲ以テ今其種類ヲ分テテ美術上ノ想像、理學上ノ想像及ヒ讀書上ノ想像トシテ逐次之ヲ論述スヘシ

(子) 美術上ノ想像

美術上ノ想像

圖書

美術上ノ想像トハ圖書、彫刻、詩文、音樂等ニ用フル所ノモノニシテ想像力中最高ノ一部ヲ占ムルモノナリ
想像力ヲ圖書ニ用フル所ノ一例ヲ示サン爲メ今龍ノ畫ニ就キテ之ヲ説クニ元來龍ナル動物ハ世ニ現存セシモノニ非

ス唯々神變不思議ニシテ最モ恐ルヘキ一物ヲ形成セントノ想像ニ出タルモノナル可シ茲ニ初メテ龍ヲ畫キタル人アリト假想セヨ全体ノ趣向ハ前ニ謂フ如ク神變不測ニシテ最モ恐ルヘキ一物ヲ形成スルニ在ルヲ以テ先ツ諸動物中ニ就キ最モ粹惡ナル狀貌アルモノヲ撰ハセル可ラス此目的ニ適スルモノハ大蛇ナルヘシ依テ全体ヲ大蛇ニ假リ其身體諸部ノ内ニテ最モ恐ルヘキ狀貌ヲ有スル部分ヲ撰ヘハ眼ノ圓大ニシテ電光ヲ放ツカ如キ口ノ巨大ニシテ牙ノ尖ク鋭齒ニ似タルカ如キ体軀ノ蜿蜒シテ鱗ノ閃々タル他ニ比類スヘキモノナキカ如キ最モ其目的ニ適スルヲ以テ之ヲ取用スヘシ次ニ雲ヲ拂ヒ霧ヲ凌キ氣ニ乗キ空ニ翔ルカ如キ性質ヲ有スル動物ヲ假リテ其足ヲセル所ヲ補ハセル可テス此目的ニ適スル

彫刻

モノハ鳥類ナルヘシ然レテ鳥類中ニ就キ最モ勇悍ナルハ鶯
鳥ナリ依テ龍ノ趾ト爪ト一之ニ實リテ以テ補欠ノ用ヲナセ
リ次ニ溪谷ニ浮沈シ深淵ニ游泳スルカ加キ性質ヲ有スル鳥
物ヲ假リテ龍ノ體ノ自由ナルヲ示センコト爲メ魚類ノ鱗ヲ取
リテ身体ノ諸部ニ附着セリ終ニ之ニ獸類ノ角ト鼻トヲ加足
シテ龍ナル動物ノ全体ヲ想像上ニ造リ出シ於是油然墨ヲ澁
スカ如キ雲霧ヲ畫キテ慘痛ノ狀ヲ呈シ之ニ電光ト颯風トヲ
加ヘテ威嚴ノ體ヲ顯シタルモノナルヘシ凡ソ圖書ノ事ヲル
實物ノ寫生ニ非ルヨリハ山水ナリ花卉ナリ人物ナリ皆想像
上ニ出テキルモノナリト云テ可ナリ

余曾テ米國百年期萬國博覽會ニ陳列セシ大理石ノ一箇ノ彫
像ヲ見シカ是レハ伊太利國羅馬府ノ一婦人ノ想像ニ成リ

詩文

所ノモノニシテ最モ愛情スヘキ物ヲ彫刻上ニ表出シタルモ
ノナリキ其趣向ハ大ナル貝ノ中ニ小兒二人アリテ一兒ノ他
兒ニ抱レテ眠レル様ヲ現ハシタルモノナルカ其二兒ノ餘念
ナキ狀貌ト云ヒ顔面ノ肥ヘタルサマト云ヒ眼口鼻ノ如何ニ
モ愛ラシク又手足等ノ圓滑ニ太リタル様ト云ヒ一刀一點モ
愛ノ想像ヲ欠キタル所ハアツサリキ是レハ想像ヲ彫刻上ニ
用フルノ一例ニシテ良善ナル彫刻ハ皆多ク想像力ノ助ニヨ
リテ成ルモノナリ

今詩文上ノ想像ナルモノヲ解明セン爲メ茲ニ世人ノ能ク知
ル所ノ古文後集中ナル阿房宮ノ賦ヲ引用センハ彼賦ハ杜牧
之ノ作ニ出ルモノナレハ阿房宮焦土トナリテ數百年ヲ經テ
ル後ニ成リタルヲ疑ハズ其結構ノ如何等杜牧之ノ目撃セン

所ニ非ルヤ明ナリ然ルニ五歩一趨十歩一趨ヨリ有不得見者
三十六年ニ至ルマテハ恰モ其實景ヲ寫出スルカ如キ是レ彼
ノ杜牧之カ其騷寤ノ狀態ヲ記載センカ爲メ自己ノ經驗聞見
ニヨリテ得タル所ノ種々ノ思想ヲ結合シテ斯ノ如ク作りヌ
ルモノナルヲ知ルヘシ

(五) 理學上ノ想像

理學上ノ想
像

今新奇ナル一箇ノ椅子ヲ製造セントスルニ當リ曾テ見タル
所ノ種々ノ椅子ニ思及シ其底ハ船底椅子ニ據シテ之ヲ圖繪
ニシ其把手ハ他ノ學掛椅子ニ倣ヒ背部ノ自由ニ起伏スルハ
他ノ器械ニテ見タル所ノ工合ヒテ用ヒ其滑輪ハ他ノ履掛カ
ノ品ヲ用フルカ如ク過去ニ得タル所ノ數多ノ思想ヲ結合シ

テ一箇ノ新思想ヲ得終ニ之ヨリ一ノ新發明ヲナスカ如キ是
レ理學上想像ノ一類ナリ又物ノ分子ノ大キテ思考スルカ如
キ至微至細ニシテ余等カ通常ノ思想ノ能ク及フヘキニ非ス
故ニ之ヲ想像中ニ増大シテ遂ニ億億萬倍ニシテ始テ之ヲ余等
カ知覺シ得ル物體ノ大キニ至ラシムルカ如キ是亦理學上ノ
想像ナリ英國ノ理學家ダムソン氏ノ説ニ從ヘハ氷ノ一滴ヲ
増大シテ地球ノ大キニ至ラシムルカハ其分子ハ始テ露丸ノ
大キニ比スヘシト云ヘリ斯ノ如ク至微至細ナルモノハ想像
力ニヨリテハ思想ニ入ル能ハサルナリ

(實) 讀書上ノ想像

讀書上ノ想
像

讀書トハ他人ノ文字ナルモノヲ用ヒテ他人ノ思想ヲ記シ置

ケルヲ我其文字ノ媒ニヨリ且我観臨上ヨリ得タル種々ノ思想ニ比シ以テ彼ノ思想ヲ推測スルモノナリ故ニ讀書ハ想像カヲ用フルノ一種ナルヲ知ヘシ

讀書中ニテモ小説神史ノ類ハ既ニ過去リタル事又ハ曾テ其實ナキ事ヲモ恰モ眼前耳邊ニ現在スルカ如ク記セルヲ以テ之ヲ讀ム者ハ知ラス讀ラス己レ既ニ書中ノ人トナリ或ル地位ニ在リテ或ル事ヲナスカ如キ心地スヘシ是ヲ以テ此類ノ讀書ハ想像力ヲ興起スルヲ實ニ少カフストス

又地理歴史ノ如キハ小説神史ニ亞キテ想像力ヲ興起スルヲ多シトス是亦過去ノ事蹟又ハ未知ノ境界事物等ヲ記スルニヨリテナリ

想像力ノ養成法

(丙) 想像力養成ノ法ヲ論ス

人ノ事物ヲ想像スルハ諸種ノ既有ノ思想ヲ結合シテ新奇ノ一思想トナスニ過キサレハ其本源トナルヘキ思想ナケレハ想像モ亦隨テ興フサル道理ナリ又新奇ノ思想ヲ得ルニ表現力ニヨツサレハ能ハスサレハ想像力ノ養成ハ表現力ノ養成ニ基カサルヲ得サルヲ知ルヘシ

美觀ヲ呈セ奇相ヲ示スモノハ天工ト人工トニ外ナラズ故ニ能ク天然ノ奇工ト人作ノ美術トヲ觀察セテ思想ノ實ヲ得之ヲ結合スルヲ學フカハ以テ想像力ヲ養成スルヲ得ヘシ幼年生徒ニ若干個ノ直線、曲線若クハ幾何學上ノ正形等ヲ付シテ諸種ノ胎形、紋章等ヲ作ツシノ之ヲ紙上ニ寫スノ法ヲ習ハシムルヲアリ或ノ之ヲ名ケテ工夫書ト云フ是レ亦想像力

ヲ養成スルノ一良法ナリ

想像上ノ文書即チ小説稗史ノ如キモノ又ハ地誌歴史記行等ノ如キモノヲ讀ムルハ亦以テ想像力ヲ養成スルニ足ルヘシ

(丁) 想像力ノ教育上ノ價值

凡ソ書ヲ讀ミ其意ヲ解スルハ主トシテ想像力ヲ假ルニ非ルハナシ此點ヨリ見ルルハ其價值特大ナリトス然レモ幼年ノ生徒ニ鄙猥ナル小説稗史ヲ讀マシムルハ有害ノ想像類ニ興リ遠ニ將來ノ大害ヲ釀成スルニ至ル是レ教育家ノ最モ注意スヘキ所コシテ生徒ニ讀マシムル書類ノ撰ハサル可クサル所以ナリ

理學上及美術上ノ想像ハ生徒ノ心力能ニ既ニ發達セシ後ニ

想像力ノ教育上ノ價值

至ラサレハ容易ニ使用ヲ得可クサルモノナリト雖モ早ニ其工夫力ヲ養作シ將來完成ノ基礎ヲ造ルハ亦初等ノ教育ニ於テ主要トスル所ナリ

幼年生ハ書ヲ讀ムニ當リ其書中ニ記載セル事物人物等我想像中ニ入ルヘキモノナルルハ能ク之ヲ了解シ得賜テ之ヲ學習スルヲ喜ブモノナリ故ニ教師ノ此理ヲ曉ルモノハ幼年生徒ニ授クヘキ讀本類ヲ撰フニ當リ可成的高貴ニ失スルコトナク能ク其程度ニ適スルモノヲ用フルヲ務ムヘシ

第四章 省察力

第一 反射即チ思想

思想ノ例解

思想ノ定義

思想ノ方法
分解ノ例解
及定義

(甲) 思想ノ定義及方法

受ニ一個ノ種子アリ是レ余カ今其形質ヲ觀察シテ之ヲ知リ得タル所ノモノナリ余カ斯ク知リ得タルモノハ唯此一個ニ限ルニ非ス他ノ種子モ亦同法ニヨリテ曾テ知リ得タルナリ今余ハ此種子ヲ以テ他ノ種子ト比較シ交互類似ノ諸點ヲ觀其形質中齊シ諸種子ニ屬スル所ノモノヲ他ノ形質ヨリ分別シテ心中ニ納メ以テ種子ナル普通ノ觀念ヲ作りタリ上ノ例ノ如ク一ノ事物ト他ノ事物トノ關係ヲ觀テ齊シ總個ノ事物ニ屬スル所ノ觀念ヲ得ンカ爲メ既ニ知リ得タル所ノ事物ニ反省スル心力ノ動作ヲ反射力即チ思想ト云フ余ハ今種子ナル繁錯構成ノ觀念ヲ作ル所ノ諸種ノ形質ニ就キ一種一種別々ニ之ヲ考ヘハハ斯ノ如ク繁錯ナル全体ヲ別

總合ノ例解
及定義比較ノ例解
及定義

チテ成分ノ諸原子ニ歸スル所ノ心力ノ動作ヲ分解ト云フ既ニ分解ヲ行フノ後此等ノ諸形質ヲ心中ニ集合シテ再ヒ繁錯ナル全体ノ觀念トハナスナリ斯ノ如ク繁錯ナル全體ヲ成ス所ノ諸種ノ原子ヲ合同シテ考フル所ノ心力ノ動作ヲ總合ト云フ

凡ソ總合ノ成ルハ必ス分解ヲ經テ而シテ後ニ非レハ能ハス是レ一種普通ノ思考法ナリ

(乙) 比較、抽象、概括及分類ノ法

楚ニ二個ノ種子アリ皆外皮肉及種ヲ有ス是レ相似タルノ點ナリ甲ノ容ハ大ムシテ乙ハ小ナリ甲ノ色ハ濃クシテ乙ハ薄シ是レ相異ナルノ點ナリ余ハ此二個ニ就キ異同ノ諸點ヲ觀

抽象ノ例解
及定義

概括ノ例解
及定義

察セリ斯ノ如ク事物ニ就テ差異ノ點ト類似ノ點トヲ觀察スルニ比較ト云フ

蚊ニ一箇ノ蚊子アラシム余ハ其諸種ノ形質中嘴色ノミニ就キテ思考スヘシ斯ノ如ク一物ノ諸形質中ヨリ一種ノ形質ヲ抽出シテ思考スルノ動作ヲ抽象ト云フ

茲ニ雀鳥鴉アリ今之ヲ比較シ互ニ相類シ相異ナルノ所ヲ考フルニ左ノ諸點ハ相類スルモノトス

雀鳥鴉ハ皆ナ

脊椎動物ナリ

肺臟ニ依テ呼吸スルモノナリ

血液温ヲ帶フルモノナリ

卵生ナリ

皮膚ノ附屬物ハ羽毛ナリ

口吻アリテ齒牙ナシ

他ノ諸點ニ就テ考フレハ羽毛ノ如キ雀ハ茶褐色ニシテ鳥ハ黒ク鴉ニハ黒キアリ白キアリテ一定セス其容ノ如キ雀ハ小ニシテ他ノ二鳥ハ大ナリ其啼聲ノ如キ雀ハ患ト呼ヒ鳥ハ啜々ト鳴キ鴉ハコケコゴト告テ此等ヲ始メトシテ其他數多ノ諸點ハ皆相異ナルモノトス

今此諸點ニ就キ互ニ相異ナル形質ハ之ヲ捨テ相類スル諸形質ノミチ抽出シ之ヲ總合シテ一箇ノ概念ヲ形成ス是レ即チ概念ナリ斯ノ如ク依テ以テ一箇ノ概念ヲ形成スル所ノ思考ノ運用法ヲ概括ト云フナリ

彙類ノ例解

上ノ例ニ用ヒタル雀鳥鴉ハ皆稱シテ鳥類ト云フ是レ交互普

及定義

通ノ諸形質ヲ有スルニ依レリ然類トハ斯ノ如ク普通ノ諸形質ヲ有スル所ノ一類ニ彙集スルヲ云フナリ

第二 概念

(甲) 概念ノ定義及名稱

概念ノ定義

既ニ前章ニ於テ說示セシ如ク概念ハ數多ノ事物ニ等ク屬スル所ノ諸種ノ形質ヨリ成レル一箇ノ觀念ナリ

名稱

固有名稱

普通名稱

一ノ物ヲ表スル所ノ言辭ハ固有名稱ナリ
人、馬、石ト云フカ如ク一箇ノ概念ヲ表スル所ノ言辭ハ普通名稱ナリ

有形及無

書物、鳥山ト云フカ如ク直ニ物体ニ適用シ得ヘキモノハ有形

形名稱

名稱ニシテ正直快活ト云フカ如ク直ニ物体ニ適用ス可クモルモノハ無形名稱ナリ故ニ有形名稱ハ形質ト實體トヲ表セ無形名稱ハ唯形質ノミヲ表スルモノナルヲ知ルヘシ

(乙) 概念ノ關係

(子) 概念ノ物體ニ對スル關係

概念ノ物體ニ對スル關係

概念ノ物體ニ對スル關係ヲ示サン爲メ茲ニ圖解ヲ設ルテ左ノ如シ

例解

概念	概念ノ有ラル形質	概念中ニ在ル物
物	物	金石、植物、動物、人
生物	物、生命	植物、動物、人

動物	動物、生命、感覺	動物、人
	人、物、生命、感覺、道理	
人	人	人

内包及外延

上ノ例ニ就テ見ルルカハ一箇ノ概念ハ其表示スル所ノ物ノ性質ト品種トヲ含有シ且概念ノ類ニヨリテ其形質ノ數ト品種ノ數トニ多少アルコトヲ知ルヘシ例ヘハ物ナル概念ノ如キ其形質ノ數ハ一ナレニ其中ニ含有スル所ノ品種ノ數ハ四アリ又生物ナル概念ハ其形質ノ數ニモシテ其品種ノ數ハ三ナルカ如シ其他皆類推スヘシ

凡ソ一箇ノ概念ノ有セル形質ノ數ハ之ヲ名ケテ内包ト云ヒ又其中ニ在ル品種ノ數ハ之ヲ名ケテ外延ト云フ然レテ内包ト外延トニ常ニ反比例ヲナスコト前ノ例ニ依リテ明知スヘシ

概念交互ノ關係

例解

(丑) 概念ノ相互ニ對スル關係

概念ノ相互ニ對スル關係ハ左ノ例解ニヨリテ之ヲ考究スヘシ

概念ノ關係	圖	解	名稱
鳥、馬			排斥
生物、有機物			齊攝
動物、哺乳類			次屬

種類
拒斥

齊攢又ハ
共攢

	<p>四角形 平行方形 梯形 不等邊方形</p>
	
<p>交截</p>	<p>等屬</p>

今上ノ例ニ因テ見ルルハ馬ナル概念ノ中ニハ鳥ナル概念中ノ物ハ一モ含有スルヲナラズ故ニ二箇ノ概念互ニ斯ノ如キ關係ヲ有スルハ之ヲ拒斥ト稱ス生物ナル概念ト有機物ナル概念トハ共ニ同一ナル物數ヲ含有ス何トナレハ生物ニシテ有機物ニ非ルハナク有機物ニシテ生物ニ非ルハナキヲ以テナリ故ニ斯ノ如キ概念ノ關係ヲ齊攢又ハ共攢ト稱ス蓋シ其範圍ノ及ツ所相同シキニヨルナリ動物ナル概念ト哺乳類ナ

次屬

等屬

交截

概念ノ階級

ル概念トノ如キ哺乳類ハ動物中ノ一部ニ屬スルヲ以テ斯ノ如キ關係ヲ次屬ト云フ平行方形、梯形、不等邊四角形ノ四角形ナル概念ニ於ルカ如ク平行方形ト梯形ト不等邊四角形トハ互ニ拒斥ノ關係ヲ有スト雖モ四角形ニ對シテハ皆次屬ノ關係ヲ有ス故ニ其交互ノ關係ヲ稱シテ等屬ト云フ又圓物ト重物トノ如キ圓物ノ中ニハ重物モアリ重物ノ中ニハ圓物モアリテ互ニ分別ス可ラサルカ如キ關係ヲ有ス斯ノ如キヲ稱シテ交截ト稱スルナリ

(丙) 概念ノ階級

茲ニ三角形、四角形、多角形、圓形、橢圓形等アランニ此等ノ概念ハ皆十直ニ單獨物ヨリ造成シ來リタルモノナルヘシ然ルニ

例解

今直線形ナル概念ヲツクハ前ノ概念トハ造成ノ法ヲ異ニシテ直ニ單獨物ニ就キ之ヲ得タルモノニ非ラス即チ三角形、四角形、多角形ナル概念ニ就キ等々此諸形ニ屬スル所ノ性質ヲ抽出シ再ヒ之ヲ概括シテ作り得タルモノナリ又曲線形ナル概念モ此法ニ同ク圓形、橢圓形等ナル概念ヨリ抽象概括シテ之ヲ作り得タルモノナリ

等位

三角形、四角形、多角形ノ直線形ノ下ニ在ルカ如ク次屬ノ關係ヲ以テ諸概念ノ連續スルモノヲ稱シテ其階級ト云フ然レテ其等位ノ高下ハ概念ヲ經ルノ多少ニ由リテ定ムルモノニシテ諸種ノ概念ヨリ概括シ來リタル概念ハ高等ニシテ其概括ヲ被ムル所ノ概念ハ下等ナリ故ニ概念ノ等位高クレハ其外延愈大ニ其等位下クレハ其外延愈小ナルヲ知ルヘシ

(子) 屬及種ノ別

屬及種ノ別

一概念アリ其下ニ明瞭ナル諸概念ヲ有スルヲ例ヘハ直線形ノ三角形、四角形、多角形ニ於ルカ如クナルモノハ高等ノ概念(直線形)ヲ屬ト稱シテ下等ノ概念(三角形等)ヲ種ト稱ス又高等ノ概念(直線形)ノ雖ハ最高等ノ概念(平面形)ニ對スルモノハ種ノ等位ニ居リ下等ノ概念(三角形)ト雖ハ最下等ノ概念(等邊三角形等)ニ對スレハ屬ノ等位ニ在ルナリ故ニ此理ヲ推スルハ最下等ノ概念ヲ除ク外各概念皆屬タルヲ得ヘシ最上等ノ概念ノ他各概念皆種タルヲ得ヘシ猶次ノ例解ニ就キテ之ヲ明知セン

トテ要ス

屬種ノ等



右ニ依リテ見ルルハ屬ニハ最上等下等ノ二類アリ種ニハ最下等高等ノ二種アルヲ知ルヘシ

茲ニ左ノ一例ヲ設ケテ屬差及種差ヲ解説スヘシ
(丑) 屬差及種差

平面形

曲線形
圓形等
橢圓形等

直線形
三角形
四角形
多角形

屬差

最上等 屬 下等 種

右ノ例解ニヨリテ考フルトハ直線形ト曲線形トハ平面形ニ對スレハ下等ノ屬ニシテ乃チ之ト次屬ノ關係ヲ有セ交互ノ間ハ等屬ノ關係ヲ有ス然レテ直線形ハ直線ノ特有スル所ノ形質ヲ具シ依リテ以テ次屬ノ關係ヲ有スルモノ(平面形)ヨリ區別スルヲ得ヘシ又等屬ノ關係ヲ有スルモノ(曲線形)ヨリモ區別スルヲ得ヘシ斯ノ如キ特有ノ形質ヲ屬差ト稱ス

種別

三角形四角形多角形ハ皆チ直線形ニ對スレハ種ニシテ之ト次屬ノ關係ヲ有シ交互ノ間ハ等屬ノ關係ヲ有ス面シテ各形皆特有スル所ノ形質ヲ具ヘ依リテ以テ次屬ノ關係ヲ有スル屬(直線形)ヨリ區別シ又等屬ノ關係ヲ有スル種(三角形ナレハ四角形多角形)ヨリモ區別シ得ヘシ斯ノ如キ特有ノ形質ヲ種

差ト稱ス

(實) 論理的分類法

論理的分類法

論理的分類法ヲ講説スル爲メ茲ニ幾何學上ノ諸形ヲ假リ例解ヲ設ルヲ左ノ如シ

例解



右ノ例ニ就テ見ルニ先ツ平面形ナル概念即チ屬ノ性質ヲ討究スレハ線ヲ以テ畫シタル平面ノ一部分ナリト云フニ過キス然シテ線ニ曲直二種アルヲ以テ平面形ノ下ニハ自ラ二箇ノ種ヲ生セサル可カラズ即チ直線ヲ以テ畫セル平面形ト曲線ヲ以テ畫セル平面形ニシテ甲ハ直線形乙ハ曲線形トナルナリ又其二種ノ形ハ各其下ニ數箇ノ種ヲ生スヘシ何トナレハ直線形中ニハ之ヲ畫スルノ線數ニ不同アリ又曲線形中ニハ之ヲ畫スルノ線ノ種類ニ不同アルヨリナリ乃チ直線形ニ於テハ其三線ヲ以テ畫スルモノハ三角形ナリ四線ヲ以テ畫スルモノハ四角形ナリ四線以上ノモノハ多角形ナリ又曲線形ニ於テハ畫スルニ圓線ヲ以テスルモノハ圓形ナリ橢圓線ヲ以テスルモノハ橢圓形タルカ如ク皆異別ノ種ヲ生スルナ

斯ノ如ク屬テ分テ種トナスノ方法ヲ論理的分類ト云フナリ
 今此例辭ニ幾何學上ノ諸形ヲ用ヒタルハ其簡明ニシテ學者
 ノ悟リ易キヲ望ムニ在ルノミ彼博物學ニ於テ萬般ノ動物植
 物金石等ノ屬種ヲ分ツカ如キ其理法之ニ異ナラズト雖モ唯
 其性質ノ錯綜ナルニヨリ分類上ニモ亦幾層ノ困難ヲ覺フル
 ノニ

分類ノ規則

分類之規則

第一則 分類ハ宜ク唯一ノ基本ニ據ルヘシ

例解 用料ノ品質ト構造ノ方法トニ從テ時計ヲ分類セ
 ント欲ス

今諸種ノ時計ノ用料ヲ檢スルキハ其品質金ヨリ成ルモアラフ

ニ銀ヨリ成ルモアラフニ日耳曼銀其他ノ金質ヨリ造レルモア
 ルヘシ又其構造ノ法ハ鋼鐵片ノ彈力ヲ假リテ動力ヲ得ルモ
 ノアラフ大地ノ重力ヲ假リテ動力ノ基トナスモノアラフ成
 ハ磁石力ニヨリ或ハ電氣力ニヨリテ動力ヲ發スル等其差異
 枚舉ニ遑アラサルヘシ儲金作りノ時計中ニモ甲乙丙等ノ構
 造法アリ銀其他ノ金質ニテ作りタルモノ、中ニモ同シク甲
 乙丙等ノ構造法アルヘシ又之ト同様ノ理ニヨリテ甲ノ構造
 法ニ係ル時計ニハ金銀其他ノ金質ヨリ成レルモノアルヘシ
 乙ノ構造法ニヨルモノニ於ルモ亦然ラン斯ノ如キ有様ニア
 ハ到底時計ノ分類ハ爲ス能ハサルヘシ是レ他ナレ其分類ノ
 基本トスル所ニ物アルニヨルノミ故ニ曰ク分類ハ宜ク唯一
 ノ基本ニ據ルヘシト

第二則 分類ハ種ヲ總合シテ全ク屬ニ等セカクシメントス
要ス

例解

(一) 直線形ハ三角形、四角形、若クハ多角形ナリ
(二) 直線形ハ三角形、四角形、多角形若クハ八角形
ナリ

(三) 直線形ハ三角形若クハ四角形ナリ

右三例ニ就キテ見ルニ(一)ハ其種ヲ總合シテ屬ニ等シケレド
(二)ハ過多ノ弊アリ(三)ハ不足ノ誤リアリ故ニ惟(一)ヲ以テ其
正ヲ得タルモノトス

第三則 分類ハ正當ノ次序ヲ違フヲ要ス

例解

直線形ハ正三角、二等邊三角若クハ不等邊三角ナ
リ

此分類法ハ直線形ヨリ直ニ其下ナル種ノ三角形、四角形等ニ
及フヘキニ却テ之ヲ超越シテ正三角等ニ及ヒ次序ヲ踐マサ
ルヲ以テ其正ヲ得サルモノトス

第四則 分類ハ其種互ニ排斥スルヲ要ス

例解

(一) 人ノ行爲ハ善若クハ惡ナリ
(二) 人ノ行爲ハ正直若クハ善其ナリ

右ノ二例ニ就キテ見ルニ(一)ハ其種善ト惡トニシテ互ニ排斥
ス故ニ正シ(二)ハ正直若クハ善其トアリテ互ニ交叠ノ關係ヲ
有スルヲ以テ其當ヲ得サルモノトス

分類ノ用法

凡ソ人事物ニ就キ其重要ナル性質ヲ知了スルニ非レハ一物
ヲ他物ヨリ識別スル能ハス又一個ノ概念中ニ含有スル所ノ

分類ノ用
法

種屬ヲ知悉スルニ非レハ其思考判明ナル能ハス故ニ論理的分類ノ法ニヨリテ先ツ其重要ナル形質ヲ抽出セテ以テ他物ト分別スルヲ學ビ又一考ノ下各種屬ヲ洞悉スルヲ習フハ教育上最モ貴重スヘキノ事項ナリ

高等ノ教育ニ於テ博物學ヲ授ケルハ主トシテ此分類力ヲ養成スルニ在リ是レ此教養タル特ニ博物學ノ能ク適スル所ニシテ他ノ學科ノ遠ク及ハカル所ナリ

教師タルモノハ斯ノ如キ分類ノ理法ニ從テ其教授スヘキ學科ノ綱目ヲ制シ以テ生徒ノ學習ニ便スルヲ善トス是レ生徒ノ識別力ヲ增長セ且其思考ヲ判明ナラシムルノ良法ナリ

(丁)

概念ノ定義

論理的定義

例解

(子)

概念ノ論理的定義

左ノ例解ハ概念ノ論理的定義ヲ說示スルモノナリ

四角形概念ハ四邊ヲ有スル(種差直線形屬)ナリ

凡ソ概念ノ論理的定義ヲ作ルニハ先ツ其概念ノ名(四角形)ヲ以テ主トシ其特有スル所ノ形質即チ種差(四邊ヲ有スル)ヲ以テ之ヲ形容シ次ニ其屬スル所ノ屬直線形ヲ表示スルニ在リ故ニ論理的定義ハ一箇ノ概念ノ種差及屬ヲ表出スルモノト云フヘシ又他ノ見解ヲ下ストハ論理的定義ハ一箇ノ概念ノ主要トセル所ノ諸形質ヲ和ナリト云フモ可ナリ

(丑)

論理的定義規則

第一則 定義ハ適中ナルヲ要ス

例解

- (一) 各種ノ四角形ハ四邊ヲ有スル直線形ナリ
- (二) 各種ノ四角形ハ直線形ナリ
- (三) 各種ノ四角形ハ四邊ヲ有スル直線形ニシテ

其對邊ハ平行ナリ

右ノ例解ニ就キテ考フルニ(一)ハ四角形ナル概念ノ義ヲ限定スルニ適中ノ定言ヲ用ヒタルニヨリ能ク論理ニ合スルナリ然ルニ(二)ニ用ヒタル定言ハ不足ナルニヨリ其義却テ廣キニ過キ此定義ニ依ルルハ直線形中如何ナル特性ヲ有スルモノヲ以テ四角形トスル乎ヲ明ニスル能ハス又(三)ニ用ヒタル定言ハ過多ナルニヨリ却テ其義ヲ狭クスルノ弊アリ何トナレハ此定義ニヨルルハ直線形中對邊平行ノモノ即チ平行方形

ノ外四角形タルヲ得タルカ故ニ梯形、不等邊四角形等ハ四角形タルヲ得サルニ至ルヲ以テナリ

第二則 定義ハ自定ナラサルヲ要ス

例解

- (一) 太陽ハ日輪ナリ
- (二) 太陽ハ我太陽系ノ中心ニ在ル恒星ナリ

右ノ二例ニヨリテ見ルニ(一)ノ太陽ハ日輪ナリト云フカ如キハ太陽ト日輪ト其稱呼コソ異ナレ一箇ノ概念ノ義ヲ定ムルニ同一ノ概念ヲ以テスルモノニシテ之ヲ自定ト云フナリ是レ本則ノ禁スル所ナレハ(二)ノ如ク論理ニ適シタル定義ヲ撰用セサル可ラス

〔注意〕一箇ノ概念ノ義ヲ定ムルニ當リ問々外國語ニテ唯其名稱ヲ唱ヘ以テ其定義ヲ得ザリト思フモノアリ例ヘハ太

關ハ英語ニテ「ソリ」ト云フ所ノモノナリノ如ク是亦自定ニ
シテ本則ノ取ラサル所ナリ

第三則 定義ハ精確ナルヲ要ス

例解 (一) 純水ハ水素二容酸素一容ヨリ成レル液体ナ

リ

(二) 純水ハ水素二容酸素一容ヨリ成レル液体ニ
シテ能ク流動スルモノナリ

(三) 純水ハ熱ヲ受ケテ能ク沸騰スル所ノ液体ナ
リ

右ノ三例中最モ精確ニシテ能ク論理ニ適スルハ第一例ナリ

(二)ハ液体ノ下ニ能ク流動スルモノナリヲ以テ是レ剩餘ニ
屬スルモノニシテ却テ定義ヲ不精ニスルノ弊アリ又(三)ハ熱

ヲ受ケテ能ク沸騰スル所ノ液体ナリト記スレバ此形質タル
特ニ純水ニ要スル所ノモノニ非ス故ニ是レ亦定義ノ精確ヲ
欠クモノタルヲ免レス是ニ依テ之レヲ見レハ凡ソ定義ヲ精
確ナラシメザルニハ剩餘若クハ不要ノ形質ヲ添加セザルヲ要
スルヲ知ルヘシ

第四則 定義ハ可成的肯定ニ作り否定ニ作ラサルヲ可トス

例解 (一) 直線ハ其方向ヲ變スルコトナキ線ナリ

(二) 直線ハ各部皆テ同一ノ方向ヲ有スル線ナリ

右二例ハ就レモ正シクシテ(一)ハ否定ニシテ(二)ハ肯定ナリ此

ノ如キ場合ニ於テハ肯定ニ就クテ何トス然レモ或ル場合ニ
於テハ否定ニ非レハ定義ヲ作ル能ハサルコトアリ然ルレハ勿

論否定ニ從ハサルヲ得ス

第五則 定義ハ理解シ易キ文辭ヲ用ヒテ作ルヲ可トス

例解

(一)(二)(三)

論理學ハ真理ノ繁微富ナリ

論理學ハ理解ノ熾盛ナリ

論理學ハ思想ノ法ヲ究ムルヲ以テ目的トスル學科ナリ

右三例中(一)ハ殆ト其義ヲ解ス可ラス(二)ハ比喻ノ體ニシテ亦

理解シ易カラズ唯(三)ハ言辭簡明ニシテ最モ理解シ易キヲ以

テ其當ヲ得タルモノトス

凡ソ論理的定義ヲ作り得ヘキモノハ一ノ種ニシテ其屬ト種

差トチ有スルモノニ限レルヲ以テ次ノ諸例ノ如キハ論理的

定義ヲ作ル能ハサルモノナリ

平面形ハ平面ノ一部ナリ

論理的定義
ヲ作ル能ハ
キルモノハ
例

最高等ノ
概念

平面形ナル概念ハ最高等ニ在ルヲ以テ種差チ有スルヲナシ
是ヲ以テ論理的ニ其義ヲ定ムルヲ能ハサルモノナリ

甘キハ一ノ味ナリ

辛キハ一ノ味ナリ

右ノ如キ單純ナル概念ハ其義自ラ明々タルモノニシテ別ニ
定義ヲ作ルヘキ様ナシ是ヲ以テ論理的ニ其義ヲ定ムル能ハ
サルモノトス

單純ノ概
念

單獨體

彼人ハ身體肥滿顔貌圓且大ニシテ眼鏡ヲ鼻隆ク日大ニ
シテ頤ニ黒痣アリ四支ハ尋常ナレモ左手ノ癖アリ

凡ソ單獨體ハ論理的ノ定義ヲ作ル能ハサルヲ以テ右ノ例ニ
示セル如ク他ノ單獨體ヨリ區別スヘキ多數ノ特有點ヲ歴舉
シテ以テ其定義トナスモノナリ

定義ノ要

(寅) 定義ノ教育上ニ要用ナル所以ヲ論ス
 吾人萬般ノ事物ニ就テ得ル所ノ知識ヲ精確明瞭ナラセムル
 ハ能ク其義ノ範圍ヲ限定スルニ由ラズンハアラズ然シテ之
 ナ限定スルハ論理的定義ニ依ラサレハ能ハス又宇宙間ノ事
 物其數億萬限リナキヲ以テ吾人限リアルノ腦力ト年月トヲ
 以テ其各個ヲ知悉シ得ンコトハ固ヨリ望ム可クスト雖モ今其
 類ニ隨テ之カ概念ヲ作り然セテ精確ナル定義ヲ以テ各概念
 ナ區別セハ千百ノ事物モ一概念ノ中ニ包括シ一定義ノ下ニ
 明畫スヘキヲ以テ其積聚スル所ノ知識ハ愈精確ニ至リ多々
 益辨スルノ効ヲ見ルヘシ是レ論理的定義ノ教育ニ要用ナル
 所以ナリ

 辨決
 例解

定義

第三 辨決

(甲) 辨決ノ定義

爰ニ例解ヲ設ケテ辨決ノ義ヲ明ニスヘシ

人ハ動物ナリ

人ハ神ニ非ス

右ノ例ニ於テ人ハ動物ナリトハ其然ル事ヲ示シ人ハ神ニ非
 ストハ其否ラセルコトヲ示スモノナリ此ノ如ク事物ノ然ルカ
 否ラサルカヲ判定スル所ノ心ノ動作ヲ辨決ト云フ即チ二箇
 ノ概念若クハ二箇ノ事物ヲ比較シテ其一致セルカ一致セサ
 ルカヲ定言スル所ノモノナリ

主位
屬位
定言

命題

(乙) 辨決ノ原行

又上ノ例ニ就キテ見レハ辨決ハ三箇ノ元行ヲ有シ其第一ハ依テ以テ他ノ概念ノ比較ヲ行フヘキモノ(人ハ)ニシテ之ヲ辨決ノ主位トス第二ハ第一ニ比較スル所ノモノ(動物(神)ニシテ其屬位トス第三ハ第二ノ概念第一ノ概念ト一致スルヤ否ヤノ關係ヲ現ハスモノ(ナリ(非ス)ニシテ)之ヲ其定言トス然レテ主位及屬位ハ辨決ノ兩極ト稱スルモノナリ
命題ハ辨決ヲ表スル所ノ言辭ニシテ其主位及屬位ハ辨決ノ主位屬位ニ同シ然レテ之ヲ命題ノ兩極ト稱スルナリ

(丙) 辨決ノ種類

(子) 肯定及否定

肯定及否
定ノ別

全決及特
決ノ別

凡ソ辨決ノ主位ト屬位ト一致スルヲ定言スルモノハ肯定ニシテ其一致モサルヲ定言スルモノハ否定ナリ乃チ馬ハ動物ナリト云フカ如キハ肯定ニシテ馬ハ啖肉獸ニ非スト云フカ如キハ否定ナリ

(丑) 全決及特決

又辨決ノ定言スル所其主位全體ニ涉ルモノハ全決ニシテ唯其一部ニ止マルモノハ特決ナリ乃チ各種ノ鳥皆チ卵生ナリト云フカ如キハ全決ニシテ或ル鳥ハ白シト云フカ如キハ特決ナリ

(丁) 辨決ハ主位ニ就キ何者ヲ表明スル乎

辨決ノ主位ニ就キ表明スル者ノ例概テ左ノ如シ

(一)(二)(三)(四)

猿ハ動物ナリ

猿ハ四手アル動物ナリ

猿ハ四手ナリ

猿ハ狡猾ナリ

右ノ例ニヨリテ見レハ第一ハ主位(猿)ニ就キ其屬(動物)ヲ表明
第二ハ其定義(四手アル動物)第三ハ其重要ナル形質(四手)第
四ハ其偶有ノ形質(狡猾)ヲ表明セリ故ニ辨決ハ其主位ニ就キ
其屬若クハ定義若クハ重要又ハ偶有ノ形質ヲ表明スルモノ
ナルヲ知ルヘシ

第四 論辨

辨決ノ主
位ニ就キ
表明スル
者

論辨

例解

(甲) 論辨ノ定義

左ニ例解ヲ設ケテ論辨ノ義ヲ明ニスルノ用ニ供スヘシ

(一)

駱駝ハ肉ヲ喫フカ

駱駝ハ反芻獸ナリ

反芻獸ハ肉ヲ喫ハス

故ニ駱駝ハ肉ヲ喫ハス

(二)

水銀ハ凍ルヘキカ

水銀ハ液體ナリ

液體ハ凍ルヘシ

故ニ水銀ハ凍ルヘシ

右第一例ニ於テ(駱駝ハ)肉ヲ喫フカノ問題ハ直ニ其二概念ノ
一致スルヤ否ヤヲ判決スル能ハヤルヲ以テ假リニ第三ノ概

念反獨獸ヲ介入セテ主位驢鹿ト一致スルヤ否ヲ考ヘ其一致
 スルニヨリテ「驢鹿ハ反獨獸ナリ」ノ辨決ヲ下シ次ニ此概念反
 獨獸ト前ノ屬位肉ヲ啖フカトト對比シテ其一致スルヤ否ヲ
 考ヘ一致セサルヲ見テ「反獨獸ハ肉ヲ啖ハス」ノ辨決ヲ下シ然
 シテ終ニ「驢鹿ハ肉ヲ啖ハス」ノ否定ノ辨決ヲ下シタルナリ又
 第二例ニ於テハ「水銀」凍ルヘキカノ二概念ノ一致スルヤ否
 ヤヲ判定スル爲メ第三ノ概念液體ヲ介入シテ之ヲ考フルニ
 前ノ主位「水銀」ニモ其屬位「凍ルヘキカ」ニモ一致スルヲ以テ遂
 ニ「水銀ハ凍ルヘシ」ト肯定ノ辨決ヲ下シタルナリ故ニ論辨ハ
 二箇ノ概念ヲ以テ同シク第三ノ概念ニ比較シ二者各第三ト
 一致スルヲ見テ肯定ヲ下シ其一致者第三ト一致セサルヲ見テ
 否定ヲ下ス所ノ心力ノ動作ナリト云フヘシ

歸納論辨

例解

(乙)

(子)

論辨ノ種類

歸納論辨

左ノ例解ハ歸納ノ論辨ヲ説示スルモノナリ

林檎ノ色青クシテ其質堅キモノハ其味酸キヤ

茲ニ人アツ林檎ヲ買ハントス補頭一就キ其一顆ヲ取リテ之
 ヲ啗スルニ其色青ク其質堅シ面シテ之ニ味ハ酸キヲ覺フ
 次ニ他ノ一顆ヲ試ムルニ是亦其色青ク其質堅クシテ其味ハ
 酸シ於是第三顆ヲ試ムントスルニ先ナテ之ヲ觀察スルニ其
 色青ク其質堅ク故ニ之ニ味ハ酸シテ斷定ヲ下シテ曰ク此林
 檎ハ酸シ何トナレハ余カ觀察ニヨルニ凡ソ林檎ノ色青クシ
 テ其質堅キモノハ皆其味酸シ今此林檎ハ其色青ク其質堅シ

故ニ其味モ亦酸カラサルヲ得サレハナリト
 此一例ノ如キハ實ニ卑近ニ屬スト雖モ能ク歸納ノ論辨ヲ解
 説スルニ足レリ然レモ其觀察タル値ニ一人ニ止リ其試驗タ
 ル儘ニ二回ニ止ルモノナレハ未ダ以テ充分ノ歸納ナリト云
 フ可ラス於是日本ニテ多ク林檎ヲ産スル地方ノ人民ニ問テ
 謂ハンニ子等カ經驗ニヨレハ其色青ク其質堅キ林檎ハ皆其
 味酸キヤ彼等果シテ其然ルヲ答ヘン次ニ支那印度歐羅巴亞
 米利加等ノ人ニ就キテ之ヲ買スモ皆之ニ同意セハ始メテ充
 分ナル歸納ノ論辨ナリト云フヘレ

以上説示セルカ如ク始メ一箇ノ林檎ヲ試ミテ其色ノ青キト
 其質ノ堅キトニハ其味ノ酸キ性質ノ伴フヲ發見シ次ニ數
 回ノ經驗ヲ以テ數箇ノ林檎ヲ試ミ皆テ其必ス然ルヲ確認シ

定義

遂ニ其味酸シタル性質ハ其同種ノ林檎皆テ之ヲ具スルモノ
 ナリト定メタルナリ故ニ歸納ノ論辨ハ同種ノ事物數箇ヲ觀
 察シ皆有ノ一性質ヲ具スルヲ見テ其性質ハ其種ノ事物皆テ
 必ス之ヲ具スルモノナリト考定スルニ在ルナリ
 凡ソ歸納ノ論辨ニヨリテ精確ナル成績ヲ得ンニハ其要項四
 アリ

要項四則

- 第一 觀察スル所ノ各物ニ就キ下ニ所ノ辨決ハ皆同一ニ
 歸スルヲ要ス
- 第二 充分多數ノ物ニ就キ辨決ヲ下スヲ要ス
- 第三 何レノ辨決ニモ例外アル可ラス
- 第四 此論辨ハ全ク實事ノ觀察ニ基クテ以テ其觀察ハ最
 モ精確ナラザル可ラス

(五) 酌例論辨

酌例論辨

例解

左ノ一例ハ酌例ノ論辨ヲ説示スルモノナリ

成層石ハ水力ニヨリテ成リタルモノナリヤ

吾人海邊若クハ河畔ニ立テ其岸頭ノ崩レタル所ヲ觀察スレハ細砂ハ細砂ノ一層ヲ成シ巨礫ハ巨礫ノ一層ヲ成シテ累々疊積シ其中或ハ魚介ノ遺骸ヲ埋メ或ハ草木ノ枝葉ヲ藏スルモノアルヲ見シ是レ皆水力ノ砂礫等ヲ輸送シ來リテ斯ノ如キ新層ヲ成シタルハ實地ニ就キテ之ヲ觀察シ得ヘシ今茲ニ一塊ノ岩石アラシク之ヲ成ス所ノ物質ハ全ク砂礫ニ異ナラス又其層ヲ成スノ狀ハ海岸若クハ河邊ノ新層ニ異ナラス又其中ニ魚介碎木等ノ化石シタルモノヲ保有セハ此石

定義

ハ彼ノ砂礫ノ新層ト同シ亦水力ニヨリテ成リタルモノナリト考定スヘシ何トナレハ此岩石ノ有スル數多ク形質ハ彼新層ノ形質ト相同シキレハナリ

酌例ノ論辨ハ上例ノ如ク二箇若クハ其以上ノ物ヲ觀察スルニ其主要ナル形質ノ多數互ニ相一致スルヲ以テ其他ノ主要ナル形質モ亦總テ相一致スト考定スル所ノモノナリ

凡ソ酌例ノ論辨ニ於テ精確ナル成致ヲ得ンニハ其要項ニア

要項二則

第一 同似ノ形質ヲ觀察スルハ其數多カラシク要ス

第二 觀察スル所ノ形質ハ皆ナ主要ナルモノナラシク要ス

要ス

演繹論辨

(寅) 演繹論辨

左ノ一例ハ演繹ノ論辨ヲ説示スルモノナリ

金剛石ハ燃ユヘキカ

吾人曾テ數多ノ經驗ニヨリテ一箇ノ通法ヲ得タリ曰ク炭素
質ノ物ハ皆テ燃ユヘシト今金剛石ヲ檢スルニ是亦一箇ノ炭
素質ノ物ヨリ故ニ断定シテ曰ク金剛石ハ燃ユヘシト

演繹ノ論辨ハ上例ノ如ク一ノ通法ニヨリ其下ニ屬スル所ノ
諸般ノ事物ヲ推論測定スルモノニシテ或ハ之テ一ノ全體ニ
テ諸部分ニ推及スルノ法ナリト云フモ可ナリ

凡テ演繹ノ論辨ノ當否ハ其信據スル所ノ通法ノ正否ニ隨フ
ヘキモノナレハ其通法極メテ確實ナルモノヲ取用センヤチ
要ス

例解

定義

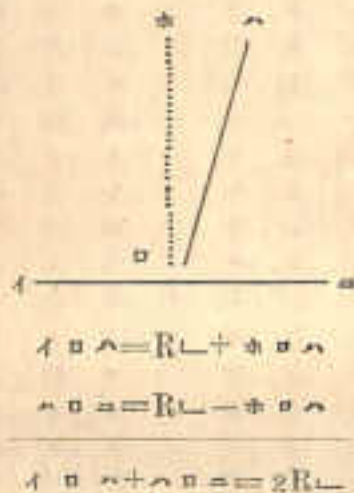
要項

指斥論辨

(卯) 指斥論辨

左ノ例解ハ指斥ノ論辨ヲ説示スルモノナリ

「イロハ」「ハロム」ナル二角ノ和ハ二直角ニ等シキヤ



$$\text{イロハ} = R \perp + \text{ハロム}$$

$$\text{ハロム} = R \perp - \text{イロハ}$$

$$\text{イロハ} + \text{ハロム} = 2R \perp$$

右ハ幾何學第一款ノ例ヲ示シタルモノニシテ「ハロム」一線「ロ」

定義

於 \angle イニニ會 \angle イロハニニノ二角ヲナスモノナリ令 \angle ロニ
ヨリ直立線 \angle キロヲ引クト假想スルハ \angle イロキ \angle キロニ \angle ノ二直
角ヲ得乃チ前ノ二角ノ之ニ等シキ \angle ハ數理上判然トシテ之
ヲ疑ハント欲スルモ得可 \angle キルハ右ノ例解ニ照シテ知ルヘ
シ

指斥ノ論辨ハ上例ノ如ク其結論ノ眞理確立シテ疑ヲ容ル可
クサルニ至ルモノナリ

蓋然論辨

蓋然論辨
例解

左ノ諸例ハ蓋然ノ論辨ヲ說示センカ爲メ設ケタルモノナリ

- (一) 月ハ青色ノ干酪ヨリ成レルカ
- (二) 月ハ動物ノ棲息スル所ナルカ

(三)

月ハ水ナク空氣ナキ焦土ヨリ成レルカ

西俗或ハ月ハ青色ノ干酪ヨリ成レリト云フモノアリ是レ蓋
然ノ論辨ヨリ出テタルモノト看做スヘシ又或ハ月ハ動物
ノ棲息スルチ信スルモノナリ是レ甚疑フヘシト雖也其信ス
ヘキノ理由アル以上ハ亦蓋然ノ論辨ニ歸セサル可ラス又星
學ニ精キモノ多年間月ノ現象ヲ觀察シテ月ハ空氣ナク水ナ
キ焦土ヨリ成レルモノナリト云ハンは信スヘキニ近シト
雖也亦蓋然ノ論辨タルニ過キス何トナレハ實ニ其然ルヤ否
ヤヲ檢定スル能ハサルヲ以テナリ

吾人ニ固ク信シテ疑ハサル所ノ事實ト雖也其信憑ヲ究ムレ
ハ蓋然ノ論辨ニ歸セサルチ得ヤルモノ甚多シ例ヘハ地球
ノ回轉スト云フカ如キモ其究極スル所則蓋然ノ論辨ニ歸

定義

ルヲ得サルモノナリ
右諸例ヲ以テ示セル如ク蓋然ノ論辨ハ其真理ヲ維持スル所
ノ證據ト信ス可ラサルノ点ヨリ頗ル信ヲ置クヘキ点マテ變
化スル所ノモノナリ

(丙) 論辨力ノ教育ニ要用ナル所以ヲ論ス

論辨ノ教育
上ニ要用ナ
ルヲ論ス

教育ノ度稍進ムルハ諸學科ヲ授クルニ各種ノ論辨力ヲ用ヒ
サルモノ甚少シ乃チ主トシテ歸納ノ論辨法ヲ用フルモノハ
博物ニ屬スル諸科ニシテ金石植物動物ヲ研究スルカ如キ皆
此法ヲ假ルモノトス多ク酌例ノ論辨法ヲ用フルモノハ地理
歴史ニシテ各國ノ貧富強弱古今ノ盛衰興亡ヲ講明スルカ如
キ此法ヲ假ルモノ少カラズ又演繹ノ論辨ハ修身學等ニ要ス

ル所ダリ例ヘハ己レカ欲セサル所以ヲ人ニ施ス勿レノ適法
ハ吾人百般ノ行爲ニ推及シ得ヘキカ如シ又措斥ノ論辨ハ數
學ニ欠ク可ラサル所ノモノニシテ凡ソ初等ヨリ高等ニ至ル
マテ算數ノ學ニ於テハ此法ヲ用ヒサルモノナレト云フモ可
ナリ

斯ノ如ク各種ノ論辨法ハ諸學科ノ教授ニ要スル所ノモノナ
レハ務メテ其增長ヲ謀ラサル可ラズ然シテ其養成法ハ該諸
科ヲ授クルニ當リ教誨巧ニ疑問ヲ設ケテ生徒ヲシテ深思精
考ノ上終ニ之ヲ解カシメ以テ推考力ヲ鍛鍊スルニ在ルナリ

第五 省察力ノ定義

省察力ノ定

省察力ハ依リテ以テ概括、辨決、及論辨スル所ノ心力ナリ即チ

之ヲ思考ノ心力ト云フモ可ナリ

情ノ定義

身体上ノ感
ト心性上ノ
感トノ別

第三篇 徳育

第一章 情性

第一 情ノ定義及種類

情ハ感スル所ノ心力ニシテ吾人カ之ニヨリテ快樂若クハ痛
苦ヲ覺フル所ノモノナリ

今情ノ發動スル所ノ原因ニ從テ之ヲ分ツトキハ凡ソ二種ア
リ例ヘハ吾人病ニ罹リ身体疲勞シテ痛苦ヲ覺フルカ如キ假
令ヒ自ラ快樂ヲ得ント欲スルモ能ハサルヘシ是レ其痛苦ナ
ル感ハ全シ身体上ヨリ起リ來ルモノニシテ之ヲ身体上ノ感
ト云フ又吾人身体壯健ニシテ更ニ身体上ノ痛苦ヲ覺フルナ

身體上ノ感
ト心性上ノ感
感トハ密着
ノ關係ヲ有
ス

善ハ情性ノ
基本ナリ

キモ偶々親戚朋友等ノ因由ヲ聞キテ大ニ憂苦ヲ覺フルカ如
キ之ヲ心性上ノ感ト云フ
身體上ノ感ト心性上ノ感トハ斯ノ如ク分別シ得ヘシト雖モ
交互ノ間實ニ密着ノ關係ヲ有スルモノニシテ心中憂苦スル
所アレハ必ズ身體ノ衰微ヲ來シ心中喜悅スル所アレハ大ニ
身體ノ壯盛ヲ増スモノナリ又身體壯盛ナレハ充分ノ快情ヲ
賜フルヲ得ヘク身體衰耗スレハ憂情隨テ伴ヒ來ルヘシ故ニ
心情ヲ養フハント欲スレハ須ク身體ヲ養フヲ要スヘシ是レ
心育ト體育ト并行シテ偏廢ス可ラサル所以ナリ

吾人カ心中快樂痛苦ヲ覺フルハ抑何ニ因リテ然ルヤ先ツ第
一ニ享受スル所ノモノ感ハ痛苦タリ或ハ快樂タルヲ感スル
ノ基本トナルヘキモノ無ル可ラス若シ然ラザフンコト何チ

以テカ其快樂タリ痛苦タルヲ覺フルヲ得ンヤ今其基本トナ
ルヘキモノヲ探究スルニ善ナルモノアリテ存スルナリ吾人
ノ性素ト善ナルヲ以テ外物ニ善ナルモノアレハ之ト和シテ
其善ナルヲ覺リ固ク快樂ヲ享受スヘシ又外物ニ不善ナルモ
ノアレハ之ト反シテ其不善ナルヲ覺リテ痛苦ノ感ヲ發スヘ
シヤレハ善ハ情性ノ基本ニシテ孟子ノ所謂性善モ亦此義ニ
外ナラザルヲ知ルヘキナリ

第二章 情緒

情緒ノ定義
及區別

情緒ハ智性上ニヨリ來ル所ノ感情ナリ今之ヲ大別シテ本能上
ノ情緒道理上ノ情緒トス即チ第一ハ概テ肉體ニ屬スル下等
ノ情緒ニシテ第二ハ理性上ヨリ來ル所ノ一層高等ノ情緒ナ

第一 本能上ノ情緒

(甲) 喜

本能上ノ情緒

喜

春日四山ヲ望メハ百花皆時ヲ得テ芬々ノ香ヲ放チ黃鳥春歌
ヲ弄シ暖風徐ロニ河邊ノ柳ヲ動カシテ人ヲ迎フルカ如ク烟
霞遙ニ山岳ニ圍引キテ花鳥ヲ樂マシムルノ情趣アリ今此境
遇ニ會シ吾人一種ノ快情ヲ覺ヘ有生無生ヲ問ハス萬物皆笑
フカ如ク語ルカ如ク有權アルノ感情ヲ發スルナラン是レ喜
ノ本能ナリ

幼時ニ於テ喜悅ノ情ヲ發ス

人幼時ニ在リテハ萬物ヲ友視シテ常ニ喜悅ノ感情ヲ發シ恰
モ前章説シカ如キ境遇ニ在ルノ想ヲナスコト最モ多シ故ニ唱

ノ憂

歌遊戯等ニヨリ發メテ此種ノ感情ヲ養ヒ以テ教授ニ適用ス
ル所ハ大ニ事業ノ活潑ヲ助ケ哲學ノ厭倦ヲ防クノ効益シ少
カラストス

(乙) 憂

憂

愛情ハ歌育上ニ害ナアルモ益ナシ

愛情ハ詩

憂ハ喜ノ反對ニシテ秋風飄々トシテ落葉ヲ飛ハシ月光影幽
カニシテ西山ニ落トントスルトキ孤燈ノ下ニ亡友ヲ追思ス
ルカ如キ一種不快ノ感情ナリ抑此感情ハ普通ノ教育上ニハ
害アルモ益ナキモノナレハ務メテ其發動ヲ抑制除去セザル
可ラス彼狂人ノ間々不斷悲泣ノ症ニ陥ルカ如キ憂苦ノ積習
ニ因スルモノ少シトセス實ニ恐ルヘキノ至リナラスヤ
古來有名ノ詩人中憂愁無聊ノ情態ニテ一生ヲ送り其詩ハ却

歌ノ學ニハ要アリ

學校唱歌ニ悲曲ヲ用ヒサルノ理

テ雄偉ナルモノアルヲ見レハ此感情モ亦詩歌ノ學ニハ欠ク可ラサルモノニ似タリ然レト雖モ是レ高等ノ專門教育ニ要スヘキコトニシテ普通ノ教育ニハ其要ヲ見サル所ノモノナリ普通ノ學校ニ於テ所ノ唱歌ニ悲哀ノ調ニ屬スル歌曲ヲ用ヒサルハ亦此理ニ由ルモノトス

同感

(丙) 同感

他人ノ喜怒哀楽ヲ見聞シテ之ヲ自己ノ身上ニ引當テ己レ其喜怒哀楽ヲ享受スルカ如キ想ヲナス之ヲ同感ト云フ乃チ孔子ノ所謂恕ト較其義ヲ同フスルモノナリ

幼時ニ於テ同感ヲ養フ

同感ハ幼時ヨリ興發スルモノニシテ之ヲ發育スルハ教育者ノ要務ナリ吾人徳義上ノ行爲ハ其源ヲ此感情ニ發スルモノ

ノ要

最も多シ故ニ教育家ハ家庭ニ在リテモ學校ニ於テモ機ニ應レ時ニ投シ苟モ幼兒ニ同感ヲ與フヘキモノアルトキハ務メテ其機會ヲ利用シ此感情ヲ養フヲ怠ル莫レ

第二 道理上ノ情緒

(甲) 笑樂

道理上ノ情緒

笑樂

笑樂ハ事物若クハ觀念ノ不恰好不意又ハ不時ノ結合ニ會テ感起スル所ノ情緒ナリ例ヘハ茲ニ一紳士アリ身ニ禮服ヲ纏ヒ頭ニ高帽ヲ戴キ足ニハ光澤漆ノ如キ洋靴ヲ着ケ手ニハ白色手袋ヲ穿テ手袋ヲ穿テ威儀堂々ト裝フト雖モ偶々脚袴ノ一部ニ破綻ヲ生シ外套ノ鈕ル毎ニ赤肉ヲ現ハスカ如キコトアリ誰カ之ヲ見テ笑ヲ催サ、ルモノアラン是レ他ナシ彼紳

士ノ威儀ヲ見テ萬事悉ク具足スヘシト想ヒノ外偶々彼裂綻ノ如キ不恰好ナル所アルヲ發見セテ之ヲ笑フニ過キサルノハ故ニ笑樂ハ我理想スル所ノ理ト他ノ表出スル所ノ事物又ハ觀念トナ比較セ其結合不恰好又ハ不意ニ出ルニ因リテ發出スルモノナルヲ知ルヘシ蓋シ笑樂ハ人類ノニ存シ他ノ動物ハ斷ヘテ之ヲ有セサルハ事實ノ著明ナルモノナリ或ル學士ノ説ニ他ノ動物ニハ道理ト稱スヘキモノナキニヨリテ然リト云フモ亦一理アルニ似タリ

嗤笑嘲弄
ハ制止セ
サル可ク
ス

笑樂ハ喜悅ノ情内ニ滿チテ其瀾洩チ外ニ求ムルニ出ツルモノアリト雖モ亦嗤笑嘲弄等ノ如キ惡意ノ原質ヲ有スルモノ甚タ多キニ居レリ他人ノ短所ヲ求メテ嗤笑ノ資ニ供スルコト幼兒ニ於テ間々見ル所ナリ斯ノ如キ習癖ハ其成形猶全カラ

美妙

幼時ニ於
テ美妙ノ
情緒ヲ養
フノ要

サルニ際シテ之ヲ制止セサル可ク

(乙) 美妙

今驟雨忽チ晴レ夕陽雲間ニ洩レテ紅彩山間ニ燦然ト現出セシニ誰カ此景色ヲ見テ一種無比ノ感情ヲ發セサルモノアラズ斯ノ如キ感情ヲ美妙ノ情緒ト云フナリ

美妙ナルモノヲ論究スルハ美學ノ專旨トスル所ニシテ其理論甚多岐ニ涉ルト雖モ實地教育ニ要スル所ハ幼時ヨリ圖書彫刻音樂等ノ如キ美ナル事物ニ就キテ美妙ノ情緒ヲ養悅シテ成長ノ後其趣味ヲ高尚ニシ以テ君子温如玉ノ結菓ヲ得ンコトヲ務ムルニ在リ

高妙

(丙) 高妙

秋夜高山ノ嶺ニ佇立シテ上蒼穹ヲ望メハ幾億千萬ノ星辰閃々
々羅布シテ下大地ヲ見レハ老杉古松斷崖千尺ノ下ニ鬱然森立
ス四面寂トシテ人聲ヲ聞カス唯泉聲ノ偶々風ニ和シ來ルア
リ斯ノ如キ境遇ニ際シ吾人ハ一種美妙ニシテ且嚴肅ナルカ
如キ感情ヲ盡ス是レ即チ高妙ノ情緒ナリ

高妙ノ情
緒ハ志ヲ
高尙ニ導
クノ要アリ

高妙ノ情緒ハ浩大無量ノ事物ニ感シテ盡スルモノナレハ人
ノ志チ高尙ニ導クノ一大要具ナリ此情緒ヲ養フハ多ク成人
ノ後ニ在リテ山河ヲ跋渉シテ天造ノ奇ヲ探リ青史ヲ沙塵シ
テ人物ノ偉業ヲ見ル等ニ依ルモノナリ

(丁) 自得及悔恨

自得及悔
恨

凡ソ人善事ヲ行フハ其心自ラ安シク満足スル所アリ又惡
事ヲ爲スルハ其心安セス自ラ省ミテ其疾シキヲ覺フ是レ即
チ善行ニ於テノ自得惡行ニ於テノ悔恨ナリ

本題ノ情
緒ハ徳育
上重要ノ
關係ヲ有
ス

本題ノ情緒ハ道德上ノ教育ニ頗ル重要ナル關係ヲ有スルモ
ノニシテ人ノ品行ヲ規正スルハ主トシテ此情緒ノ存スルニ
モレリ然リト雖モ最幼兒ノ如キ正邪ノ辨別猶乏シキモノニ
アリテハ此感情ノ力ヲ送スル能ハサルヲ以テ誘導馴致ノ功
ヲ積ニ年齢漸ク成長シ理性漸ク開達スルヲ待テ内省ノ工夫
ヲ授ケ終ニ君子不愧屋漏ノ地ニ達シタルヲ務ムヘシ

情款ノ定義

第三章 情款

情款ハ他人ニ向テ善事若クハ惡事ヲ加ヘントシテ願フ所ノ感

情ナリ故ニ之ヲ分ナク善意ノ情款及惡意ノ情款トス

第一 善意ノ情款

(甲) 親族及朋友ノ愛

慈愛ノ情款
慈愛孝順
ノ情款ハ
天然ニ存
ス

父母ハ其子ノ幸福ヲ願ヒ子ハ其父母ノ安樂ヲ願フ是レ慈愛
孝順ノ情款因リテ生スル所ニシテ吾人ノ性中天然斯ノ如キ
原質ヲ具有スルハ疑フ可ラサル所ナリ是レ此愛タル實吾人
人間ニ存スルノコトヲス禽獸ニ於テモ均シク之ヲ有スルハ
母馬ノ其子ヲ保庇セテ遠ニ狼牙ニ飽レ叱羅ノ其雌ヲ愛育ス
ルノ際猫兒ヲ恐レサル以テ見ルヘシ

父子相愛
スルノ重
旨

抑父子相愛スルハ人倫ノ大本ナレハ家庭ノ教育ニ於テハ最
モ重スヘキ所ニシテ古人モ父子ノ間ハ善ヲ責メスト云ヘリ

學校ニ於
テ友愛ヲ
養フノ法

是レ善ヲ責ムレハ父子親愛ノ情ヲ傷ツノ憂アレハナリ故ニ
孝順ノ道ハ學校ニ於テ最モ其教養ヲ務ムヘキ所ナリトス
父子相愛スルノ情ヲ擴充セテ兄弟姉妹ヨリ遠ニ朋友ニ及ホ
スモノ友愛トナルナリ友愛ノ情款ハ互ニ相識リ親レテ相交
ハルモノ、間ニ發生スルモノナレハ學校ニ於テ之ヲ養成ス
ルヲ決シテ難キニ非ス故ニ教育者ニ或ハ生徒肄邊ニ圍繞シ
テ談話ヲ催スノ時ニ際シ或ハ遊歩場ニ携手同遊スルノ機ニ
投シ其交友ノ情ヲ厚スルノ方向ニ誘フヲ勉ムヘシ
吾人世ニ立テ事ヲ行フニ當リテ最モ要スルモノハ其友ナリ
故ニ小時ヨリ友愛ノ情ヲ養フハ異日立身ノ基ヲナスニ於テ
最モ欠ク可ラサルモノトス又幼時ノ研學ニ於テモ既ニ友交
上ヨリ益ヲ得ルヲ鮮少ナラサルナリ

友愛ヲ養
フノ要

愛國ノ情
ノヲ生スル

(乙) 本國ノ愛

年來所用ノ古鏡ハ其價貴キニ非ス其質ノ美ナルコト非ルモ之ヲ愛重スルハ他ノ鏡ヨリモ優ルヘシ祖先傳來ノ寶劍ハ其品精ナラサルモ其刃鋭ナラザルモ之ヲ珍重スルハ他劍ノ及ハサル所ナルヘシ是レ他ナシ我身ト友伴スルノ久キニヨリテ自ラ之ヲ愛スルノ深キニ至ルモノナリ愛國ノ情亦其理之ニ同シ幼時ヨリ親シク我周匝ニ現在ニ在ル山河ノ景色田圃ノ觀望等年來我生長ニ伴ヒ來リタルヲ以テ其間自ラ親密ノ想ヲ積ミ之ヲ他國ニ比スレハ一層慕ハセク一層愛スベキ所アルヲ覺フルニ因リテ生スルモノナリ

愛國ノ情

學
技
報
印

ヲ養フノ
要及其法

惡意ノ情狀
怒

第二 惡意ノ情狀
(甲) 怒

ハ務メテ之ヲ教養セザル可クヌ其法學校ニ於テハ本國ノ地誌歴史唱歌等ニヨリテ其國土ノ美質人物ノ偉業等大ニ他國ニ優ルモノアルヲ示セテ國粹ノ心ヲ培植シ以テ其教育ヲ責スルニ在リトス

怒ハ吾人他ノ耻辱傷害等ヲ受ケテ思フトキ特然胸懷ニ積シ來ル所ノ感情ニシテ其眞ルヤ吾人ノ本能ニ屬シ之ヲ遏止ス可ラザルモノトス蓋シ其目的タル已レニ害ヲ被ワシメタルモノニ對シテ即時之ニ應スヘキ痛苦ヲ感セシメ以テ我痛苦ヲ慰セントスルニ在リ故ニ怒ハ過度ニ至ルニ非レハ決

怒ヲ制克
スルノ要

シテ惡徳ナリト云フ可ラス事急劇ニ與リ省察思慮ノ暇ナキ
時ニ際シテ我名譽ヲ保護シ吾自命ヲ防禦スルニハ實ニ欠ク
ヘカラス況ンヤ蓋恐ノ心ニ根シ國步艱難ノ時ニ際シテ身ヲ
振テ國事ニ從事スルハ怒ノ用ニ非ルハナキヤ古人ノ一タ
モ怒テ天下ノ民ヲ安スト云ヘルモ亦宜ナラスヤ
怒ノ發動スルハ素ト本能ニ屬スルコト既ニ説クカ如シト雖モ
其發出ノ際意力ヲ以テ之ヲ制克滅殺ス可ラサルモノニ非ス
類々發怒ノ偏向ハ遠コ一極ノ習癖トナリ他人ノ嫌忌ヲ來シ
朋友ノ同感ヲ失フニ至ルモノナレハ幼時ヨリ此發情ヲ制ス
ルコト教フルハ亦徳育上ニ要スル所ナリ

(乙) 忌嫉

忌嫉

忌嫉ノ惡
徳及其害
ヲ論ス

忌嫉ハ競争上ヨリ來ル所ノ情欲ニシテ他人ノ幸榮富貴等己
レヨリ優レルヲ見テ中心慥カフサルヨリ其發露露落等ヲ顯
フノ情ナリ

忌嫉ノ惡徳タル既ニ説ク所ニヨリテ判明ナリト雖モ少壯有
爲ノ人ニ在リテ名譽心盛旺スルトキハ固々其萌芽ヲ培養シ
來ルノ偏向アルモノナレハ教育者ハ務メテ之ヲ防止セサル
可ラス彼學校ニ於テ進退騷擾等適度ノ限界ヲ超ヘ故ブニ生
徒ノ競争心ヲ挑發スル等ノ方法ヲ設タルハ其極遠ニ此恐
ルヘキ惡徳ヲ養成スルコト至ルヘシ古人モ人ノ技アルヲ嫉疾
シテ之ヲ惡ムノ害ヲ説キテ我子孫黎民ヲ保スルコト能ハスト
云ヘリ察セスンハアル可ラス

報復

報復ハ卑劣
眼怒ノ所
爲ナリ

復讐ノ情
ハ其眞發
ナ防シテ
要ス

(丙) 報復

報復ハ已レ他ヨリ傷害等ヲ受タルニ當リ之ニ等キ傷害ヲ他ニ被ラシメントスルノ情ニシテ多クハ百方思慮ヲ用ラシ謀計術策ヲ用ヒテ其目的ヲ達スルモノナリ

報復ノ起念ハ所謂怨ヲ以テ怒ニ報ユルモノニシテ最も卑劣眼怒ノ所爲ニ屬ス然レモ幼兒ノ石ニ踐踏シテ倒ル、片ハ其石ヲ蹴テ自ラ快シトスルノ情態アルヲ見レハ人生夙ク既ニ其兆顯アルヲ知ルヘシ斯ノ如キ眼情ハ智徳漸ク進ニ事理漸ク明カナルニ隨テ自然ニ消除シ得ヘシト雖モ彼昔時復讐ノ風儀ヲ羨慕スルノ情ヲ發スルカ如キハ主トシテ小説ニ歴史ニ歷々其所爲ヲ稱讚スルノ意ヲ記スルモノヲ讀ムニ因スルモノナレハ子弟ヲ教育スルモノハ常ニ其注意ヲ怠ラサル

ヲ要ス

第四章 欲

欲ハ身体若シシハ心神ノ榮幸ヲ謀ルガ爲メニ要スル所ノ物ヲ得ント執着スルモノナリ今之ヲ別テ身体上ニ屬スルモノヲ肉性欲即チ嗜欲トシ心神上ニ屬スルモノヲ願望トス

第一 嗜欲

(甲) 飲食等

夫レ人欲コレハ食ヲ欲シ渴スレハ飲ヲ欲ス食欲ハ食物ヲ得テ満足シ飲欲ハ飲料ヲ得テ満足ス又空スルモノハ吸氣ヲ欲シ寒ユルモノハ衣服ヲ欲ス是レ均シク嗜欲ニ屬スルヲ以テ

欲ノ定義及區別

嗜欲

飲食吸氣
衣服ノ欲

此等嗜欲
ヲ教育
ノ
法及例

其目的トスル所ノモノヲ得テ満足スヘシ
此類ノ嗜欲ヲ教育上ニ用フルハ現下其享樂ヲ有スルモノヲ
シテ之ヲ失ハンコトヲ恐レシムルノ主義ニ則トルモノナリ例
ヘハ家庭ノ教育ニ於テ子弟ノ澁食ヲ罰スルニハ一二回ノ食
事ヲ欠カシムルヲ以テスルカ如キ又ハ其衣服ヲ汚カシタル
ヲ罰スルニ一二枚ノ服ヲ褫フヲ以テスルカ如キ皆其法ト云
フ可ラサルモ古來用ヒ來リタル方法ニテ前述ノ主義ニヨリ
嗜欲ヲ教育即チ禁方ニ利用スルノ例ナリ

(乙) 休憩及睡眠

休憩及睡
眠ノ欲

吾人身体ヲ勞動シテ筋力費耗シ若クハ精神ヲ使用シテ心力
疲勞スルトキ共ニ休憩ヲ欲ス又身体精神共ニ一定ノ勤勞ニ

此等嗜欲
ヲ調課
スル
ノ例

耐ニ漸ク疲ルハ至レハ睡眠ヲ欲スヘシ是レ皆嗜欲ノ類ニ
屬スルモノナリ

此類ノ嗜欲モ亦前説ノ主義ニ則トキテ教育上ニ利用スルヲ
得ヘシ學校ニ於テ調課事業ヲ用フルカ如キハ即チ其例ニシ
テ生徒終日勉學ノ後心身ノ精力漸ク欠乏スルニ際シ餘分ノ
事業ヲ附加シテ休憩ノ欲ヲ遂シルヲ能ハサシム且其課ス
ル所習字ノ如キ無味ノ一科ナルトキハ精神ノ厭嫌ヲ増スト
一層大ナルヲ以テ其應効頗ル強ク殆ント耐ヲ用テサルニ至
ルモノナリ故ニ教育上止ムヲ得オレテ之ヲ用フル者ハ常ニ
其用ノ過度ニ陥ラサルコトヲ慮ルヘシ

睡眠ニ就
カシ
ル
ノ
應
効

家庭ニ於テ子弟ノ基礎不勉強等ヲ懲ラヌニ準據所定ノ時間
ニ至ルモ睡眠ニ就カシメタル事アリ是レ實ニ耐ニ應キノ處

及後患

謂ハレテ應効亦隨テ大ナリト雖モ却テ後來ノ患害ヲ招クヘキ恐アルヲ以テ容易ニ用フ可クサルモノナリ

第二 願望

(甲) 生存

願望

生存ノ願

吾人何事ヲ爲サント欲スルモ吾身無クセテハ能ハサルヘシ故ニ自身ノ生存ヲ欲スルハ人生最大至強ノ願望ニシテ其亡失ヲ嫌忌スルハ之ニ過クルモノ無ルヘシ

至重ノ願
例ハ行爲
ヲ管束ス

至貧至重ノモノヲ視奪スルハ至嚴至烈ノ痛苦ヲ與フルモノナリ故ニ人世至重ノ願ハ人ノ生命ヲ奪フニ在リ此恐ルヘキ罰例ハ冥々ノ中ニ在リテ人ノ行爲ヲ管束セ益惡ニ陥ラシメタルヲ其効實ニ少々ナラストス

富有ノ願

此願望ヲ
管束スル
ノ要

(乙) 富有

既ニ吾身ノ生存ヲ願フト雖モ苟モ世ニ立テテ幸福ヲ享ケ善事ヲ爲サント欲スレハ其利用ニ供スヘキ財貨ヲ有セザル可ラス故ニ此種ノ欲ハ壯年ノ頃ヨリシテ盛旺スルモノナリ然レトモ若シ理性ヲ以テ之ヲ管束控御スルニ非サレハ遂ニ人間社會ノ最下等ニ陥リ守銭奴トナリテ其生ヲ終フルニ至ルヘシ

(丙) 學識

幼兒ノ事物ニ就キテ其新テ悦ビ其奇ヲ好メ之ヲ遊弄セテ其効用性質原因等ヲ探究スルヲ見レハ智識ノ願望ハ夙ニ盛旺

學識ノ願

此願望ノ
妙用

スルヲ知ルヘシ是レ人ノ無智無學ノ陋域ヲ去リテ靈智具有
ノ異境ニ達スルノ妙用ヲナスモノナレハ務メテ之ヲ開導暢
達スルヲ謀ルヘキナリ(學校管理法百十六葉ヲ參考スヘシ)

權勢ノ願
望

(丁) 權勢

權勢ノ願望ハ我心神ノ欲スル所ニ隨ヒ他ヲ加服シテ以テ我
快樂ヲ増サントスルモノニシテ幼時既ニ其發起スルヲ見ル
蓋シ吾人カ自己ニカノ優レムモノアレハ何時ニテモ能ク他
カヲ左右シ得ルヲ觀察經驗シテ其快味ノ忘ル可ヲサルヲ知
リ隨テ得レハ獨チ望ムノ情自ラ萌起シテ止マサルナリ

吾人ノ權
勢ハ無生
ニモ及ホ

吾人ノ權勢ハ其及ホス所唯有生ノニニ限ルニ非ス彼理學家
ノ物理ヲ研究シ不屈ノ自然力ヲ以テ我使役ニ供シ迅烈ノ電

スモノナ
リ

氣モ電池中ニ盤在シテ傳信ニ傳話ニ彫刻ニ醫療ニ服役スル
カ如キ又強猛ノ瀧力モ汽罐中ニ閉居シテ海運ニ陸輸ニ印刷
ニ紡績ニ從事スルカ如キ我欲スル所ニ從ヒ事業ヲ作ヤシム
ルヲ得ルトキハ其快樂果シテ幾何シヤ是レ皆吾人ノ權勢ノ
無生ニモ及ホス所ナリ

幼時ニ在
リテ權勢
ヲ欲スル
ノ證及其
増長ノ害

人類風ニ權勢ヲ欲スルノ實證ハ學校ニ於テモ每級二三ノ生
徒先導者トナリ教場外ニ在リテハ殆ント首領ノ從者ニ於ケ
ルカ如キ關係ヲ現ハスヲ見テ知ルヘシ若シ教師タルモノ能
ク管理ノ術ニ達スルトキハ其先導者ヲ利用シテ却テ我感化
力ヲ一校ニ及ホスヲナキニ非ス然レモ權勢ノ願望少時ニ
リ増長セシムルハ將來巨害ヲ奈スヘキモノナリ故ニ務メテ
之ヲ抑制セサルヘカラス

尊敬ノ願

(戊) 尊敬

他人ノ我美ヲ語り我善ヲ稱シ我ニ尊敬ヲ加フルニヨリ心中自ラ愉快ヲ感スルハ人皆然リトス美名ヲ求メ尊敬ヲ得ンカ爲ニハ身命ヲ抛テテ願ミサルニ至ルモノアリ故ニ尊敬ノ願望ハ其發達スルニ至リテハ至強ノ勢力ヲ有スルモノナルヲ知ルヘシ

此願望發達ノ利便

此願望ハ夙夕既ニ其發起ヲ見ル所ナレトモ概シテ兒童ノ年齢稍長スルニ及ヒテ旺盛スルモノナリ此願望ヲ達ケンニハ幾分カ他ノ下等ナル諸欲ヲ抑制スルヲ要スルモノナレハ其發達ノ間接ニ脩身ノ益ヲナスコト少カラス然レモ備ニ此願望ヲ增長スルトキハ其弊途ニ虛名ヲ貪リ虛榮ヲ顯フノ惡習ヲ

來スニ至ルヘシ是レ教育者ノ其中庸ヲ得ルニ注意ヲ要スル所ナリ

(己) 社交

社交ノ願

人ハ其性羣居ヲ欲スルモノコシテ決シテ離群索居ニ安ンスヘキモノニ非ス彼獄囚ノ獨リ一室ニ幽閉セラルニ當リ社交ノ情制止ス可ブナルヨリ遂ニ發任ニ至ルカ如キ若クハ憤死ニ及フカ如キ替其證ノ較著ナルモノナリ又人或ハ世路ノ艱險ナルニ際シ俗塵ヲ避ケンカ爲メ身ヲ僻處幽境ニ寄セテ一生ヲ終ヘント謀リ暫ク人交ヲ絶スルモ遂ニ其閑寂ニ堪ヘズシテ再ヒ熱帯ノ俗地ニ出テ來ルカ如キ以テ社交ノ願望ノ深厚ニシテ容易ニ顯シヘカラサルヲ悟ルヘシ

益友ハ社
交ノ真菜
ナリ

吾人世ニ立テ事ヲ行フニ當リ益友ニ頼ミ多クモノハ無カ
ルヘシ益友ハ社交ノ真菜ニシテ古人ノ文ヲ以テ友ヲ會シ友
ヲ以テ仁ヲ輔クトイハレザルハ實ニ確言ナリト謂フヘシ故ニ
少時ヨリ社交ノ情ヲ養ヒ益友ヲ求ムルヲ教ヘサル可ラス
學校ノ此目的ヲ達スルニハ最真ノ場ナリ同級生徒中互ニ親
シク交際ヲ結ブハ自然ノ傾向ナレハ教師ハ當ホ之カ開達ヲ
助成セシメテ要ス

第三 希望及恐懼

希望及恐懼

希望ハ現實存在ニサレモノヲ善視シ將來ニ於テ之ヲ享有セ
ント期スル所ノ念ナリ恐懼ハ其反對ニシテ或ル物ヲ惡視シ
將來ニ發生スヘキ苦難等ヲ期スル所ノモノナリ此二者ハ吾

希望及恐
懼ハ品行
上ニ大ナル
影響ヲ及
ビキス

此二者ヲ
利用スル
ノ利害

人ノ品行上ニ大ナル影響ヲ及ホスヲ少カラス蓋シ非常ノ艱
難ニ臨スルモ猶ホ暗々裏ニ希望ノ光輝ヲ見ルトキハ能ク之
ニ堪フヘク又現在幸福ヲ享有スルモ將來之ヲ亡失スルノ恐
アルトキハ必ス前後ノ思慮ヲ專ニスヘキハ人情ノ自然ナル
ヲ以テナリ

希望及恐懼ハ上ニ説クカ如キ勢力ヲ有スルヲ以テ家庭若ク
ハ學校ノ教育ニ用ヒテ効ヲ奏スルヲ鮮カラス例ヘハ子弟ニ
勤學ヲ諭スニモ數年ノ苦學ハ前途ニ業成リ名達ルノ幸福ヲ
ルヲ以テシテ怠惰遊樂ハ終ニ家ヲ亡シ身ヲ喪フノ禍害アルヲ
以テスルカ如シ然レトモ此二者ハ其勢力斯ノ如ク大ナルヲ
以テ濫用ノ弊ニ至テハ亦慣テ之ヲ防カサル可ラス夫レ家庭
ニ於テ幼兒ヲ威スニ幽霊又ハ怪物ノ來ルヘキヲ以テシ又之

ヲ贈スニ賞品ヲ得ヘキノ希望ヲ以テレテ遂ニ之ヲ實地ニ施
 ス能ハサルカ如キ共ニ欺妄ノ惡念ヲ助成スルニ過キス學校
 ニ於テモ亦然リ或ハ生徒ヲ激罵スルニ過分ノ懲賞ヲ以テシ
 或ハ之ヲ壓抑スルニ過嚴ノ訓何ヲ以テシテ曾テ實地ノ實行
 ニ微證ヌルコトナキカ如キ皆實ニ寸益ナキノモナラス却テ巨
 害ヲ釀成スルモノナリ

第五章 意志

第一 意ノ定義

意ノ定義
 意ハ撰フ所ノ心力ニシテ吾人カモリテ以テ我欲スル所ヲ行
 ヒ得ルモノナリ

意ト習慣トノ關係及其例解

第二 意ト習慣トノ關係

茲ニ一枚ノ書アリ余之ヲ見テ大ニ嘆美シ終ニ之ヲ購買スル
 ノ事ヲ行ヒタリトスルトキハ其之ヲ見タルハ智ニ屬シ之ヲ
 嘆美シタルハ情ニ屬シ其購買ノ途ヲ撰ヒテ之ヲ實行シタル
 ハ意ニ屬セリ此諸心力ノ關係タル吾人百散ノ行爲ニ於テ皆
 然リトス今之ヲ簡説スルコト左ノ如シ

(意) 選擇 (情) 感覺 (智) 思想
 行爲 (情) 動機 (智) 思想

右ニ示セルカ如ク吾人視聽臭味等ニヨリテ一個ノ思想ヲ得
 ルトキハ隨テ一種ノ感覺ヲ興シ乃チ動機トナリテ吾人ノ撰
 擇ヲ促シ終ニ或ル行爲ヲナサシムルニ至ルナリ若シ夫レ思
 想ナクハ感覺ノ興ルヘキナク隨テ動機モ發スルコトナシ動

機ナケレハ選擇行為ヲ促スヘキモノナキヲ以テ撰フモ行フモアヲサレ理ナリ故ニ智ト情トハ意ノ基礎ヲ成スモノナルヲ知ルヘシ

第三 意ニ在リテ緊要ナル二原質

吾人意ト稱スル所ノ心力ヲ分解スルトキハ二箇ノ原質ノ存スルヲ見ルヘシ即チ甲ハ選擇力ニシテ乙ハ執意力ナリ

機力トノ區別

(甲) 選擇力

機力ノ定義

選擇力ハ吾人自ラ爲シ得ヘシト知レル所ノ事ニ就キ之ヲ爲スカ爲キ、ルガニ隨意ニ撰フ所ノモノナリ
吾人百般ノ行為ニ就キ考究スルニ或ル境遇ニ際シ我意ノマ

百般ノ行

爲ハ皆我
機力ニ隨
テ撰ラモ
ナリ

マニ撰フヲ能ハサルカ如キヲアリ又ハ我意ニ反レテ撰フカ如キヲナキニ非スト雖モ細心之ヲ稍極スレハ亦我意ニ隨フニ非キルモノナシ例ヘハ我一事業ニ就カントスルニ擇シ家計等ノ關係ニヨリ終ニ其事ヲ果ス能ハスシテ他ノ事業ニ變スルカ如キ我意ノマニ撰フ能ハサルニ似タリト雖モ其關係ヲ酌量シテ他ノ事業ニ變スルハ即チ目下我意ノ趣ク所ナリ又我意ニ行カント欲スルニ際シ我父東ニ行クト命セハ我意ニ反シテ行途ニ撰フカ如シト雖モ其命ニ從テ東スルハ即チ目下我意ノ趣ク所ニアラスヤ

機道他各
人性能上
ノ品性ニ
決定ス

前文ノ行為ニ反レ其父東セヨト命ユルニ當リテ已レ置セント欲シテ置セハ是レ能ハサルニ非ス又家計ノ如何ニモ關ラズ其欲スル所ノ事業ニ就クモ亦能ハサルニ非ス是レ選擇ハ

全ク我自由ニ任スヘキモノナルヲ以テナリ然レトモ甲ハ父ノ命ニ背キ乙ハ家計ノ困難ヲ察ス兩ナカラ善行ト云フ可ラズ故ニ撰擇ハ各人ノ道德上ノ品性ヲ決定スヘキモノニシテ人チシテ有責ノ動物ヲフシメ之ヲケレハ人視ス可ラサルニ至ル所以ナリ宜ナル哉古人ノ誠意ヲ以テ德行ノ本トナシ格物致知以テ撰擇ノ力ヲ極メテ事理當然ノ地ニ止マラント欲スルコトヤ

(乙) 執意力

執意力ノ
定義ハ
執意力中
ノ道徳性
上ノ品性

執意力ハ吾人ノ撰ヒタル所ヲ實行ニ施スモノナリ吾人既ニ撰擇ヲ所チ定ムルトキハ之ヲ實行ニ施カント欲スヘシ然レトモ吾人ハ常ニ諸種ノ情勢ニ制セラル、コト免レ

スチ
保有セ

サルモノナレハ其撰ヒタル所ノ事モ之ヲ實踐スル能ハセルコトアリ故ニ執意力ハ撰擇力ノ如ク全ク我自由ニ任スヘキモノニ非ス或ハ事變ニヨリ或ハ疾病ニヨリ或ハ他人ノ意力等ニヨリテ之ヲ亡失スルコトアルモノナリ又執意力ハ能ク其施行ヲ送スルヲ得ルモ全ク撰擇力ニ隸屬スルモノナレハ道德上ノ品性ハ其力ノ中ニ保有セサルモノナリ

第四 人ハ道理ヲ育スルヲ以テ撰擇ノ責ニ任セサル

可ラザルヲ論ス

我智情意ヲ具セテ道理ヲ有セルモノナルヲ知ルトキハ茲ニ始メテ完全ノ人タルノ觀念アリ又我々力ヲ以テ物ニ加フルルハ物ニ變化ヲ興スヲ得我實ニ其變化ノ因トナスモノナル

撰擇ノ正邪
ハ意中ニ存
ス故ニ各人
其實ニ任セ
サルヲ得ス

選擇ハ我最
善觀スル所
ノモノニ就
キテ行フテ
法トス

義心即チ義

ヲ知ルトキハ茲ニ始メテ因縁ノ觀念アリ既ニ人タルノ觀念
アリ又因縁ノ何タルヲ知り我欲スル所ニ隨テ選擇ヲ爲スト
キハ其正邪ハ全ク我意力ノ中ニ在リテ存スルモノナレハ我
其真否ノ責ニ任セサルヲ得ルナリ

凡ソ選擇ハ其及キス所常ニ善ト不善トノ二途ニ分ル、モノ
ニレテ其二者孰レヲ撰フヘキカハ素ト我自由ニ任スルモノ
ナレトモ其撰フヤ必ス目下我最善觀スル所ノモノニ就クテ
法トス例ヘハ茲ニ善者ニアリ名譽ト財産トノ如キモノニレ
テ甲ハ乙ヨリ一層高キモノナリト知りタラズニハ必ス乙ヲ
合テ、甲ニ就カサルヲ得ス是レ他ナシ甲乙二者ノ中ニテ甲
ヲ最善觀スルニ由ルノニ斯ノ如ク下等ノ善ヲ合テ、高等ノ
善ヲ取ルモノ之ヲ稱シテ選擇ニ就キ生スル所ノ義心ト云フ

ノ解

各人志ス所
ハ最上ノ目
的ナリ

人ノ徳性ハ
義ニ從ヒテ
高等ノ目的
ヲ立ツ

即チ古來聖賢ノ説示サレタル義ナルモノニ異ナルコトナシ

第五 立志ノ法ヲ論ス

吾人ハ其向フ所ノ最上ノ目的ヲ懷ハサル可ラス即チ其志ヲ
立テサル可ラス愛ニ人アリ其志仁ニアレハ仁ハ其人ノ最上
ノ目的トナリ其志權力ヲ得ルニアレハ權力ハ其最上ノ目的
トナルヘシ抑最上ノ目的ナルモノハ吾人カ之ヲ善トシテ之
ヲ求メ他ニ之ニ優レルモノ無シト崇尊スル所ノモノナリ
人ノ徳性ハ常ニ義ニ在ル所ニ從テ高等ノ目的ヲ立ツルコトヲ
欲スルモノナレトモ間々私慾ノ爲メニ蔽ハレ下等ノ善ヲ以
テ最上ノ目的トスルコトアリ例ヘハ嗜欲ノ如キハ惟身体ノ保
全ニ要スヘキモノニシテ素ニ下等ニ屬スヘキヲ却テ之ヲ

下等善ヲ最上ノ目的トスルノ誤

幼兒ヲ善ニ導キ高等ノ目的ヲ立テシムルノ要

最上ノ目的トシテ之カ爲メニ家ヲ失ヒ身ヲ亡ホスニ至ルモノアリ又財産ノ如キハ身ヲ立テ事ヲ行フノ用ヲナスニ過ヤサルモノナルニ誤テ最上ノ目的トシテ終身守錢奴トナリ一事業ヲモ爲ス能ハスシテ此世ヲ去ルニ至ルモノアリ亦悲シカフスヤ凡ソ見登ノ教育ヲ司トルモノハ幼時ヨリ之ヲ導テ善ニ趣カシメ高等ノ目的ヲ立テシムルコト務ムヘシ古聖ノ十有五ニシテ學ニ志スト云ヒ後來年序ヲ積ミテ立ツト云ヒ感ハスト云ヘルモ皆此學ニ志スノ二字ヨリ其基ヒテ起シタルハ旨アル言ニテ眞ニ千歳ノ龜鑑トコソナスヘケレ

第六 八品造成ノ法ヲ論ス

八品ハ吾人平常ノ行爲ニ於テ執ル所ノ主義ヲ以テ最上ノ目

各人執ル所

ノ主義目的ハ人品ヲ決定スヘキモノナリ

諸種ノ情欲ノ其目ノ的ナリ

仁愛 愛親 敬親 尊勢 知識 財欲 嗜欲

的ト定ムルニヨリ其目的ノ如ク陶冶造成モツルモノナレハ其最上ノ目的トスル所ハ以テ人ノ品位ヲ決定スヘキモノナリト云フヘシ

各人執ル所ノ主義相同カテサルニヨリ其目的モ亦隨テ異ナリト雖モ要スルニ其基ト所ハ諸種ノ情欲及ヒ嗜欲ノ外ニ出テス今其梗概ヲ掲ケテ之ヲ論センニ仁愛ヲ以テ最上ノ目的トスルモノハ慈惠、信切、厚誼ノ人トナリ愛國ニ志スモノハ赤心報國ノ士トナリ愛親ニ志スモノハ孝順ノ子トナルヘシ又專テ他ノ尊敬ヲ得ント志スモノハ固々虚假傲慢ノ人トナルコトアリ偏ニ權勢ヲ得ルヲ以テ志トスルモノハ虚名ヲ求メ虚榮ヲ願フノ人トナルコトアリ其志、知識ニ在ルモノハ學者トナリ財産ニ在ルモノハ勳モスレハ客書ノ人トナルナリ嗜欲ノ

人品行ノ善惡
賢愚ハ其志
在所如何ニ
在リ

義心ニ反セ
ルハ邪惡ニ
陷レホナリ

過度ナルハ奢侈放佚ノ風ニ陷ルニ至ルヘシ古人ノ傲ハ長ス
可ラズ欲ハ恣ニス可ラズト云ヘルハ實ニ後生ノ宜ク服膺ス
ヘキ所ナリ

人品ノ造成ヲ彼ユルハ誠ニ斯ノ如クニシテ其善人トナルモ
惡人トナルモ賢人トナルモ愚人トナルモ平素志ス所ノ如何
ニ關スルヲ實ニ大ナリ是レ教育家ノ幼心陶冶ノ責ニ當リテ
一日モ忽諾ニ付ス可テサル所ナリ

第七 志向ト人性トノ關係ヲ論ス

夫レ義ハ人心ニ在リテ常ニ高等ノ善ヲ撰ツテ勸ムルモノ
ナレハ苟モ義心ノ存スル以上ハ最高等ニアテサル善ヲ以テ
我最上ノ目的トスル能ハサル可シ若シ夫レ義心ノ管理スル

最高等ニ非
ルモノヲ最
上目的トス
ルハ人性ノ
和同ナルキ
善性ニ背反
ス

志向ト徳性
ノ協和ハ編
テ覺ハ其不
協和ハ苦ナ
覺テ

所ニ反セルハ全ク邪惡ニ陷レルモノナリ又最高等ニ非ルモ
ノヲ以テ最上ノ目的トスルモノハ其心常ニ安セス泛々トシ
テ歸スル所ヲ知ラサルヘシ是レ他ナシ其志ス所ト人性トノ
和同ナルキ且我善性ニ背反スルヲ以テ其身ノ悔恨止ム時ナ
キニコレモノナリ

吾人ノ心性中至大至深ノ協和ヲ生ヤ無上ノ快樂ヲ覺フルハ
我志向ト徳性トノ協和ニ在リ最モ恐ルヘキ不協和ヲ生シ我
心神ヲ苦シムルハ二者ノ相反スルニ過キタルモノ無ルヘシ

第八 結論

前章章論スル所ニヨリ吾人カ平素ノ行爲ニ就キ徳義上ノ品
性ヲ決スルハ全ク撰擇ニ在リテ存シ又撰擇ハ種々ノ目的ノ

百般ノ行爲
ハ制限ノ理
法ニ從ヒテ
整理ス
其例
財仁愛
産

最高等以下
ノ善ヲ以テ
行爲ノ主義
トスルハ盧
僞占位ナリ

問ニ於テ最善視スル所ノモノヲ取り其善トシ不善トスルハ
義心ノ令スル所ニ從テ定ムヘキモノナルヲ知レリ
然ラハ則チ既ニ義心ノ諾スル所アリテ撰ツテ以テ最上ノ目
的トスル所ヲ定ムルハ吾人百般ノ行爲ハ自ラ制限ノ理法
ニ從テ各適當ノ地位ヲ占ムルニ至ルヘシ蓋シ制限ノ理法ト
ハ或ル高等ノ善ヲ得レカ爲メニ先ツ下等ノ善ヲ求ムルノ謂
ニシテ例ヘハ仁愛ヲ施カシニハ財用ノ資ヲ要スルカ故ニ下
等ナル財産ノ欲ハ適當ノ程度マテ之ヲ求メ以テ最上ノ目的
トスル所ノ仁愛ノ基本ニ供スルニ在ルカ如シ
又義心ノ諾ヲ得ス若クハ其令スル所ニ反シテ最高等以下ノ
善ヲ撰ヒ以テ我行爲ノ主義トナストキハ此主義ハ須臾モ我
身ヲ離ル、コナク却テ其宗トスル所トナリ他ハ其下ニ歸屬

兒童ニ宗ト
スル所ヲ過
ラシメサル
ノ要

本性ノ定義

スルニ至ルヘシ斯ノ如キハ天然ノ秩序ニ離反シ人性ノ自然
ニ背戻シテ僞僞ノ占位ヲ有スルモノナリ故ニ世ノ教育家ハ
古來聖賢ノ説キ示サレタル所ニヨリ兒童ヲシテ其宗トスル
所ヲ過ルコトナク日々ニ善ニ進ムノ道ヲ講セシムヘキナリ

第九 本性ノ定義

本性ハ吾人カ德行上ノ獨知力ニシテ吾人ノ撰擇ニ就キ常ニ
高等ノ善ヲ撰ツコトヲ要シ且善行ノ樂ト惡行ノ苦トヲ感セシ
ムル所ノモノナリ

第六章 習慣

習慣ノ解

快楽ノ諸情
ハ化シテ活
證有テ痛
慣トナリ
苦ト悲懣
讀テ懣他
憂ノ習慣
成ス

正行ノ習慣
ト長スルハ
正感ト正行

第一 諸種ノ感情ト習慣トノ關係

語曰ク性相近シ習相遠シト又曰ク習慣ハ第二ノ天性ナリト皆アル頓言ヤ夫レ諸種ノ感情ハ積シテ以テ習慣ニ化セシムルヲ得ヘキモノニシテ快楽ノ諸情旺シテ止マザレハ終ニ活潑有爲ノ習慣ヲ成シ痛苦ノ諸感結ンテ解ケサレハ終ニ悲惨憂ノ習慣ヲ成ス嗚呼教育ハ習慣ノ力ニ成ルト云フモ亦宜ナラスヤ若シ能ク此至大至強ナル勢力ヲ活用スルノ法ヲ知ラハ何等ノ品性モ造成スル能ハセランヤ吾人ハ素ト習慣ヲ具シテ生レタルモノニ非レトモ能ク習慣ヲ改ムルヘキ性質ヲ具セテ生レタルモノナリ
德育ニ最モ要スル所ノモノハ正行ノ習慣ニ在リ抑正キ感情ハ正キ行爲ニ導キ得ヘト雖モ是レ自然ニ放任シ去リテ其

トノ連結
作ルニ在リ

善徳ヲ教ヘ
テ善感善行
ヲ進メテ事
ヲ戒メテ防
感惡行ヲ防
少ノ要

目的ニ達シ得ヘキニ非ス唯其感動ノニアリテ正行ノ伴ヒ來ルモノナキハ脩身上更ニ益スル所ナキモノナリ故ニ教育家ハ常ニ正感ト正行トノ連結ヲ作ルヲ務メ以テ正行ノ習慣ヲ長セサル可ラス

凡ソ人幼時ニ在リテハ感情ノ動カ所ニ從ヒテ其行爲ヲ施スヲ常トスルモノナレハ先ツ諸ノ善徳ヲ教ヘテ善ノ快樂ヲ感セシメ且之ヲ實地ニ行フノ機ヲ得セシムヘシ然ルトキハ一善ヲ行フ毎ニ正感愈々旺スルヲ以テ愈々善ニ進ムニ至ラン又惡感ハ惡事ヲ行フニヨリテ益々增長スルモノナレハ下等ノ感情ノ細キハ務メテ其衝動ノ機ヲ妨ケ其侵入ノ途ヲ絶テ以テ旺動ヲ減殺セサル可ラス古傳ニ所謂奸聲亂色聰明ニ留メスノ語ハ教育家ノ最モ眼鼻スヘキ所ナリ

幼時ノ習慣
ハ終身ノ利
害得喪ニ關
ス

幼兒ヲ驅テ
善道ニ偏向
セシムルノ
要

第二 善美ナル習慣ヲ作ルヘキヲ論ス

習慣ハ自然ニ成リ來ル所ノモノニシテ其勢力タル吾人ノ得
テ遏止スヘキニ非ス幼兒ハ活動筋ニシテ其生長ハ瞬時モ止
ム可ラサルニヨリ善ナレ惡ナレ日常不斷ノ見聞動作ニヨリ
テ自己ノ習慣ヲ作爲スルモノナリ抑習慣ノ幼時ニ成ルハ最
モ易ク最も強クシテ終身ノ利害得喪モ多ク其根ヲ茲ニ發ス
ル所ナレハ教育ノ責ニ當ルモノハ其機ヲ察シテ善美ナル習
慣ヲ作ルノ術ヲ施サントシテ要ス

世或ハ説テ爲スモノアリ曰ク父母教師等ノ幼兒ヲ教育スル
ニ當リ故ヲニ之ヲ束縛セテ我望ム所ニ偏向セシムルハ正理
ヲ得タルモノニ非ス宜ク之ヲ放任セテ其自ラ向フ所ニ行

カシムヘシト此見タル甚ダ誤レリト云フヘシ何トナレハ假
令ヒ自然ニ任セテ驅テサシムルモ素ト習慣ハ人方ノ得テ制止ス
可ラサルヲ既ニ説クカ細クナレハ何レヘカ偏向スルハ理勢
ノ免レサル所ナリ然レハ其惡道ニ陥ラシメヨリ驅テ善道
ニ偏向セザムルノ念レルニ如カサルヲ亦明ナラヌヤ

第三 細行ノ勢力

細行ノ勢力
ハ其取合ハ
恐ルヘシ故
ニ其要ス
注シテ要ス
其例ヲ要ス
不期友ノ
表却眼ノ
掃却ノ

細行ノ勢力ハ習慣ヲ作ルニ於テ重要ノ地ヲ占ムルモノナリ
瑣々タル細行モ重積スレハ重大ノ成果ヲ來スヲ恰モ微々々
ハ勵力ノ累加ニヨリテ至大ノ事業ヲ爲スニ至ルカ細ク其勢
力ノ及ホス所實ニ恐ルヘキモノナリ故ニ一舉一動モ其取舍
ノ嚴密ニ注意ヲ用フヘキハ頗ル肝要ノ事ナリトス例ヘハ

同遊ノ
約東ノ

幼兒カ朋友ノ不幸ニ會シテ同感ノ情ヲ發シ又ハ他人ノ衣服
調度ノ汚レタルヲ掃却スルカ如キ固ヨリ瑣々タル一小事ニ
過キスト雖モ終ニ仁惠勤儉等ノ美德ニ導クヘキ端緒ヲナス
モノナレハ決シテ之ヲ舍テ可ラス之ニ反セテ朋友ニ同遊ヲ
約シテ之ヲ果サス又ハ其期ヲ過ツカ如キ亦一小事ニ過キヤ
ルニ似タリト雖モ遠ニ詐僞不節度等ノ惡習ヲ醸スヘキモノ
ナレハ勉メテ之カ矯正ヲ謀ラサル可ラス

第四 習慣ト時間トノ關係

時間ハ習慣
ヲ作ルニ至
要ノ價位ヲ
有ス

吾人教育ニ費ス所ノカト其成果トヲ對比考量スルトキハ習
慣ノ成レルハ實ニ過般ニ屬スト雖モ益々歩ヲ進メテ意ヲ
レハ經久ノ後大事ヲ成シ得ル事ヲ悟ルヘシ其理恰モ重學ニ

於テ時トカトノ關係ヲ論究スルニ微少ノ勢力モ永久不斷ノ
時間ヲ用ツレハ廣大ノ事業ヲ成セ得ヘキカ如ク時間ハ實ニ
習慣ヲ作ルニ於テ無上ノ要位ヲ占ムルモノナリ大人君子ノ
美德モ瑣々タル行爲ノ累々漸積シテ始メテ大成シタルニ外
ナラス語ニ曰ク大器晚成スト品性ハ一時ニ俄然超進スヘキ
モノニ非ルナリ

始テ習慣ムルハ
幼徳養成ノ
要訣ナリ

夫レ善ニ進ムノ難キ誠ニ斯ノ如クト雖モ之ヲ惡ニ陷リタル
モノヲ救フニ比スレハ猶爲レ易キノ事タルヲ知ルヘシ何ト
ナレハ惡徳ハ之ヲ矯正スルニ於テ先テ其前ニ之ヲ形成セタ
ルト同一ノ時間ト勢力トヲ費スニ非レハ之ヲ消去スル能ハ
サルヘシ而シテ後更ニ善徳ヲ養フテ之ニ代ラシムル爲メ又
幾多ノ時間ト勢力トヲ要スルカ故ニ倍進ノ努力ヲ用フルコ

非レハ遊善ノ實ヲ見ル能ハス況ンヤ其成功ノ必ス可ラサル
 モノアルヲヤ世ノ教育ニ志スモノ其始ノ慣ムニキヲ知リ恐
 ハ小ナリト雖ニ爲ス勿レ善ハ小ナリト雖ニ爲サ、ル勿レノ
 格言ヲ眼膚シテ致々細々誨ヘテ倦マスンハ幼徳養成ノ法ヲ
 得ルニ庶幾ランカ

第四篇 體育

第一章 總論

第一 體育ノ目的

體育ノ目的トスル所ハ身體ノ健康ヲ保全シ其發育ヲ助成シ
 テ各部僞長ノ弊ヲカラシメ以テ智徳養成ノ基本ヲ作り且支
 體ノ強力ヲ増加スルニ在リ

第二 體育ノ理論

身體ノ發育ト其費耗トハ互ニ相反スルカ如シト雖ニ其實兩
 者相須テ離ル可クサルモノナリ例ヘハ余手中ニ一物ヲ取リ

身體發育ノ 理

體育ノ目的

之ヲ若干尺ノ高ヤハ揚ケルルハ其物ノ重サト高サトニ比例シテ余カ手中ノ筋維ヲ組織セル若千數ノ細胞ハ忽チ死滅シ去リ新生ノ細胞更ニ來リテ其欠チ補シ却テ其筋維ノ發育ヲ來タスカ如シ凡ソ身體中何レノ部分ヲ問ハス之ヲ使用スルト愈多ケレハ其部分ノ細胞ノ新陳代謝愈盛ニレテ其發育隨テ愈大ナルモノナリ

第三 體育ノ方法

身體發育ノ理ハ前ニ既ニ説ク所ノ如ク體中ノ舊細胞ヲ費耗シテ新細胞ヲ補充スルニ在ルヲ以テ茲ニ新細胞ヲ作ルノ資トナスヘヤモノ無ル可ラス是レ吾人カ食物ヲ要スル所以ナリ又其食物ヲシテ栄養ノ効チ奏セシメシハ常ニ身體ヲ保

食物、住居、衣服、運動、靜息、ハ體育ニ欠ク可ラス

衛シテ快飽ノ地ニ置カサル可ラス於是乎衣服住居ノ要アリ衣食住既ニ備ハルモ支體ヲ使用スルニ非レハ細胞ノ新陳代謝ヲ促ス能ハス於是乎運動ノ要アリ然レモ支體ノ運動ヲシテ曾テ止ムコトナカラシメハ新細胞ノ體中ニ留止スルノ時無キニヨリ其生長ヲ遏シスルコト能ハサルヘシ於是乎靜息ノ要アルナリ此ノ如ク食物、住居、衣服、運動、靜息ハ體育ノ方法ニ於テ最モ欠ク可ラザルモノナレハ今其章ヲ逐ヒ項々分チテ詳ニ之ヲ論スヘシ

第二章 身體ノ成育保全ニ關スル所ノ要項ヲ論ス

凡ソ身體ノ成育保全ニ關シ要部ヲ占ムル所ノ食物、衣服、事ノ如キハ專ラ生理學ノ論スル所ニシテ住居ノ事ノ如キ

ハ特ニ建築學ノ專科ニ屬スル所ナリ故ニ教育學ニ於テハ可成的専門上ノ論ニ涉ラズ只管體育ニ至要ノ關係アル部ニ就キテ其要理ヲ論スルヲ旨トス是レ本編ニ於テ食物衣服ニ就テハ其要理ヲ論シ住居ニ就テハ專ラ空氣溫濕光線ハ拙著學校管理法ニ其要ヲ掲ルヲ以テ略ス等ノ事ヲ説クニ止マル所以ナリ

第一 食物

(甲) 食物ノ類別

食用物質ヲ四類トス
肉素類

近時有名ナル生理學士ノ説ニ從ヘハ食用物質ヲ分チテ四類トス即チ肉素類、脂肪類、澱粉類、及金石類是ナリ
肉素類中ニハ植膠質、血液纖維質、蛋白質、筋肉纖維質、干酪質、及

脂肪類

ヒ膠質アリ皆多量ノ窒素質ヲ含有スルモノナリ以上ノ諸質ハ皆其現狀ヲ異ニシ堅度溶度モ同シカラス熱ヲ受ケテ變化スル狀モ亦同シカラスト雖ヒ動物機關ノ經營ニ於テハ一種普通ノ効用ヲ有ス即チ組織ノ造成ニ要スル所ノ物質ヲ供給スルノ事ニシテ是レ此諸質ノ營養上特ニ最高ノ價格ヲ有スル所以ナリ
脂肪類ハ植物又ハ動物ヨリ生産シ或ハ其源ヲ異ニスルモ其實大ニ相似タルモノナリ故ニ其現狀ハ相同シカラザルモノト雖ヒ之ヲ食用ニ供スルニ至リテハ互ニ相交換スルヲ得ヘシ總テ脂肪類ハ筋肉及神經ノ組織ヲ造成スルニ於テ之ヲ要シ又其質水炭ニ屬シ多量ヲ含有スルニヨリ體溫發生ノ作用ニ於テハ特ニ効力ヲ有スルモノナリ

澱粉類

澱粉類中ニハ澱粉、砂糖、樹膠アリ是等ハ多ク植物ヨリ生産シ各種ノ形状ニ變化シテ食用物品トナリ吾人カ常食ノ多分ヲ占ムルモノナリ

金石類

金石類中ニハ水及諸種ノ塩類アリ就中食鹽ハ其要部ヲ占ムルモノニシテ其他加里鹽類、磷酸石灰等ハ亦食物ノ消化ニ於テ欠ク可クサルモノトス

(乙) 食物ノ調和

前章説ク所ノ肉素類、脂肪類、澱粉類、金石類ノ四者ハ皆均シク吾人カ食用ニ要スル所ナリ然ルニ如何ナル食用品ニテモ一品ニシテ各類ヲ適度ニ具備セルモノアルトナレ例ヘハ乳汁ノ如キハ略四類ヲ具スルト雖モ其分量ニ平均アリテ塩類

食物ニ四類ヲ調和スルヲ要ス

單一ノ食物ノ害

ト室素質ノ物トノ量多キニ過ク是ヲ以テ生育最モ盛ナル幼穉ノ食ニハ適スヘキモ大人ノ食ニハ其權衡ヲ得タルモノトス可ラス又諸種ノ肉類ノ如キハ室素質及脂肪質ニ富メルモ澱粉質ヲ欠キ菜蔬類ノ如キハ澱粉質及ヒ砂糖質ニ富メルモ室素質甚タ乏シキカ加シ是ニ於テ吾人日常ノ食物ハ各類ノ物品ヲ適度ニ調和シテ用フルヲ要スルニ至レルナリ生理學士ノ説ク所ニコレハ如何ナル品質ニテモ單一ノ食物ヲ以テ久シク動物ヲ養フキハ漸々衰弱シテ遂ニ死ニ至ルヘシト云ヘリ故ニ人ヲ育成スルノ任ニ當ルモノハ其家庭ニ於テスルト學校ニ於テスルトト同ハス平常食用物品ノ調和ニ注意セシトヲ要ス

各類調和ノ
比例ヲ談ル
ノ書

肉素類

脂肪類

糖類

(子) 食物調和ノ比例

吾人カ食用ニ供スル所ノ各類ノ品質ハ交互用シ得ヘキモ
ノニ非ス故ニ各類調和ノ比例ヲ誤ルルハ其作用ヲ變轉シ却
テ疾病ヲ招クノ源トナルヲアリ例ヘハ肉素類ノ如キハ若シ
過少ニ失スレハ筋肉ノ衰弱疲瘦ヲ來タシ若シ過多ニ失スレ
ハ化成セザル混和物ト變質セル不冨物トテ以テ體中ヲ充タ
シ終ニハ身體痛風素質ノ狀ヲ來タスヘシ脂肪類ノ如キハ其
量少キニ失スレハ滋養ノ不足ト軀幹ノ疲瘦トヲ生ス其量多
キニ失スレハ休中ニ於テ費消若クハ貯蓄ニ供スルモ猶多分
ノ殘餘ヲ生シ其餘ノ爲メコ肝臟ヲ過勞シ終ニ肝臟病ヲ發
スルカ又ハ其分泌物ヲ全体ニ運行シテ黃疸症ニ陷ケルヲア
リ糖類ノ如キハ久ク其食用ヲ廢スルハ骨格及物帶等ノ柔

澱粉類

軟弱狀ヲ呈出スルヲ必セリ澱粉類ヲ含有セル新鮮菜蔬ノ如
キハ永ク之ヲ食ハサレハ身體壞血症狀ヲ現ハスヘシト云ヘ
リ是ヲ以テ各類ノ食品ヲ適度ニ調和セ其比例ヲ失ハサルハ
最モ緊要ナルヲ知ルヘシ

(丑) 脂肪質食物ト癆症トノ關係

近時ノ學生ニハ幼少ノ時ヨリ勤學ノ功ヲ積ミ事業半バ成ル
ニ際シテ癆症ニ陥リ終ニ憐ムヘキ夭折ヲ來シ吾人ヲシテ落
花無常ノ嘆ヲ抱カシムルモノ少カラス故ニ今左ニ生理學士
ノ食用品ト該病トノ關係ニ就キテ論スル所ヲ載セ以テ世ノ
教育家ノ考究ノ資ニ供スヘシ

結核ノ原因

食物ニ脂肪ヲ欠クハ癆症ノ前徵ナリトハ昔ク世人ノ信スル

ハ脂肪類ノ
欠乏ニ歸ス
ヘレ

所ナリ抑モ該症ノ近因ハ滋養物ヲ厭惡嫌忌シテ之レヲ食ハ
ス健全ナル組織ヲ造ラズレテ結核ヲ生スルニ在リトス然レ
モ其遠因ハ幼稚ノ時ニ於テ休中ノ組織代謝ト生長トニヨリ
テ不斷ニ倍ノ滋養ヲ要スルノ時ニ在リテ其萌芽ヲ發生スル
モノトス然ルニ當時用フル所ノ食糧中ニハ肉索類多量ニシ
テ體軀ヲ養フニハ充分ナレハ其因ヲ以テ肉索類ノ不足ニ歸
ス可ラス必スヤ他ニ欠乏シテ之カ因タルヘキモノ無ク可ラ
ス有名ナル生理學士ノ説ニヨレハ結核症ニ於テ虛假ノ滋養
ヲ生出スルノ因ハ脂肪類ノ欠乏ニ歸スヘキモノナリト云ヘ
リ又ドクトルヒューエス、ベチャト氏ハ始メテ肝油ノ効用ヲ世
ニ公ニセシ人ナルカ同氏ノ説ニ據レハ屠人、庖丁、油商、韋師等
ノ如ク常ニ多少脂肪ニ接スル人ハ常人ニ比スレハ結核病ニ

罹ルコト少シト云ヘリ是ニ依リテ考フレハ皮膚上ヨリ脂肪ヲ
吸入スルモ大ニ滋養ノ助力ヲ助クルニ足ルコトナルヘシ又
同氏ノ説ニヨレハ瘰癧ノ發生ヲ防シコトハ幼時ニ於テ不消化
物ノ浸食ヲ戒メ特ニ餅類、不熟ノ菓物、酸性ノ飲料等ヲ禁シ脂
肪質ノ物ヲハ勸奨若クハ命令シテ之ヲ食ハシムルヲ要スト
云ヘリ

フーカ
ル氏
報告

ドクトル、フーカ
ル氏ノ患者食物報告ニ載スル所ニ據レハ左
ノ如シ

第一 年齢十五年以上二十二年以下ノ人ニ在リテハ脂肪

質ノ肉ヲ食ハセルモノ五分一餘ニ居レリ

第二 年齢四十五年マテ生存セシ人ニ在リテハ五十分一

ヲ除クノ外總テ平素脂肪質ノ肉ヲ食フモノトス

第三 最初脂肪ヲ厭忌セシモノニシテ僅少ノ人固ハ之ヲ食フノ欲ヲ生シ相當ノ年齡マテ生活シ其餘ノ多數ハ癆症ニ罹リテ齡四十五年前ニ斃レタリ

第四 年齡十五年乃至四十五年ノ間ニ癆症ニテ死セシモノ、内少クトモ十分ノ九ハ曾テ脂肪ヲ食ハサリシモノナリ

生理學家ノ説ク所實ニ斯ノ如クナレハ脂肪類ノ食物ハ學生ニ最モ欠ク可ラサルモノナルヲ明クシ世ノ教育ニ志スモノ宜ク其要理ヲ悟リ人間最モ恐ルヘキ一病ヲ豫防スルヲ務ムヘシ

(丙) 食量

脂肪類ノ食
動ハ學生ニ
欠ク可クス

食物欠乏ノ
害

食物ハ體質及強力ノ源ヲ爲スモノナルヲ以テ其量寡キニ失スルハ營養ノ不足ヲ告ケ爲メニ體軀ヲ弱小ニシ生力ヲ費耗スルニ至ル人若シ久シク斯ノ如キ境遇ニ在ルハ其生力漸ク衰微シ心力モ筋力モ共ニ損失シテ種々ノ病源ヲ爲スモノナリ特ニ癆瘵瘵扶私即チ饑饉ノ如キハ主トシテ食ノ致ス所ナリトス平素乏食ノ害タル小兒ニ在リテハ生長未熟及慢性病ノ因トナリ大人ニ在リテハ間々強慾殘忍ノ媒介トナルモノナリ

モルシヨット
氏ノ説

學士モルシヨット氏ハ食物ノ欠乏ニリ精神及品性ニ及ラス所ノ感應ニ就キ説チナレテ曰ク茲ニ他ノ本能ノ心神ヲ征服シテ一層悲惨ノ狀況ニ至ラシムルモノアリ是レ即チ饑饉ニシテ實ニ頭腦ト心胸トチ併セテ絶滅ニ歸セシムルモノナリ假

日用食量ノ
標準

令レ吾人心力ヲ用フルノ時ニ當リテ滋養物ヲ欲スルノ念ハ非常ニ減スルコトナキニ非ルモ有爲深思ノ心力ノ快發ヲ妨クルハ飲食物ノ欠乏ニ如クモノ無カルヘシト

吾人日用ノ食量ハ種々ノ境遇ニヨリテ變スヘキモノナリト雖ホ一定ノ場合ニ於テ數多ノ人ニ就キ實驗ヲ施シテ終ニ一定ノ標準ニ達スルコトヲ得タリ通例壯年ノ男ナレハ毎日其體中ヨリ排出スル所炭素十二オンス窒素質物四オンス若クハ五オンス(共ニ乾量ニ依ル)チリ然レテ其欠ヲ補センニハ毎日二斤若クハ三斤ノ實質食物ヲ要スヘシト云ヘリ本邦ニテハ生理ノ學識ハ幼稚コレヲ未タ我國人實地日用ノ食量ヲ定メタルモノアルヲ聞カス故ニ暫クゲルトン氏ノ說ニ從ヒ彼國人日用食量ノ例ヲ揭ケ以テ後學ノ參考ニ付スヘシ

其例

肉

十六オンス即チ一〇〇斤

麵包

十九オンス即チ一、一九斤

牛酪又ハ脂肪

三、五オンス即チ〇、二二斤

水

五十二オンス即チ三、三八斤

但シ此分ハ水液度量ニヨル

右ハ資性强壯ニシテ麵包、魚肉、獸肉、牛酪、コヒー及水ノミヲ食飲シテ外氣中ニ運動シタル人ノ二十四時間ニ要セシ所ノ食量ナリ是ニ依テ見レハ大凡ソ二斤半ハ實質ノ食物ニシテ三ポイント半ハ液體ノ飲料ナルヲ知ルヘシ

第二 衣服

(甲) 着眼ノ目的

着服ノ目的
ハ寒熱乾燥
防クニ在リ

着服ノ目的ハ要スルニ身體ニ對シテ寒熱乾燥ヲ防クニ在リ
故ニ其品質ハ種々ノ時候風氣ニ際シテ最も能ク上ノ目的ニ
適スヘキモノヲ撰フヲ所要ナリ抑吾人ノ身體ハ斷ニス傳導
若クハ蒸發ニヨリテ體熱ヲ亡失スルモノナレハ冬天ニハ可
成的其熱ノ亡失ヲ防キ夏日ニハ其亡失ヲ進メ以テ身體ノ快
愉ヲ取ルコトヲ謀ルヘシ

(乙) 用品ノ種類

着服ノ目的タル前ニ説ク所ノ如クナルヲ以テ其用品モ夏日
ニハ導熱ノ自由ニシテ吸收ノ敏捷ナルヲ撰ヒ冬日ニハ容易
ニ熱ヲ導カスレテ吸收ノ遲緩ナルヲ撰フヘシ此目的ニ反セ
サル以上ハ其質可成的輕シテ強キヲ貴ヒ又能ク皮膚ノ蒸

衣服ノ用品
ニ要スヘキ
性質及ヒ種
類

麻布

發濕ヲ除去シ却テ外面ノ濕氣ヲ透徹セサルヲ要ス其質全ク
不透性ナルハ甚ク惡シ、體中ヨリ蒸氣ノ發出ヲ妨ク終ニ大
患ヲ來スコトアレハナリ

麻布ハ能ク熱ヲ導キテ体温ノ放離ヲ進ムルモノナリ其質速
ニ體面ヨリ濕氣ヲ吸收シ之ヲ外氣中ニ蒸發セシム故ニ暑日
ニモ清涼ノ効ヲ奏シ最モ夏時ノ服ニ宜シ然レド直チニ之ヲ
皮膚ニ着クルハ宜シカラス其速ニ皮面ヲ冷スノミナラス忽
チニ惡寒ヲ來スノ患アルヲ免レサレハナリ

綿布ハ麻布ニ比スレハ熱ヲ導キ去ルコト少クシテ温カナリ濕
氣ヲ吸收スルコト亦較々少キヲ以テ褌衣ト作スニ宜シ然レド
之ヲ絹布毛布ニ比スレハ導熱吸收共ニ多キヲ以テ夏衣ニ用
フルニハ其品質麻布ニ次クモノナリ

綿布

毛布

毛布ハ其質疎鬆多孔ナルヲ以テ其孔中ハ多量ノ空氣ヲ封鎖
 之カ爲メニ導熱ノ度遲緩ニ至ルモノナリ凡ソ衣服ノ温暖
 ナ覺フルハ主トシテ其組織間ニ空氣ヲ封鎖スルノ性ニ假ル
 モノナリ空氣ハ素ト自ラ動カサル性ヲ有スルモノナレ
 ハ其分子ヲ封入セル衣服ヲ着ケルハ恰モ空氣ヨリ成レル外
 被テ誤フカ如クコト常ニ體熱ノ散離ヲ防テ隨テ温暖ヲ感ス
 ルナリ然ルニ其品質緻密ニセテ組織精細ナレハ空氣ヲ包有
 スル丁至テ少ク隨テ寒冷ヲ覺フヘシ故ニ衣服ノ温暖ヲ欲セ
 ハ其質外氣ノ通過ヲ防クニ足ルヲ以テ密度ノ極トシ其限内
 ニ在リテハ可成的組織ノ疎鬆ナルヲ善トス
 毛布ハ多量ノ濕氣ヲ含ムノ性アレド其吸入及放出ノ度ハ至
 リテ遲シ是レ此性タル衣服ノ用料トシテ大ニ裨益ヲ付スル

絹布

所ノモノナリ毛布ノ能ク外部ヨリ來レル濕氣ヲ防クノキナ
 フス又能ク内部ヨリ遺セル溫度ヲ保ツハ大ニ此性ノ與ル所
 ニシテ例ヘハ皮膚面ヨリ生スル所ノ發汗ノ如キハ一旦之ヲ
 吸入スルノ後布中ニ滲透セザレ之ニヨリテ生出スル所ノ
 陰熱ハ之ヲ内部ニ保テ其濕氣ハ餘々ニ布面ヨリ外部ニ蒸發
 セルムルニヨリ自ラ身體ノ温暖ヲ覺ヘ惡寒ノ息ヲ來スコトナ
 シ是レ毛布ノ製衣ニ用ヒテ特ニ其効益アル所以ナリ
 絹布ハ熱ヲ導クヲ甚ク少ク濕氣ヲ含ムノ量亦少シ故ニ濕氣
 ナ防クノ用ニ於テハ遠ク毛布ニ及ハスト雖モ其質薄ク輕ク
 且柔ニシテ多ク體ヲ導カサルニヨリ下衣若クハ上衣トシテ
 數枚ヲ服用スルニ宜シ是レ其衣服ノ各層間ニ空氣ヲ包有ス
 ルニヨリテ大ニ快暖ヲ覺フルヲ以テナリ

衣服ハ輕キ
チ可トス

凡ソ衣服ハ溫暖適度ナル以上ハ可成的輕キヲ善シトス温度ト重量トハ決シテ伴ヒ來ルヘキモノニ非ス故ニ重クシテ緊キ物ノ少數ヲ着クルハ輕クシテ寛カナルモノ數枚ヲ撰ツニ如カス何トナレハ前ニモ言ヘルカ如ク温度ヲ保ツハ衣服ニ在リテ存スルニ非スシテ其孔中若クハ層間ニ充テル空氣ニ在ルチ以テナリ

(丙) 衣服上ノ注意

凡ソ人健康ナルルハ身体ノ各部皆均同ノ溫暖ヲ保ツ其度ハ大抵華氏ノ九十九度ナルチ常トス此全體均同ノ温度ハ甚タ緊要ニシテ素ト血液ノ循環ニ因スルモノナレハ奇モ循環ニ害アルモノハ著メテ之ヲ避ケサル可テス然ルニ世人着服ノ

着眼ノ法ヲ
得サルヨリ
身体温度ノ
不平均ヲ生
スルノ害

法ニ惑チ用ヒタルヨリ動モスレハ諸種ノ障害ヲ招クトアリ例ヘハ衣帶ノ緊束ノ如キハ血液ノ順流ヲ妨グルノコトヲス同時ニ前ニ保有セシ所モ併セテ之ヲ壓シ去リ直ニ其局部ノ温度ヲ低下スルニ至ル此弊タル履及手袋ノ緊穿ニヨリテ手足ノ寒冷ヲ來スノ場合ニ於テ常ニ見ル所ナリ或ハ一局部ニ被服ヲ厚クスルカ如キハ溫暖ノ積重ニヨリテ其局部ニ向テ過分ノ血液ヲ注入シ他ノ不平均ヲ生スルニ至ル誠ハ衣服ノ欠乏シテ外防ニ足ラサルカ如キハ體熱ノ散離ヲ速ニシ其温度ヲ低下シテ健康ノ度ヨリモ降ラシメ之カ爲メニ外層ノ血液ハ内部ニ射入シテ内部機關ノ充血ヲ來スニ至ルヘシ以上二種ノ過因ハ同時ニ共發シテ一部ハ衣服ノ過重ニヨリテ温キニ失シ他部ハ其欠乏ニヨリテ寒キニ苦ムトアリ此弊タル

殊ニ小兒ニ於テ多ク見ル所ニシテ冬日ノ寒天ニ當リ其胸襟ハ厚襪ヲ以テ之ヲ纏ヒ手足ハ殆ト其皮膚ヲ暴ハスニ至ルモノアリ此人生ノ軟芽ヲシテ斯ノ如キ境遇ニ在ラシメハ遠ニ夭折ノ禍ヒヲ招クモ亦宜ナラヌヤ

充分ノ衣服
ト健康ノ生
長トハ密着
ノ關係ヲ有
ス

世人或ハ小兒ノ身體ヲ外氣ニ暴ラシ以テ強健ヲ來ラヌヘシト信スルモノアリ是レ誤謬ノ最モ甚キモノニシテ一ノ利益ヲキノミナクニ必ズ後患ヲ隱スヘキモノトス抑充分ノ衣服ト健康ノ生長トハ實ニ密着ノ關係ヲ有スルモノナリ食ハ身體各部ノ運用及動力ノ本源ニシテ一日中心身ノ運動機關ノ修補生長ヨリ體温ノ保續ニ至ルマデ一モ其實ヲ食物ノ消費ニ仰カサルモノナシ故ニ若シ彼服欠乏スルハ體温ノ徒費ヲ來スニヨリテ食物ノ幾分ハ之カ爲メニ亦隨テ徒費セサル

ヲ得テ是ニ於テ體温ノ徒費ハ生力ノ運用ヲ低クシ身體モ精神モ共ニ活潑ナル發育ヲ遂クルト能ハサルヘシ是レ育兒ノ責ニ任スルモノ、特ニ意ヲ衣服ノ事ニ用ツヘキ所以ナリ

第三 住居

(甲) 空氣ノ作用

空氣ハ二用
ヲ兼備ス

身體組織ノ消耗ト補修トハ吾人カ生活上須要ナルモノニシテ其消耗セルモノハ之ヲ體外ニ排出シ其修補スヘキモノハ再ヒ之ヲ清淨ニシテ體內ニ分送セザル可ラス空氣ハ呼吸ニヨリテ此二用ヲ兼備シ其吸入ニ於テハ成分ノ酸素ヲ肺臟ヨリ血液ニ傳ヘ以テ塵物ヲ酸化シ血質ヲ清淨ニスルノ効ヲ奏シ其吐出ニ於テハ既ニ失フタル酸素ノ代リニ炭酸及濕氣ノ

空氣ハ體外ニ在リテモ健康ヲ助ケルノ用アリ

老廢物ヲ肺中ヨリ取り來リテ之ヲ體外ニ放散スルモノナリ」空氣ハ會體內ニ在リテ須要ナル生理的作用ヲ有スルノコトヲ體外ニ在リテモ亦吾人カ健康ヲ助ケルノ用ヲナメコトカラス例ヘハ多少毒性アル氣體及液體ノ如キハ不潔諸種ノ源ヨリ發生シ來ルモノニシテ其重積スルニ當リテハ大地モ遠シ人類ノ住居ス可クサル一塊ト變スルニ至ルナルヘシ然ルニ空氣ハ廣大ナル裝置ニヨリ風力ヲ起シテ此等ノ害毒物ヲ飛散セシメ且其酸素ノ密接ニヨリテ之ヲ酸化シ其毒性ヲ消滅シ去ルナリ故ニ空氣ハ其自然ノ性ニ任スルルヘ到處皆汚穢害毒ヲ掃除シ去ルモノナレド唯人爲ニヨリテ其流動ヲ防遏スルルヘ始メテ其性ヲ變シ却テ危害病患ノ媒トナルモノナルヲ知ルヘシ

沼氣ハ各種ノ病芽ヲ含ム

(乙) 沼氣ノ毒性

池邊沼中ノ空氣ハ常ニ炭化水素、硫化水素及有機性ノ瘴氣ヲ含有スルモノ多シ尋常池沼ノ泥瘴氣ト稱スル所ノモノ、性質如何ハ暫ク措テ問ハサルモ此類ノ空氣ハ各種ノ定期病發生ノ萌芽ヲ含メルヘ蓋シ疑フ可クサル所ナリ池沼ノ泥瘴氣ニ觸ル、ルヘ瘴疾、下痢其他各種ノ腸胃異常ノ症ヲ發スルヲアリ此種ノ瘴氣ハ時トシテ牧場ノ水陸湖水ノ灌漑等ヲ經ヒ又ハ溝渠及鐵路ノ掘鑿等ニ沿フコトアリ然ルルヘ其因ヲ以テ腐敗植物ヲ地上ニ暴露シ空氣ノ汚穢ヲ生シタルニ歸スルヲ常トス

不淨空氣ノ害

(丙) 不淨空氣ノ感勢

不淨空氣ノ感勢ハ會ニ諸種ノ病源ヲナスノミナラス其反應ハ身體全部ノ衰弱ニ著ハル、モノナリ凡ソ空氣ノ流通惡シキ所ニ住ムモノハ顔色憔悴、食慾減少、消化微弱ニシテ全身ノ虛弱ヲ來ス、殊ニ急性病ノ侵襲ニ罹ルコト多シ又病症ノ如キモ種々ノ原因ヨリ來ルモノナリト雖モ不淨空氣ハ其因ノ最モ著キモノニシテ終ニ生命ニ拘ルヘキ重症ニ陥ラセムルコトアリト云フ清淨ノ空氣ト健全ノ滋養トハ以テ病芽ノ發生ヲ妨ケ身體ノ強康ヲ充フスルコト醫家ノ能ク知ル所ナレハ居室及校舎ノ地位ヲ撰フニ當リテハ最モ注意ヲ要スヘキモノナリ

不淨空氣中ニ生息スルハ大ニ身體ヲ害スルノミナラズ併シ

不淨空氣ハ

腦髓ヲ毒シ
必神ヲ害ス

レト氏ノ説

テ心神ヲ害スルモノナリ若シ夫レ肺臟ヨリ全身ニ輸送スル所ノ血液ヲシテ充分清氣ニ調レカフシメハ各種ノ機關皆ニ其害ヲ被ムヘント雖モ特ニ腦髓ハ最モ甚ク其毒ニ感シ直ニ精神ノ昏亂、心力ノ衰歇ヲ來シテ注意ノ散放ヲ折キ了解ノ明晰ヲ欠キ記憶ノ確實ヲ失スルニ至ルモノナリ

醫學士レト氏ノ言ニ曰ク學校病院其他多衆ノ會スル所ニ於テハ空氣ノ清否ハ概テ其會衆中ニ顯ハル、快活活潑及勇氣ノ度ニヨリテ之ヲ推測スルヲ得ヘシ然ルニ世入此要點ニ注意スルモノ甚少ノ現今ノ狀態ニテハ毎日多少汚氣ヲ吸入セサルモノ殆ト殆ト特ニ學校教場ニ於テ幼生ノ病景ノ狀ヲ顯ハスカ如キハ其呼吸スル所ノ空氣ノ不淨ナルニ因ルモノ最モ多シトス汚氣ノ中ニ在リテ腦髓ヲ用フルハ倍モ鈍器ヲ

以テ工事ヲ作スカ如シ始メテ其器ヲ用フルヲ學フノ徒ニ
ハ其反應勿論落膽ヲ來セ、ルヲ得スト

(丁) 通氣法

通氣法ノ釋
義及要項

空氣ノ清否ハ吾人ノ體力及心力上ニ至大ノ影響ヲ及ホス
前章説ク所ノ如シ故ニ學校及居屋等ニ於テハ清淨ノ外氣ヲ
導入シ内部ノ不淨空氣ト新陳代謝セシム之ヲ通氣法ト云フ
ナリ抑屋內居住人ノ健康若クハ快愉ヲ害スルヲナク通氣ノ
目的ヲ達スルニハ心得置クニキ要項アリ即チ左ノ如シ

空氣ノ質

第一 外部ヨリ導入スル所ノ空氣ハ自ラ清淨ナルヲ要ス
此事項ノ目的ヲ達スルハ決セテ難キトニ非ス何レノ地位ニ
タモ其近傍ニ不淨ノ原因アルニ非レハ通常ノ外氣ヲ導入ス

空氣ノ量

ルヲ以テ足レリトス然レモ都府市街ノ如ク人烟稠密ノ處ニ
於テハ可成的地上ヨリ高キヲ數尺ノ處ヨリ空氣ヲ容ル、
薄トス直ニ地面ニ接スル所ニハ既ニ呼吸ヲ經タル氣ノ散在
スルヲ以テナリ

第二 導入セル空氣ノ量充分ナルヲ要ス

吾人カ生活ニ要スル所ノ空氣ノ量ハ古來説ク所同カラスト
雖モ同一ノ境遇ニ在リテハ其量愈多ク其質愈清ケレハ健康
愈旺スルヲ當トス學士パーシエ氏ノ説ニ曰ク數回ノ試験ニ
ヨリテ空氣ノ流出ヲ測度シ且同時ニ炭酸氣ノ分量ヲ決定セ
シニ空氣ノ一千容中炭酸氣ノ五六容ヲ含ムニ止ラシメ且全
ク有機物ノ臭氣ヲ去ラシメシムニハ少クハ一時間一人ニ二千
立方尺ノ空氣ヲ要スト若シ其空氣ノ量ヲシテ此以下ニ至ラ

空氣ノ温
度

シメハ健康ヲ害スルハ必然ニシテ爾此上幾許ノ多量ヲ加フ
ルニ非レハ最良ノ結果ハ得テ望ム可ラス其他廣キ試察ニ依
ルニ礦坑ニ於テハ礦夫等ニ最大ノ勢力ヲ得セシメンニハ一
分間一人ニ付一百立方尺即チ一時間ニ六千立方尺ノ空氣ヲ
稍與セサル可ラス若シ此容量ヲシテ其三分一若シハ一半ニ
減スルハ大ニ工事ノ成效ニ減少ヲ來スト云ヘリ

第三 空氣ノ冷温ハ適度ニ規定セサル可ラス

室内ノ空氣ハ冷温ヲ適度ニシテ身體ニ快ヲシムルヲ要スト雖
ル其成分ヲ混亂セサル儘ニ注意セサル可ラス例ヘハ之ヲ温
ムルニ當リテ火爐等ニ炭火ヲ盛リ大ニ炭酸ノ分量ヲ増スル
如キハ最も害アルモノナリ又之ヲ激熱シテ非常ノ温度ニ至
ラシムルカ如キハ大ニ濕氣ヲ含ムノ量ヲ増シ濕氣法ハ却テ

結露法ニ變テ其害ヲ殆ト不淨空氣ニ比スヘキニ至ルヲア
リ凡ソ空氣ノ温度ヲ規定スルノ其法ハ多量ノ空氣ヲ呼吸ニ
適スヘキ温度華氏六十度乃至七十度ニ至ラザレバ不潔ノ變換
ニヨリテ其温度ヲ保テ室中ノ陳腐セル冷氣ヲ去リ新鮮ノ温
氣ヲ以テ之ニ交フルニ在リ斯ノ如キ方法ニヨリテ濕氣ヲ室
内ニ導クハ其空氣ノ運動ヲ増進スルノ介助トナリ通氣筒ノ
用ヲ假ルルハ充分清氣ノ目的ヲ達シ得ヘキモノナリ

第三章 運動

第一 運動ノ理法ヲ論ス

運動ノ定義

運動トハ手足等ノ如キ隨意筋ヲ自由ニ伸縮シテ身體ノ組織

運動ノ筋力
不隨意筋ニ
及ホス

支體ハ充分
ノ力ヲ用ヒ
テ運動スル
ヲ要ス

中既ニ障礙ニ屬セルモノハ之ヲ除去シ新鮮ナルモノヲ以テ
之ヲ充成スルヲフナリ
運動ノ直接ニ勢力ヲ及ホス所ハ隨意筋ニ在リト雖モ間接ニ
ハ其力ヲ不隨意筋ニモ及ホスモノナリ例ヘハ心臟ヲ成ス所
ノ筋肉ノ如キハ素ト不隨意ノモノナレモ手足ノ隨意筋ヲ動
カス所ハ其感勢ニヨリテ自ラ伸縮ノ力ヲ増シ隨テ搏動ノ度
ヲ加フルナリ
凡ソ身體何レノ部分ヲ問ハス之ヲ使用スルノ力愈多クレハ
其組織ノ陳腐ニ屬セルモノヲ除去スルヲ愈多ク隨テ之ヲ填
充スル所ノ新組織ヲ要スルヲ愈盛ナリ又其新組織ノ量愈増
ストハ其發育愈旺スルヲ明ナルヘレ故ニ支體ハ運動セザル
可ラス運動ハ充分ノ力ヲ用ヒザル可ラス無力ノ運動ハ組織

自由運動及
規定運動ノ
區別

自由運動ノ
區別

ノ新陳代謝ヲ促スノ効至テ少キモノトス

第二 運動ノ種類方法ヲ論ス

運動ノ種類大別シテ二トス自由運動及規定運動即チ是ナリ
自由運動ハ各人ノ適意ニ任シテ之ヲ行フモノヲ云ヒ規定運
動ハ一定ノ時間方法ニヨリテ之ヲ行フモノヲ云フ此二者ハ
身體發育ノ法ニ於テ各得失アリト雖モ要スルニ皆幾分ノ効
益アルモノトス

(甲) 自由運動

自由運動ヲ區別シテ一般運動、急劇運動、雜種運動トス

一般運動ノ
區域
歩行ノ益

(子) 一般運動

一般運動ハ歩行乗車等ヲ汎稱スルモノナリ
 歩行ハ最モ簡便且有益ナル運動法ナレハ學生等ノ終日靜坐
 勉強スルモノハ毎日必ス之ヲ行フヲ可トス然ルハ徐々ニ
 血液ノ循行ヲ促シ且或ル一部ニ向テ偏行スル所ノ血液ヲ身
 體全部ニ平均セテ健康ニ益スル所アリ又途上ニテ草木鳥獸
 等ノ耳目ニ觸ル、ニヨリテ大ニ精神ノ快樂ヲ増スノ益アル
 モノナレハナリ
 乗車ハ素ト受動ニ屬セ之ヲ歩行ニ比スレハ其運動較靜ナリ
 ト雖也諸筋ニ衝動ヲ與ヘテ其發動力ヲ促シ隨テ血行ヲ速ニ
 スルニ至リテハ其効殆ト相同シキモノナリ故ニ老人及病弱
 ノ人等ハ此法ヲ用フルニ適スルモノトス

乗車ノ効

急劇運動ノ
區域
跳躍、奔走
ノ利害

(丑) 急劇運動

急劇運動ハ跳躍、奔走、乘馬等ヲ汎稱スルモノナリ
 凡ソ人幼時ニ在リテハ心身ノ發育最モ盛ニシテ精神活潑ナ
 ルモノナレハ急劇快活ナル運動遊戲ヲ好ミ跳躍奔走ヲ事ト
 スルハ幼童自然ノ勢ニシテ遏止ス可ラス或ハ之ヲ禁セント
 スルカ如キハ身體ノ發育ヲ妨タルニ均キモノト云フヘシ然
 レハ其劇動適度ヲ過ルハ其害却テ甚キヲ見ル其理何トナ
 レハ過劇ノ運動ニヨリテ血液ノ循行一時ニ強盛ヲ極ムルヲ
 以テ其運動ヲ終フルニ至リアハ前ノ劇行ヲ償フヘキ爲メ之
 ニ均シキ衰弱ヲ來タセ、ルヲ得レハナリ又過度ノ劇動ニ
 ヨリテ血行過急ニ至ルハ心臟ノ搏動甚多キヲ加ヘ爲メニ

乘馬ノ利害

血液ヲ脈管ニ強送セテ偶々其破裂ヲ來セ即死ノ禍ニ罹ルモノアリト云フ豈ニ慎マサル可クシヤ
 乘馬モ亦幼兒壯者等ノ好シテ爲ス所ノ事ニシテ奔走其跳躍ニ比スレハ稍其劇度ヲ減シ其性寧ロ受勳ニ屬スルモノトス
 抑乘馬ノ事タル宦體育上ニ益アルノミナラス他ニ實用アルモノナレハ其術ヲ學フモ利アルモノナリ然レハ青年壯者ハ競爭心最モ盛ナルヲ以テ動モスレハ競馬等ニ耽ルノ弊ヲ來ス
 一無キニ非ス是等ハ多ク他ノ學術ヲ怠ルノ因トナルモノナレハ慎テ戒メサル可ラス

(實) 雜種運動及技術

雜種運動及技術ノ區域

雜種運動及技術ハ諸種ノ遊戲及武技等ヲ含有スルモノトス一

蹴鞠ノ利害

蹴鞠ハ遊戲中稍優美ニシテ運動ノ爲メニハ取ルヘキ所アリ然レハ其使用スル部分ハ多ク下肢ニ偏スルヲ以テ其發育亦該部ニ偏スルノ弊アルヲ免レス

角力ノ利害

角力ハ身體各部ノ筋肉ヲ使用スルヲ以テ體育上ニハ其益少カラストス然レハ其性素ト劇烈ニ過シルモノナレハ學校等ニ用フヘキモノトス可ラス

水泳ノ益及用

水泳ハ多ク肺筋及四支ヲ使用セテ之ニ屬セル筋肉ヲ發育セ且肺臟ノ作用ヲ強健ニスルモノナレハ學生等ニハ至リテ益アルモノナリ加之若シ水難等ニ際會スルニ當リテハ其身ヲ溺没中ヨリ救フノ用アルモノナレハ可成的其技ヲ學ヒ覺クテ善トス

漕舟ノ益

漕舟ニ本邦風ト洋風トノ二種アリ洋風ナレハ上支及ヒ腰部

及用

武藝ノ益

ノ筋肉ヲ發育シ本邦風ナレハ四支ノ筋肉ヲ發育スルモノニシテ何レモ體育ニ益アリ且此技ハ大ニ快情ヲ暢フルノミナラス他ニ實用アルモノナレハ之ヲ學フモ亦可ナリ

劍術鎗術柔術弓術等ハ古來武藝ト稱シ來リタルモノニシテ數十年前マテハ盛ニ我國内ニ行ハレ今日ノ本邦人中ニハ此諸種ノ武藝練習ニヨリテ強壯ナル體格ヲ造成シタルモノ甚多シトス然レテ此等ノ武藝ハ體育ノ法ニ於テ各異ナル所アリ其專ラ發育スル所劍術ハ下支及ヒ右手ニ在リ鎗術ハ右手弓術ハ胸部ノ筋骨及右手ノ短縮筋左手ノ伸張筋ニ在リ柔術ハ殆ント全體ノ筋骨ヲ均レク發育スルモノトス然ルコ今日此等諸術ノ漸ク衰頽ニ垂シ所以ハ他ナラン人智ノ開明ニ進ムニ隨テ軍器ノ制亦一變シ近來洋風ノ銃槍一ツヒ本邦ニ傳ハ

劍術
鎗術
弓術
柔術銃槍術及
練兵ノ用

リシ以來獨リ其勢力ヲ軍事ニ專ラニシテ從來ノ武藝ハ僅々其用ヲ見ルニ過キタルニ至リシヲ以テ漸ク其實用ヲ失ヒ隨テ衰敗ノ兆ヲ顯ハシタルモノナリ然レヒ之ヲ體育ノ一法トシテ見ルキハ決シテ價格ナレト云フ可ラス

銃槍術及練兵ハ今日專ラ行ハル、所ノ武藝ニシテ我國ノ如ク國民軍ノ制度アリテ各人皆護國ノ責ニ任スヘキ國ニ在リテハ人々必ス知ラサル可ラサルモノナリ然レテ其體育上ノ價格ニ至リテハ前記各種ノモノト大同小異ナリトス

(乙) 規定運動

規定運動ノ
定義

規定運動ハ學校ニ於テ一定ノ規律ニ依リテ施ス所ノ体操法ナリ

規定運動ハ
身體各部均
一ノ發育ヲ
遂ケルヲ
旨トス

(子) 規定運動ノ目的
規定運動ノ目的トスル所ハ身體各部均一ノ發育ヲ遂ケシメ
完全ノ體軀ヲ造成セントスルニ在リ抑此目的ヲ達センニハ
離乎不動ノ理ニヨリテ支休ヲ均用スルノ法ヲ設ケ日常不斷
訓練ノ効ヲ積ムニ非レハ能ハス是レ此目的タル自由運動ノ
ニテ以テ達スル能ハサル所ニシテ特ニ規定運動ノ體育上欠
ク可ラサル所以ナリ

(丑) 操法ノ種類

體操操及重
體操ノ區別

規定運動ノ操法ハ之ヲ大別シテ輕體操重體操トス輕體操ニ
ハ徒手演習及器械演習ノニアリ重體操ニハ拵付器械ニ屬ス

徒手演習ノ
用

ル所ノ各種ノ技術アルモノトス然シテ一般ノ學校ニ於テ最
モ要スル所ハ重體操ニ非サルヲ以テ本篇ニハ之ヲ略シ專ク
輕體操即チ徒手演習及器械演習ノニ就キテ説述スヘシ

徒手演習

徒手演習ハ各種ノ体操法中最モ輕易簡便ニシテ特ニ幼生ニ
用フルニ適スルモノトス其理幼生ニ在リテハ筋骨體軟弱
ニシテ重物ノ抗拒ニ堪フル能ハサルヲ以テ先ツ此法ニヨリ
テ支休ヲ堅實ニシ漸ク他ノ諸法ニ及ホスヘキカ故ナリ

器械演習

器械演習ノ
種類
啞鈴演習
ノ利

器械演習ニハ啞鈴球竿棍棒等ノ諸法アリ
啞鈴演習ハ徒手演習ニ次キテ校々ヘキモノニシテ器械演習
中最モ輕便快活能ク學校用ニ適スルモノナリ蓋シ其利トス

球竿演習
ノ益

ル所一コシテ足ヲス例ヘハ其用材ノ細キハ木製ナルヲ以テ
價格モ貴カラス其重量ノ如キハ生徒ノ年齢及男女ノ區別等
ニ依リテ自由ニ之ヲ斟酌スルヲ得ドクトル、リーランド氏ノ
説ニ據レハ壯年ノ男生徒ニ用フルハ一斤以上二斤以下トシ
女生徒及幼弱生徒ニ用フルハ半斤以上〇、七五斤以下ヲ以テ
適當トスト云ヘリ其容積ノ如キハ甚ダ小ナルヲ以テ使用及
收藏ニ便ナリ又其操法ノ如キハ拍節細密聲音快活ナルヲ以
テ大ニ精神ヲ慰ムルニ足ルモノトス

球竿ハ其製啞鈴ノ柄ヲ延長シタルモノニ同ク其操法モ亦大
同小異ナリ然レハ此器ノ他器ニ比シテ特ニ効用ヲ有スルハ
双手ヲ伸ハシテ其柄ヲ持シ之ヲ背後ニ取リテ各種ノ演習ヲ
行ヒ以テ胸膈ヲ開廣シ肺量ノ増大ヲ來タスニ在リ又身體ヲ

棍棒演習
ノ利

矯正シテ直立ノ位置ヲ保タシムルニ於テモ効益アルモノト
ス

棍棒ハ生徒年齢稍長シ筋骨堅實セルモノニ適スヘキ器械ニ
シテ其利トスル所概テ三アリ第一啞鈴球竿等ハ多數ノ人同
合同シテ之ヲ用フルニ宜キモ一人ニテ之ヲ演スルハ忽チ
厭倦ヲ來セ殆ト其用ニ堪ヘサフシタルモノナリ然ルニ棍棒
ハ之ニ反シ獨自ニ之ヲ用フルモ斷ヘテ厭倦ヲ來スコトナシ故
ニ學生等ノ一室中ニ靜坐勉學スルモノハ其精神稍疲勞ヲ覺
フルニ際シ室内若クハ庭中ニ出テ之ヲ獨用スレハ暫時ノ後
血液全體ニ液布シテ大ニ快愉ヲ復興スヘシ第二其操法中ニ
ハ双手ヲ背後ニ轉回シ両肩ヲ退ケテ胸膈ヲ開張スルモノア
リ是亦肺量ヲ増大ニシテ健康ヲ補補スヘキモノナリ第三此

器ヲ備用スルハ毫モ喧鬧ヲ生スルコトナキヲ以テ寄宿生徒等
ハ之ヲ舍内ニ用フルモ他室ノ混亂迷惑ヲ來スコトナシ是亦此
器ノ利トスル所ナリ

第三 運動ノ各系統ニ及キス所ノ効驗ヲ論ス

(甲) 筋肉系統

既ニ本章第一ニ論セシヤ如ク手足等ノ隨意筋ヲ伸縮シ即チ
運動ヲ行フルハ該部ノ老廢物ヲ驅除セテ新鮮ノ組織ヲ補充
ス然レテ新來ノ組織ハ舊故ノモノニ比スレハ常ニ幾分ノ多
キヲ加フルヲ以テ筋肉ヲ組成セル組織ハ爲メニ其數ヲ増シ
隨テ其質堅實シ其容肥大シ且筋力即チ力量ヲ増加スルモノ
トス是レ運動ノ筋肉系統ニ効チ奏スルノ大要ナリ

運動ハ筋肉
組織ヲ増加
堅實シ力量
増ス

運動ハ血行
ノ強盛ヲ來
ス

(乙) 血行系統

凡ソ體理何レノ部分ナ間ハス新組織ノ供給ハ血液ヨリ來テ
セルモノナシ故ニ運動ヲ行フテ老廢物ヲ除去スルルハ其欠
ヲ補充セン爲メ血液ノ循行ヲ促サ、ル可ラス然レテ血行ノ
本源タル心臓ハ亦一個ノ筋肉ナレハ其性素ト不隨意ニ屬ス
ルモ運動ノ反應ニヨリテ頻ニ伸縮ノ度數ヲ増シ盛ニ血液ヲ
全體ニ輸送スヘシ斯ノ如ク運動ハ血行ノ強盛ヲ來スモノニ
シテ血行強盛ナレハ各部皆其需用ヲ充テシ身體常ニ溫暖ニ
シテ健康ナラザルコトナシ

(丙) 呼吸系統

運動ハ肺量
ヲ増大ス

體內ノ老廢物ヲ排出スルハ諸種ノ分泌器ニ依ルト雖モ呼吸
ハ此作用ニ於テ特ニ緊要ノ地ヲ占ムルモノトス今運動ヲ行
フテ血行ヲ盛ニスルハ老廢物ヲ含有セル不淨血液ノ肺部
ニ注流シ來ルヲ益々多シ於是肺臟ハ呼吸ノ度ト量トを増シ
テ血質清澆ノ作用ヲ過クスヘシ夫レ肺臟ハ人生至要ノ一器
ニシテ運動ノ力ヲ假ルルハ其作用ヲ過クスルヲ斯ノ如クナ
ルモノナレハ平常運動ニヨリテ之ヲ強健ニ保ツノミナラス
漸ク肺量ヲ増大シテ生力ヲ進ムルヲ最モ肝要ナリトス

(丁) 皮膚系統

運動ハ皮膚
汗腺ノ作用
ニ盛ニス

體內ノ老廢物ノ排出ハ呼吸器ノ作用ヲ要スルヲ既ニ説ク所
ノ如シ然レモ此事ニ就テハ皮膚モ亦與リテ大ニ効力アルモ

運動ハ消化
ノ作用ヲ進
ム

ノナリ皮膚ニハ無數ノ汗腺アリテ不斷體程ノ老廢物ヲ排出
ス其法或ハ蒸氣トナシテ之ヲ飛散シ又發汗ノ形ト成シテ
之ヲ滲出ス今運動ヲ行フハ汗腺ノ作用ヲ盛ニシテ老廢物
ノ毒氣ヲ體外ニ排出スルヲ急速ナリ故ニ運動ハ皮膚ニ關シ
テ毒氣排除ノ作用ヲ充起スルノ効ヲ奏スルモノトス

(戊) 栄養系統

運動ヲ行フテ體程組織ノ新陳代謝ヲ促シ血液ノ循環ヲ強盛
ニシ呼吸皮膚等ニヨリテ老廢物ヲ驅除スルハ其欠損スル
所ヲ償フ爲メ營養物ノ需用愈多キヲ加ヘ隨テ消化ノ作用ヲ
進ムルニ至ルヘシ是レ運動ノ栄養ニ關シ亦欠ク可クサル所
以ナリ

運動ノ影響
ハ神經系統
ニ及ボシ精
神ヲ衰弱ス

(三) 神經系統

神經系統ハ所謂精神ノ舍ル所ニシテ其安否ハ最も思フ可
ラサルモノナリ然シテ運動ノ該系統ニ効力ヲ奏スルハ要ス
ルニ呼吸血行等ノ介助ヲ得テ其強健ヲ保全スルニ在リトス
例ヘハ吾人精神ヲ過勞シテ稍痛苦ヲ覺フルハ庭園池邊ヲ逍
遙シテ大ニ快樂ヲ得ルガ如キハ要スルニ一時血液ノ循行腦
部ニ偏向シ爲メニ頭痛眩暈等ヲ發シヌルモ運動ニヨリテ血
行ヲ體裡ニ平均セシメヨリテ快復シタルモノナリ故ニ平素
運動ヲ怠ラスシテ身體ヲ健全ニ保ツルハ其影響神經系統ニ
及ボシ精神モ亦怡然其壯榮ヲ保ツヘキヲ必セリ

休憩及睡眠

休憩ハ組織
ノ費耗ト補
充ト相償ハ
ム

第四章 靜息

身體ノ發育ニ於テ運動靜息ノ二者相須テ離ル可ラサルノ要
理ハ擧キ前章ニ之ヲ論セリ今靜息ノ方法等ニ就キ更ニ詳論
スル所アルヘシ

靜息ノ法要スルニニアリ休憩及睡眠是ナリ

第一 休憩

吾人事業ニ就クニ當リ體力ヲ使用シテ止マサレハ忽チ疲勞
厭倦ヲ來タス是レ其用部ノ組織費耗ト補充ト相償ハサルニ
ヨリ其反應ヲ現ハスニヨルナリ故ニ暫ク其使用ヲ止ムル并
ハ新來ノ組織補充完了スルヲ以テ更ニ快復ヲ覺フルモノト
ス

休憩ノ法ニ
アリ

休憩ニハ全ク執ル所ノ事業ヲ磨シテ全部ノ安養ヲ謀ルモノト他ノ事業ヲ以テ之ニ代ヘ前ニ用ヒタル所ト用力ノ類ヲ異コシテ一部ノ安養ヲ謀ルモノトニアリ例ヘハ心力ヲ專用スルノ事業ニ代フルニ體力ヲ使用スルモノヲ以テシ若クハ一部ノ用力ヲ轉シテ他部ノ用力ニ移ラシムルカ如シ即チ學校ニ於テ各學課程ノ終ル後ニ於テ暫時ノ休憩ヲ與ヘ室外ニ運動セシムルカ如キハ心力ニ代フルニ體力ヲ以テシテ心力ノ安養ヲ謀ルニ出ツルモノナリ又體操ヲ施スコモ一運動中操作ノ劇甚ナルモノト緩徐ナルモノトチ互用スルカ如キハ一動一靜相待チテ自ラ組織ノ費耗ト補充トチ均一ニシ甚シキ疲労ヲ招カサルノ理ニヨルモノナリ

睡眠ハ身体
ノ生長ニ欠
ク可ラス

第二 睡眠

吾人ノ榮養專ラ體部ニ傾向シテ充分ノ効果ヲ奏スルハ精神靜息シテ身體安眠スルノ時ニ在リトス故ニ睡眠ハ身體發育上最モ欠ク可ラサル所ニシテ生長最モ盛ナル時ハ最モ多ク之ヲ要ス稚兒ノ常ニ能ク眠ルカ如キハ以テ其證トナスニ足レリ

睡眠時間ノ
概則

睡眠ノ時間ハ人々ノ資質、習慣、年齢等種々ノ境遇ニヨリテ相異ナルヘキモノナリト雖モ或ル學士ノ説ニ據レハ壯者ハ大抵八時間幼兒ハ少クハ十時間ノ睡眠ヲ要スヘシト云ヘリ是レ固ヨリ概則タルニ過キスト雖モ之ニ準據スルハ大過ナキニ庶幾ラン

睡眠過少ノ

世ノ父師等弱モスレハ子弟ノ勤勉ヲ欲スルノ餘リ深更ニ至

害
睡眠過多ノ
害

ルマテ強ヒテ苦學セシメ充分ノ睡眠ヲ欠クヨリシテ遂ニ諸
種ノ病源ヲ來タシ殺フ可クナルノ大患ヲ醸スコアリ育兒ノ
任アルモノ鑒ミサルヘケシヤ
睡眠過少ノ害ハ既ニ説クカ如シト雖モ其過多ノ害ハ殆ト之
ト相比スヘキモノコレテ其種人ヲ遊惰怠慢ノ惡習ニ陥ラシ
メ終ニ人體ノ構造ニ於テ自然備ハル所ノ有爲ノ稟質ヲ暴棄
セシムルニ至ルモノナリ凡ソ身ヲ立テ事ヲ成サントスルモ
ノハ常ニ戒慎セサル可ラス

教育學終

附録

教育學用語和英對譯分類一覽

○第一篇

教育

Education.

精神上ノ教育

Psychical Education.

智育

Intellectual "

德育

Moral " "

身體上ノ教育即チ體育

Physical " "

○第二篇

智育

Intellectual Education.

物我

Not-Self or Non-Ego, Self or Ego.

外界内界

External World, Internal World.

客觀主觀

Object, Subject

必

Mind

智

Intellect

情

Sensibility

念

Will

△第一章

直覺力

Intuition or Intuitive Faculty

必須皆有ノ觀念

Necessary and Universal Ideas

存在

Being

空間

Space

時間

Time

人體同一

Personal Identity

數類似
因緣美妙
正直

Number, Resemblance,
Cause, The Beautiful,
The Right

△第二章

表現力

Representative Faculty

外覺性

Outer Sense Perception

感覺

Sensation

感覺器

Senses

觸官

Sense of Touch

視官

" " Sight

聽官

" " Hearing

味官

" " Taste

嗅官	Sense of Smell.
習得ノ知覺	Acquired Perception.
形質	Qualities.
原形質	Primary Quality.
次形質	Secondary " "
次原形質	Second-Primary " "
通觀及勸觀	Percept and Object.
內覺性	Inner Sense Perception.
表現力ノ教育上ノ價值	Educational Value of Presentative Faculty.
五官教養ノ法及其要	The Method and Importance of cultivating Five Senses.
實物教授ノ要	Importance of Object Teaching.

△第三章

再現力	Representative Faculty.
心緒	Mental Current.
妄想	Fancy or Fantasy.
記性	Memory.
思想ノ發生	Association of Thoughts.
偶然ノ記性	Spontaneous Memory.
有意ノ記性	Voluntary " "
事實上ノ記性	Circumstantial " "
言辭上ノ記性及其用法	Verbal " and its Uses.
道理上ノ記性及其用法	Philosophical " " " "
記性教養ノ法	Cultivation of Memory.

肥性ノ教育上ノ價值
 想像
 美術上ノ想像
 圖書
 彫刻
 詩文
 理學上ノ想像
 讀書上ノ想像
 想像力養成ノ法
 想像力ノ教育上ノ價值
 △第四章

Educational Value of Memory.
 Imagination.
 Aethetical Imagination.
 Drawing and Painting.
 Sculpture.
 Poetry and Prose.
 Scientific Imagination.
 Literary " "
 Cultivation of " "
 Educational Value of " "
 Elaborative Faculty.

反射即チ思想
 思想ノ方法
 分析
 總合
 比較
 抽象
 概括
 象類
 概念
 名稱
 固有名稱
 普通名稱

Reflection or Thought.
 Method of Thought.
 Analysis.
 Synthesis.
 Comparison.
 Abstraction.
 Generalization.
 Classification.
 Concept
 Name
 Proper Name.
 General " or Term.

有形名稱	Concrete Term.
無形名稱	Abstract n.
概念ノ物體ニ對スル關係	Relation of Concepts to their Objects.
內包	Comprehension.
外延	Extension.
概念交互ノ關係	Relation of Concepts to one another.
排斥	Exclusion.
齊擴又ハ共擴	Coextension.
次屬	Subordination.
等屬	Coordination.
交截	Intorsection.
概念ノ階級	Series of Concepts.

等位	Degrees.
屬	Genera.
種	Species.
屬差	Generic Difference.
種差	Specific. n.
論理的分類法	Logical Division.
其規則及用法	The Rules and Uses of.
論理の定義	Logical Definition.
其規則	The Rules of.
適中	Adquate.
自定	Autological.
精確	Precise.

肯定否定

Affirmative, Negative.

理解ノ易キ

Periphrastic.

論理的定義ヲ作ル能ハキヤ

Things which can not be logically

モノ

defined.

最高等ノ概念

Highest Concept.

單純ノ概念

Simple " .

單獨體

An Individual.

定義ノ要

Importance of Definition.

辨決

Judgment.

主位

Subject.

屬位

Predicats.

定言

Copula.

命題

Proposition

肯定

Affirmative

否定

Negative.

全決

Universal.

特決

Particular.

論辯

Reasoning.

歸納論辯

Reasoning by Induction.

類例論辯

" from Analogy.

演繹論辯

Deductive Reasoning.

指示論辯

Demonstrative " .

證然論辯

Probable " .

論辯ノ教育上ノ要

Importance of " in Education.

○ 第三篇

德育

Moral Education.

△ 第一章

情性(情)

Sensibility.

身體上ノ感

Physical Feelings.

心性上ノ感

Intellectual "

快樂

Pleasure.

痛苦

Pain.

善

The Good.

△ 第二章

情緒

Emotions.

本能上ノ情緒

Instinctive Emotions.

喜

Cheerfulness or joy.

憂

Sadness or Sorrow.

同情

Sympathy.

道理上ノ情緒

Rational Emotions.

笑樂

Ludicrous.

美妙

Beauty.

高妙

Sublimity.

自得及悔恨

Satisfaction and Remorse.

△ 第三章

情款

Affections.

善意ノ情款

Benevolent Affections.

親族及朋友ノ愛

Love of Kindred and Friends.

慈愛

Paternal Love.

孝順

Filial Obedience.

友愛

Fraternal Love.

其養成ノ要

Importance of their Cultivation.

本國ノ愛

Love of Native Country.

其養成ノ法及要

The Means and Importance of its

Cultivation.

惡感ノ情狀

Malevolent Affections.

怒

Anger.

其制克ノ要

Importance of its Controll.

忌嫉

Envy.

其惡徳及害

Its Vice and Harm.

報復

Revenge.

其卑劣及愚惡

Its Meanness and Vileness.

其興發ヲ防クノ要

Importance of checking its Develop-

opment.

△第四章

欲

Desires.

情欲

Appetite or Animal Desires.

食欲

Hunger.

飲欲

Thirst.

吸氣ノ欲

For Air.

衣服ノ欲

For Clothing.

此等ヲ教育即チ誤方ニ用フル Instances of using them in Discri-

ノ例	plura.
休憩ノ欲	For Rest.
睡眠ノ欲	For Sleep.
此等ヲ罰課ニ利用スルノ例	Instances of using them in Punishment.
願望	Desires arising from the Constitution of Mind.
生存	Of Continued Existence.
富有	Of Property.
學識	Of Knowledge.
其妙用	Its effective Uses.
權勢ノ願望	Of Power.

其増長ノ害	Harm of its Over-Development.
尊敬ノ願望	Of Esteem.
社交ノ願望	Of Society.
希望及恐懼	Hope and Fear.
此等ヲ教育ニ用フルノ利害	The Beneficent and Maleficent Points in using them in Education.

△第五章

意志(意)

Will.

意、智、情、ノ關係	Relation of Will to Intellect and Sensibility.
思想	Thought.
感覺	Feeling.
動機	Motive.

選擇
 行為
 選擇力
 執意力
 人ノ道理ヲ有スルヲ以テ撰
 擇ノ責ニ任セサル可ラズ
 道理
 因縁
 正
 邪
 善
 不善

Choice.
 Action.
 Power of Choice.
 * * Volition.
 Since Man is Rational Being, he must be
 responsible for his Choice.
 Reason.
 * Causation.
 Right.
 Wrong.
 Good.
 Bad.

良心即チ義
 立志
 最上ノ目的
 下等ノ善
 高等ノ善
 人品ノ造成
 行為ノ主観
 其目的トナルノヤ動
 情欲
 嗜欲
 人品ノ善惡賢愚ハ其志ス所
 如何ニ在リ

Sense of Obligation or Gi.
 To establish the End of Pursuit.
 Supreme End.
 Lower Good.
 Higher Good.
 Formation of Character.
 The principles of Action.
 Their Objects.
 Emotions.
 Desires.
 The Character of Man, either good or
 bad, wise or foolish, depends on his

志向ト人性トノ關係

Choice of an End.
Relation of Man's Supreme End to his Nature.

志向ト徳性トノ協和ハ樂ヲ覺フ

The Harmonious Assent of Man's Supreme End to his moral Nature is felt as Pleasure.

志向ト徳性トノ不協和ハ苦ヲ覺フ

The Discord of the Two is felt as Pain.

結論

Summary.

制限ノ理法

The Law of Limitation.

兒童ニ宗トスル所ヲ過ラシメザルノ要

Importance of Cautioning Children not to make Mistake in adopting their Hi-

本性

Great Principles.
Conscience.

△第六章

習慣

Habit.

諸種ノ感情ト習慣トノ關係

Relation of Emotions to Habits.

活潑有爲ノ習慣

Lively and Active Habit.

悲愴憂憂ノ習慣

Sad and Mournful "

正成ト正行トノ連結

Connection of Right Feeling with Right

Conduct.

善美ナル習慣ヲ作ルノキ事

To form Good Habits.

細行ノ勢力

Influence of Trifling Actions.

習慣ト時間トノ關係

Relation of Habit to Time.

時間ハ習慣ヲ作ルニ至要ノ
價値ヲ有ス

Time has the most Important Value
in forming Habits.

始テ慣ムハ幼徳養成ノ要訣
ナリ

The Secret of fostering Young Virtues
is to cautions the Beginning.

○第四篇

△第一章

體育

Physical Education.

體育ノ目的

The Object of - .

體育ノ理論

The Theory of - .

身體發育ノ理

Principle of Physical Development.

體育ノ方法

The Method of - .

△第二章

食物

Food.

食用物質

Substances used as Foods.

肉類

The Proteids.

脂肪類

The Fats.

澱粉類

The Amyloids.

金石類

The Minerals.

食物ノ調和

Proper Mixture of Food Substances.

食物ニ四類ノ調和ヲ要ス

Necessity of mixing the four Principles
of Food.

單一食物ノ害

Harm of Single Food.

各製調和ノ比例

Proportion of mixing each Principle of
Food.

脂肪質食物ト糖類トノ關係

Relation of Oliginous Food to Consumption.

結核ノ原因ハ脂肪類ノ欠

The Cause of Tubercular Disease is

乏ニ歸スベシ

ascribed to the Deficiency of Oily Sub-

stance.

食量

Amount of Food.

食物ノ欠亡

Deficiency of Food.

醫疹室扶私即チ饑饉論

Typhoid Fever.

生長未熟及慢性病

Stunted Growth, Chronic Disease.

日用食量ノ標準

Standard of Amount of Food daily re-

quired.

衣服

Clothing.

着服ノ目的

The Object of - .

衣服用品

The Articles used for - .

麻布

Linen.

綿布

Cotton.

毛布

Woolen.

絹布

Silk.

衣服上ノ注意

Cautions for Dressing.

住居

Home.

空氣ノ作用

Function of Air.

沼氣ノ毒性

Poisonous Character of Marsh Miasma.

不淨空氣

Impure Air.

其感動及害

The morbid Effects and Harm of - .

通氣法

Ventilation.

△第三章

運動

Exercises.

運動ノ理法

Principles of Exercise.

運動ノ種類及方法

Kinds and Methods of Exercise.

自由運動

Free Exercises.

一般運動

General Exercises.

歩行ノ益

Benefit of Walking.

乘車ノ効

Effect of Riding on Carriage.

急劇運動

Violent Exercises.

跳躍奔走

Leaping and Running.

騎馬

Riding on Horse Back.

雜種運動及技術

Miscellaneous Exercises and Performances.

蹴鞠

Foot Ball.

角力

Wrestling.

水泳ノ益及用

The Benefit and Usefulness of Swimming.

漕舟ノ益及用

Benefit and Usefulness of Rowing.

武藝ノ益

Benefit of Military Arts.

劍術

Fencing.

槍術

Fencing.

弓術

Bowling.

柔術

Systematized Wrestling.

銃槍術及練兵ノ用	Uses of Military Drilling.
規定運動	Systematic Exercises.
其目的	The Object of - .
其種類	The Kinds of - .
輕體操	Light Gymnastics.
徒手慣習	Exercises without Apparatus.
器械演習	" with " .
砲鈴	Drum - bells.
球竿	Wands.
棍棒	Clubs.
重體操	Heavy Gymnastics.
運動ノ各系統ニ及キス所ノ	Effects of Exercises produced on each

効應	
筋肉系統	
血行系統	
呼吸系統	
皮膚系統	
榮養系統	
神經系統	
△第四章	

靜息	
休憩	
睡眠	
睡眠時間ノ概則	

System of Body.	
Muscular System.	
Circulatory " .	
Respiratory " .	
Integumentary " .	
Nutritive " .	
Nervous " .	
Rest	
Recess.	
Sleep.	
General Rules for Sleeping Hours.	

賣 棚 書 林 刷 印

東京日本橋通二丁目
 同 二丁目
 同 芝三島町
 同 銀座二丁目
 同 南傳馬町二丁目
 同 本石町二丁目
 同 洲山町
 大坂心齋橋北久寶寺町
 同 南本町四丁目
 同 心齋橋北久寶寺町
 同 備後町四丁目
 同 北久太郎町
 名古屋本町二丁目
 同 玉屋町二丁目
 横濱辨天通三丁目
 東京京橋區龍山町

北畠茂兵衛
 稻田佐兵衛
 山中兵衛
 申市兵衛
 穴山嘉兵衛
 江島嘉兵衛
 大野書
 丸善支店
 中近堂支店
 三木美記
 梅原龜七
 柳原喜兵衛
 丸善支店
 片野東四郎
 丸善支店
 瀨關支店



